令和7年第2回(3月)筑紫野市議会定例会
第5回予算審査常任委員会

○日 時

令和7年3月18日(火)午前8時59分

○場 所

第1委員会室

○出席委員(22名)

委員長	上村和男	副委員長	城健二
委員	田中允	委員	横尾秋洋
委員	辻本美恵子	委員	赤司泰一
委員	高原良視	委員	西村和子
委員	原口政信	委員	白石卓也
委員	宮崎吉弘	委員	山本加奈子
委員	八尋一男	委員	古賀新悟
委員	坂口勝彦	委員	段下季一郎
委員	前田倫宏	委員	檜木孝一
委員	佐々木忠孝	委員	吉村陽一
委員	赤司祥一	委員	春口茜

○欠席委員(0名)

○傍聴議員(0名)

○一般傍聴者(0名)

○出席説明員(27名)

副市長	平嶋義伸	総務部長	嵯峨栄二
財政課長	高木伸泰	財政担当主任	伊龍志保美
市民生活部長	杉村真子	コミュニティ推進課長	吉田浩隆
コミュニティ推進担当係長	梅本裕貴	建設部長	野田清仁
都市計画課長	鶴川和宜	開発担当係長	三浦隆
開発担当主任	中島一尋	建築課長	永利啓次
空家対策・建築計画担当係長	山本裕介	空家対策・建築計画主事	三牧圭太

土木課長 深見勝彦
管理保全課長 菊武秀明
環境経済部長 平嶋頭治
環境保全・廃棄物担当係長 小椎尾公憲
農政担当係長 湊崎雄貴
商工観光課長 川口隆
商工観光担当主任 脇田政司

土木整備担当係長 坪井望
公園担当係長 原田裕介
環境課長 益永晃
農政課長 松永崇臣
農林土木担当係長 東泰弥
商工観光担当係長 武藤智史

○出席事務局職員（3名）

局長 荒金達
主査 阿部早苗

課長 高木美智子

開会 午前8時59分

○委員長（上村和男君） 皆さん、おはようございます。ちょっと時間が早いですが、皆さんおそろいですので、予算審査常任委員会を開会をしたいと思います。

今日は予算審査資料151ページの建設部に入りますので、野田部長がおいででございますので、一言御挨拶を受けて、そして説明のほうに当たってくれる所管課の職員を紹介していただいてから、審査に入りたいと思います。

それでは、始めます。野田部長。

○建設部長（野田清仁君） 皆様、おはようございます。建設部長を仰せつかっております野田でございます。どうぞよろしく願いいたします。また、日頃から都市計画、土木建築行政の円滑な推進に関しまして御理解、御協力を賜りましてありがとうございます。

令和7年度筑紫野市一般会計予算審査に際しまして、本日、本委員会から説明を求められました資料につきましては、都市計画課1件、建築課1件、土木課4件、管理保全課2件でございます。御審議をお願いすることになります。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、都市計画課職員が参っておりますので、自己紹介をさせていただきます。

○都市計画課長（鶴川和宜君） 都市計画課長を拝命しております鶴川と申します。本日はよろしく願いいたします。

○開発担当係長（三浦 隆君） 同じく都市計画課の開発担当係長をしています三浦と申します。よろしく願いいたします。

○開発担当主任（中島一尋君） 都市計画課で開発担当をしています中島と申します。よろしく願いいたします。

○建設部長（野田清仁君） どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） それでは、151ページの審査に入りますので、課長から説明願います。

鶴川課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） それでは、ブロック塀等撤去費補助事業、算出根拠、予定件数について御説明いたします。

予算審査資料は151ページとなります。

初めに、この事業の予算額は160万円でございますが、国2分の1、県4分の1の補助

金を活用して実施させていただきたいと考えております。

次に、事業の目的と内容でございますが、通学路や避難経路などの安全な通行を確保するため、地震による倒壊の危険性が高いブロック塀などの撤去費用の一部を補助し、安全安心なまちづくりを推進するものでございます。

次に、補助の対象でございますが、ブロック塀だけでなく石塀やれんが塀も対象としており、道路に面している、道路からの高さが1メートル以上のものを対象としています。また、診断により危険であると判定されたものとしておりますが、福岡県が示している診断カルテを活用して、危険であると判定されたものを対象としております。

補助の内容としましては、撤去する延長のメーター掛ける8,000円もしくは撤去費用の3分の2のどちらか低いほうの額としておりまして、上限は16万円としております。

次に、算出根拠と予定件数でございますが、令和6年4月から9月までの実績を基に見込んでおりまして、御覧いただきますように10件を見込んでおります。

予算としましては、表の下になりますけれども、補助上限額掛ける令和7年度の予定件数で計算されます160万円で事業を実施したいと考えているところでございます。

説明につきましては以上でございます。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりましたので、質疑に入ります。

坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） 説明ありがとうございました。この事業の目的、内容で、「通学路や避難経路等の安全な通行を確保するため」と書いてあります。申請数と相談数が令和6年度の4月から9月までは10件となっているんですけど、この都市計画課のほうも調査をして、「ここはちょっと危ないな」というところで申請を促すとかっていうことはされるんでしょうか。

○委員長（上村和男君） 鶴川課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） 周知についてのお話なのかなと思うんですが、まずお尋ねの、都市計画課から周知を、お知らせとかをやっているのかというところについては、まず一次避難所から半径500メートルの範囲内で、昨年から今年にかけて簡易の調査を実施しております。その中で職員で手分けして見ておりまして、目視の中で危険と思われたところについては戸別に訪問をして、制度の案内をして、「こういう補助金があるので活用されませんか」というところで、こちらのほうから言っております。

それ以外にも、ホームページであったり広報誌の周知に加えまして、通学路の安全推進

会議とか耐震化セミナーなどにも担当職員が出向きまして、制度の取組を説明しているという状況でございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 吉村委員。

○委員（吉村陽一君） すみません、この危険箇所というのは今把握している分で、あと残りといいますか、どのぐらいあるものなんですかね。把握されている分だけでも結構です。

○委員長（上村和男君） 鶴川課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） 今把握している分ですというところでのお尋ねでございます。先ほども申しましたが、一次避難所から半径500メートルの範囲内ですしている分でございますと、11件がちょっと危険じゃないかなというところになっておりますので、その部分については所有者さんのほうにこちらのほうから制度の御案内をして、撤去に向けてお話をさせていただいているという状況でございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） 説明ありがとうございます。

そもそも、このブロック撤去が始まったのが、皆さん記憶にあると思うんですけど、平成30年の大阪のほうでブロックが倒壊して、通学していた女の子が亡くなったということから始まっているんだろうと思うんですけども、それ以降、年々ですね、やっぱりブロック塀の撤収に対する補助というか、それでも施工する距離、メーター数が結構毎年延びているような状況。で、件数もちょっと上がり下がりがあるんですけども、今後、よりですね、まだこういうふうな件数が伸びているということは、まだ隠れているというか、予算が全額補助となっていないもみやから、やっぱりそういう懐事情もあると思うんですよ。

だから結局、先ほど答弁ありましたけど、危険な箇所で第一次避難所から半径500メートル以内ということでもありますけれども、なかなか促しというかですね、そういうところも費用の問題とかあって進んでいない。11件ありますという話ですけども、それ以外にもやっぱり、ブロック以外に石積みとかれんがとか書いてありますけど、やっぱりそういうところもきちんと、何ちゅうんですか、誘導じゃないですけど、お知らせというか、「危ないですよ」というのを事細かくやっぱりお伝えしないと、なかなかそういう工事に至ら

ないんじゃないかなという気がするんですけども、そこら辺はどう捉えてありますか。

○委員長（上村和男君） 鶴川課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） 今委員おっしゃっていただきましたように、一定、個人負担というのが3分の1ございます。これは国の補助制度の中でも、全国的に個人負担というのが3分の1というふうになっているところなんですけど、やはりおっしゃったとおり丁寧に説明をしながら、撤去の必要性というのを私たちも一生懸命訴えていかなければならないと思いますので、なかなか実務上も、1回行って「分かりました」という方もいらっしやれば、「分かるんだけども、ちょっと考える」というところのほうが、やっぱりそういう方のほうが多いので、そこはもう繰り返しですね、時間があるときに繰り返し折衝しながら、安全な道路、安全な通行に寄与するように、今後も一生懸命努めていきたいなと思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） ほかに質疑はありますか。

前田委員が早かったので、すみませんね。前田委員。

○委員（前田倫宏君） 先ほど宮崎委員のほうからこの背景について御説明がございましたけれども、今回は一次避難所から500メートル以内の範囲内で調査をされたというところで、今後ですね、一気に人的な部分も投資の部分もあって大変かと思えますけれども、徐々に通学路の点検等は検討されてあるのか、ちょっとお聞かせください。

○委員長（上村和男君） 鶴川課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） 通学路の安全点検については、教育委員会のほうで別途対応されてあるところではありますけれども、小中学校の校門から500メートル以内というのは過去に県のほうが調査をされているということがございましたので、今回は一次避難所ということでさせていただいております。それでも件数としては6,000棟ぐらいあったんですね。そこを職員で手分けして、2年かけて見て回ったというのがありまして、今はその中で把握できた、先ほど申しました11件について指導といたしますか、お願いをしている状況でございますので、その一定めどがついたら、次はまた二次避難所とかいう形でやっていこうと、都市計画としては考えています。

と併せて、お話がありました通学路についても、もちろんそこが大事なところになりますので、先ほども申しましたが、通学路の安全推進会議とか、通学路の安全点検においても、できる限り都市計画のほうも協力して、子どもたちの安全に寄与していきたいなと思

っているところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 関連ですね。前田委員。

○委員（前田倫宏君） 教育委員会のほうで、恐らく毎年ですかね、警察とかと一緒に点検をなさっているというところだと思うんですけども、その中で、先ほど県の診断カルテ等で判断されると言いましたけど、そういった中でもし、所管が跨ぐんでしようけども、そういったところで目安として、目視の中で危険だと思われるところを挙げてもらったら、都市計画課としても後で現地で確認するとかできるんじゃないかなと思うんですけど、そこはちょっと横断的にやっていただきたいなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） 鶴川課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） ありがとうございます。今お話があった、いわゆる連携の部分については、既にやっているところではありますけれども、点検される教育委員会とか保護者の方とか、そういう危険なブロックがあれば、まず都市計画のほうに言っただけであれば、うちの職員が見に行って、危険かどうかの判断をしておりますので、今後も引き続き安全な通学路に向けて努めていきたいな、連携を深めていきたいなと思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 結局ね、そういう勧告してもね、お願いしても、この撤去した後、また壁ちゅうですか、ブロックつけたり、何らかの方策しなければならないわけですからね、そこら辺の対策が講じられないと、「はい、分かりました」と素直に言えないと思いますですね。分かりますかね。

そしてまた、撤去に至らないまでも、たしか補強ですかね、壁の補強工事ですかね、そういうことに関しても何か補助金が出るようになっていきますかね。そこらあたりはいかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） 鶴川課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） 今お話がありました補強の部分については、経済対策の関連ということで、商工観光課のほうで耐震の分等をやっておりますので、そちらと一緒に、また、連携をしながらやっていきたいなと思っておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。田中委員。

○委員（田中 允君） ほら、今言ったように、撤去した後たい、何らかの工作を講じらないかんわけよ、ブロック塀のけたらね。そしたら今言ったように補強する、もうそこを予算がなければ補強する。そしてまた撤去してしまったら、じゃ、何か方策せないかん。そのときのあれが、助成とかそういうものがないとね、なかなか「分かりました」って、撤去できないんじゃないですかということを行っているんですが、それに関してどのような見解ですかね。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

休憩 午前9時16分

再開 午前9時16分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

係長。

○開発担当係長（三浦 隆君） 今、田中委員がおっしゃいました、ブロック塀を撤去した後の部分については、例えばフェンスをつけたりとかというところが考えられるかと思えます。その後の新設のフェンスなどに対する補助というものは商工観光課のほうで行っております。

以上です。

○委員長（上村和男君） これでやってるわけ。違うんじゃない。それも含めてこれでやるんじゃないの。いいですか。田中委員、もう一回確かめたほうがいいんじゃないですか。田中委員。

○委員（田中 允君） 商工観光課ね、そこで予算が、補助がついているということでございますので、それとセットで説明していけばね、向こうも「ああ、そうか」ってなってくる。ただ撤去だけで話を持っていってもね、相手方は今申しましたように、じゃ、後の方策とセットで持っていけば、ある程度理解していただけるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） 課長。

○都市計画課長（鶴川和宜君） 今、委員おっしゃっていただいたところを踏まえて、今

後さらに取組をやっていこうと考えております。現時点でも一緒にチラシを載せて啓発しているところではございますが、十分ではないというところもあるかと思っておりますので、そこはまた、さらにやり方を考えてやっていきたいなと思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 以上で質疑を終わります。次の事項に移ります。

所管課が替わりますので、ちょこっと休憩します。課長、お疲れでした。

休憩 午前9時18分

再開 午前9時19分

○委員長（上村和男君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

所管課が替わりましたので、野田部長から紹介をいただいた上で説明に入ってもらいたいと思います。

野田部長。

○建設部長（野田清仁君） 続きまして、所管課が替わります。

建築課職員が参っておりますので、自己紹介をさせていただきます。

○建築課長（永利啓次君） 建築課長、永利です。よろしくお願いします。

○空家対策・建築計画担当係長（山本裕介君） 空家対策・建築計画担当係長の山本です。よろしくお願いします。

○空家対策・建築計画担当主事（三牧圭太君） 空家対策・建築計画担当の三牧です。よろしくお願いします。

○建設部長（野田清仁君） どうぞよろしくお願いします。

○委員長（上村和男君） じゃ、審査資料152ページ、説明をお願いいたします。

永利課長。

○建築課長（永利啓次君） 皆さん、お疲れさまです。

耐震改修促進事業の審査に入る前に、令和5年度の決算報告における令和7年度予算に反映すべき事項の御指摘がございましたので、説明させていただきたいと思います。

予算審査資料は9ページになります。6番目の国県補助金を活用した住宅の耐震化の促進及び周知について御説明させていただきます。

耐震化及び省エネ化を促進するために、旧耐震基準で未耐震の木造戸建て住宅に対する

補助金の予算を、令和6年度の480万円から令和7年度には1,200万円へ増額で予算要望しております。

詳しい内容についてはまた飛ばさせていただきますけれども、予算審査資料の152ページで御説明させていただきます。

事業予算額は、令和7年度は、先ほどもお伝えしましたが1,200万とさせていただきます。

内容でございますが、国庫補助金として450万円、県補助金として600万円、残りを一般財源から150万円を予定しております。

次に、事業の目的、内容につきましては、本事業は耐震化及び省エネ化を促進し、地震に強い安全安心なまちづくり及び脱炭素社会の実現を図ることを目的としております。昭和56年5月31日以前に建築され、耐震診断の結果が、上部構造評点が1未満である2階建て以下の木造戸建て住宅に対し、耐震改修工事と省エネ改修工事を併せて行う住宅性能向上改修工事を行う場合に、予算の範囲内で経費の一部を補助金として交付します。また、下の米印で記載していますが、先ほど説明した条件を満たす住宅の建て替えや、解体して耐震性能がある住宅に住み替えるなどする場合なども、除却の工事に対しても対象となっております。

1件当たりの補助金額は、工事費に対して60%で上限が80万円としております。内訳としては、耐震改修工事が上限60万、省エネ改修工事が上限20万円です。申請者が上限80万円補助金を要望されたと仮定すると、令和7年度は申請件数を15件分、予算確保を要望させていただいているところです。

以上で御説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方、挙手願います。

宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） すみません、説明ありがとうございます。

今、ここが一番最後のただし書で、建て替えなどに伴う除去工事、これも補助金の対象としているというふうに説明がありましたけれども、例えばなんですけど、これは規定で2階建てですよ、規定ではですね。で、2階建てから耐震とかそういったものも伴う、1階建てに建て替える場合とかもこういうふうに含まれるんでしょうけど、ただ、その解体費用、除去工事ですよ、これの費用がやっぱり同じようになってくるんでしょうか、この60%とか、耐震と省エネで60%ということに理解してよろしいんでしょうか。

○委員長（上村和男君） 課長。

○建築課長（永利啓次君） 除去工事の補助金も60%で、マックスが60万円となっております。

○委員長（上村和男君） ほかありますか。

坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） この「昭和56年5月31日以前に建築され、耐震診断の結果」とあるんですけど、この56年5月31日というところがちょっとこう、例えば判断されるときに、これ以降の部分もあつたりとかもするんですけど、ここをもうちょっとざくっとこう、幅を広げたりとかっていうのはできないのでしょうか。

○委員長（上村和男君） 永利課長。

○建築課長（永利啓次君） 建築基準法が改正されたのが昭和56年6月1日から新基準に改正されていまして、その基準の建物が倒壊するおそれが極端に減っているというのが現実に分かっております。国としては、その以前の旧耐震基準を、まずは最初になくしていこうという方針ですね。その旧耐震がある程度整備されれば、今度は国の方針がどうなるか分かりませんが、新耐震でも今の基準に合っていないのはたくさんあります。その分についてもまだ改善していこうという方針になれば、私たちのほうも補助金を出していきたいと思っています。

ただ、もう一つあるのが、今、商工観光が持っています経済対策の10万円補助、あちらについては、新耐震の改修も10万円補助を出しておりますので、今、相談が私たちのほうにあった場合は「そちらのほうで改修したらどうですか」というお答えをしております。

○委員（坂口勝彦君） はい、ありがとうございます。

○委員長（上村和男君） 八尋委員。

○委員（八尋一男君） 単純な質問で申し訳ないですが、9ページを見せていただいたら、予算額を令和6年度の1,200万円から令和7年度は1,500万円とこうなっていて、152ページは1,200万円そのままですけど、これは私の理解不足ですかね。

○委員長（上村和男君） 永利課長。

○建築課長（永利啓次君） 八尋委員が見られているのが、下の経済対策のほうを見られているかと思います。経済対策のほうで300万円増やして今年1,500万円ですね。私たちのほうは480万円から1,200万円、ここは6番目に二つ記載されているので、多分そちら、下のほうを見られていたかと思います。

○委員（八尋一男君） 分かりました。大変失礼しました。

○委員長（上村和男君） 白石委員。

○委員（白石卓也君） 15件と想定されているんですけど、15件を上回る申請があった場合、例えば工事が先に済んで、来年また同じ制度があったら、それで申請ができるんですか。

○委員長（上村和男君） 永利課長。

○建築課長（永利啓次君） 今うちのほうに相談があっている件数が、28件あっております。その中で9件が耐震診断をされて、今のところ未耐震という報告を受けているところです。15件分あればまず9件分は確保できていますので、残る6件につきましては、その28件、残りの19人の方ですが、その方がどうされるのか、一斉に来られると手に負えないんですけど、まず耐震診断を必ずしなくてはいけないので、耐震診断される機関から本市に前もって情報が来ます。

今のところ、その残りの19人の方が耐震診断されたという情報は来ていませんので、残り6件分確保しておけば、今年度はまだ足りるかなと思っておりますが、もし、予算が6月とか9月ぐらいでなくなった場合、前回ちょっといろいろあったんですけど、その補正が、予算要望が間に合えば、その間に合う時点で話していきたいと思っておりますけど、もし9月とか12月になったら工事が間に合わなくなってきますので、そのときは、次年度できるかどうかなど、いろいろお話ししていきたいと思えます。

もう一つ言われた、事前に工事して来年要望できるかという件につきましては、この補助金制度は事前に申込みが必ず必要ということになっておりますので、必ず、補助金を受けられるという方は工事される前に申請していただく必要がございます。その辺りを注意していただきたいと思えます。

以上です。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 説明の中で、耐震診断に基づいてこの補助金が活用されるという説明がございましたけれども、今、筑紫野市においては、福岡県の耐震診断のアドバイザーの派遣制度だったり、あともう一つが、福岡市の耐震推進協議会が行う耐震診断制度があります。こちらの福岡市の耐震診断制度に関しては、昭和25年以降で平成12年の5月31日までに建築された木造住宅となっていて、その場合、例えば平成になって建てられた方、福岡市の診断のを派遣して、それで耐震基準が満たされないとなった場合は、この補

助金はいくまでも昭和56年5月31日以前には使えないということですかね。確認です。

○委員長（上村和男君） 永利課長。

○建築課長（永利啓次君） この補助金は、前田委員もおっしゃったとおり昭和56年5月31日以前の分しか使えませんが、平成12年までのほうというのが新耐震基準の中でも弱く、改修したほうが良いと言われていたところなんです。なので、福岡市の耐震協議会の方はそこも調べてもらっています。もしそこで改修が必要だという相談に来られたときは、先ほども言いましたけど、10万円補助の経済対策のほうで今はお願いしているところがございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 経済対策のところではちょっと角度が違いますが、そういう議論もあると思いますので、これで質疑を打ち切りたいと思います。

課が入れ替わりますので、しばらく休憩します。お疲れでした。

————— . ————— . —————
休憩 午前9時31分

再開 午前9時32分
————— . ————— . —————

○委員長（上村和男君） それでは、所管が替わりましたので、野田部長から紹介をしていただいてから再開をしたいと思いますので、野田部長。

○建設部長（野田清仁君） 続きまして、また所管課が替わります。

土木課職員が参っておりますので、自己紹介をさせていただきます。

○土木課長（深見勝彦君） 土木課長の深見でございます。よろしくお願いいたします。

○土木整備担当係長（坪井 望君） 土木課、土木整備担当係長をしています坪井といたします。よろしくお願いいたします。

○建設部長（野田清仁君） どうぞよろしくお願いいたします。

○土木課長（深見勝彦君） よろしくお願いします。

○委員長（上村和男君） それでは、審査資料156ページ、ちくし台団地舗装整備事業、整備の内容について課長から説明願います。

深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） ちくし台団地舗装整備事業につきまして御説明いたします。ページは126ページでございます。よろしく申し上げます。

事業予算額は1億2,582万9,000円でございます。内訳につきましては、その他、ちくし台団地道路舗装負担金が4,230万円、一般財源が8,352万9,000円となっております。

事業の目的は、下水道布設工事に伴う舗装復旧と併せて、老朽化した舗装整備を行うものでございます。ちくし台団地につきましては令和3年度から下水道整備を行ってまいりましたけれども、令和6年度をもちまして整備が完了しましたところでございます。令和7年度におきましては、老朽化していることや、これまでの上下水道やガスの整備に伴いまして、舗装面の状態が非常に悪い状態であることから、団地内のアスファルト舗装を全面復旧することで、安全の確保を図るものでございます。なお、下水道布設した部分の復旧につきましては、上下水道工務課が負担することとなっております。

以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） 説明ありがとうございます。

この団地内の市民の方から、取替工事とか終わって、すごく凸凹していると。もう車で走っていてガタガタガタガタいう、工事が粗悪な工事じゃないかということ相談を受けたことがあるんですね。今回こういうふうに団地内の整備が終わったということで舗装されるんですけども、これは期間とか、例えば何というんですか、「仮舗装です」というような周知とかされているんでしょうか。その点を伺いたいと思います。

○委員長（上村和男君） 課長。

○土木課長（深見勝彦君） 令和3年度から工事しておるところでございますけれども、通常、下水道工事をやるのが、仮復旧した後に同じ工事で、長くて1か月とか短くて1週間とか置いた後に、1回剥ぎ取って本復旧してやるんですけども、この団地につきましては、令和3年度から令和6年度までかけて工事を行ったことと、あとは上水道とガスとかの、この写真を見ていただくと分かるんですけども、結構もう舗装面が傷んでおるような状態だったので、本来であれば、本復旧まで年度ごとにやるのが本来のやり方ではありますけれども、ここにつきましては、もう最終的に併せて全面復旧するということが地元のほうにも御説明差し上げて、できる限り復旧、修繕とかを行いながら、ちょっと我慢していただくような状況になったんですけども、今回、全体をすることで安全確保を

図っていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

以上です。

○委員長（上村和男君） 宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） そうしましたら今言われたように、近隣というかこの団地内に、仮復旧というか、転圧とかいろいろな話があるんでしょうけども、取りあえず仮復旧をしましたということは周知はされていたということによろしいですかね。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 工事前に、説明会とかそういったところでお話はさせていただいているところでございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。

檜木委員。

○委員（檜木孝一君） 先ほど説明の中にあつたかと思えます4,230万円、ちくし台団地道路舗装負担金の説明を、すみません、もう一度お願いいたします。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 下水道工事したところにつきましては、下水を入れるために舗装を破って、また復旧するところがあるところ、下水道工事としてこれが補助対象事業として計上することができますので、その部分については下水道の負担金ということで上げさせていただいているところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） ほか、質疑ありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、この項目はこれで終わります。

じゃ、157ページに移ります。課長から説明願います。

本事業は、今定例会において補正予算の提案がっております。2月28日に開催されました本委員会において、この集中審査にて、令和7年度筑紫野市一般会計予算及び令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第1号）に係る事業内容説明を併せて受けることになりましたので、よろしく願いをいたします。

なお、当初予算審査後に行われる補正予算審査においては、所管課が出席しての事業内容説明は行いませんので、補正予算に関しての質疑がある方はこの場で行っていただきませうようお願いを申し上げます。

それでは、財政課長。

○財政課長（高木伸泰君） すみません。それでは、道路整備事業の事業内容の説明に先立ちまして、今回まず財政課のほうから、補正第1号の内容に関連します国庫補助金の内容、それから減額の経緯、そして対応策としての財源の配分について御説明をさせていただきたいと思います。

こちら別冊としております補正予算資料、こちらの3ページを御覧いただけますでしょうか。3ページでございます。

こちら、交付金活用の背景としましては、第七次総合計画に掲げる観光の振興、地域コミュニティによるまちづくり、防災・減災対策の推進などの施策を効率的かつ効果的に推進するために、社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）、こちらを活用するものでございます。

1の国補助金の概要でございます。都市再生整備計画事業、こちらにつきましては、社会資本整備総合交付金の中の一つの補助メニューでございます。本交付金の目的は、市町村が行う歴史・文化・自然環境等の特性を生かした個性あふれるまちづくりを総合的に支援し、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るというものでございます。交付率につきましては40%でございます。

地区要件が定められておりまして、①がコンパクトなまちづくりの推進ということで、鉄道駅やバス停留所に近接する市街化区域であることが要件となります。市が活用を予定している事業として、コミュニティセンター建設事業、道路整備事業（二日市西）等がございます。

次に、②が観光等地域資源の活用ということで、観光等地域資源の活用に関する計画がある市街化調整区域などであることが要件となっており、日本遺産であることを条件に、三つの事業、道路整備事業（武蔵）、天拝公園周辺整備事業、天拝山展望台リニューアル事業、こちらにおいて活用を予定していたところでございました。

2の国庫支出金減額の理由及び対応策でございます。

地域要件②を適用して、市街化調整区域における観光振興事業3事業の実施について国に事業計画を提出しておりましたが、日本遺産「西の都」の候補地域への移行に伴いまして、地区要件②の適用に必要な条件を満たせなくなったという判断が下されました。よって国の指導に従い、天拝公園周辺整備事業等の3事業を計画から除外し、当該事業見合いの国庫支出金を減額するものでございます。

しかしながら、道路整備事業（武蔵）の一部や天拝公園周辺整備事業、天拝山展望台リニューアル事業につきましては、第7次筑紫野市総合計画の推進にも欠かせない事業であり、日本遺産の再認定に求められます構成資産の魅力や回遊性の向上等にも資するものでもありますことから、ふるさと応援寄附金を原資とする創生振興基金等を充当することにより、事業の実施をするものでございます。

次の4ページにつきましては、都市再生整備計画事業の制度概要を示したものになります。説明が重複はいたしますが、右側部分の黄色のマーカで示した箇所が地区要件となっております。このうち下のマーカで示されております、要件②市外化区域等の外側における観光等地域資源の活用と書かれた部分が、日本遺産であることを要件とされたものでございます。

次に、提案しております3事業の財源の配分について、それぞれ説明をさせていただきますと思います。

まずは5ページをお開きください。道路整備事業でございます。表の2段目になります。事業予算額やその財源を表した部分を御覧ください。本事業につきましては、日本遺産関連だけではなくその他の市道も含めておりますので、予算額は7,905万9,000円としておりました。この後、土木課が説明をいたしますが、一部事業を見直しまして297万9,000円を減額し、予算額を7,608万円とするものでございます。

その右の国費については、都市再生整備計画事業分576万9,000円を減額し、充当額を2,584万円とするものでございます。

右のその他につきましては、公共施設等整備基金繰入金でございます。国費の減額分から事業見直し分を引いた額、こちらの不足額を基金と一般財源から2分の1ずつ充当するもので、具体的にはその他基金を139万5,000円、一般財源を139万5,000円増額し、充当額をそれぞれ2,512万円とするものでございます。

次の事業になりますが、7ページをお開きください。天拝公園周辺整備事業でございます。同じく表の2段目を御覧ください。こちらは、日本遺産の候補地移行に関連しまして、国費である都市再生整備計画事業分を319万8,000円皆減するものでございます。それに伴いまして、ふるさと応援寄附金を原資とする創成振興基金の繰入金として319万8,000円を充当するものでございます。

もう一つの事業になりますが、次に8ページを御覧ください。天拝山展望台リニューアル事業でございます。同じく表の2段目を御覧ください。こちら日本遺産の候補地移行

に関連し、国費である都市再生整備計画事業分を2,568万円皆減するものでございます。右のその他でございますが、当初から創生振興基金繰入金を充当しておりましたが、同基金からの繰入金を増額し、5,432万2,000円を充当するものでございます。

以上が、国庫補助金減額の経緯と各事業の財源配分内容の説明となります。

それでは、土木課による事業内容の説明へと入らせていただきます。

○委員長（上村和男君）　じゃ、軽くやってください。どうぞ。

○土木課長（深見勝彦君）　それでは、道路整備事業について御説明いたします。127ページとなっております。よろしく申し上げます。

○委員長（上村和男君）　157ページね。

○土木課長（深見勝彦君）　すみません、157ページをお願いいたします。

事業予算額につきましては、7,905万9,000円でございます。内訳としましては、国庫補助金として3,160万9,000円、その他公共施設等整備基金繰入金が2,372万5,000円、一般財源が2,372万5,000円となっております。

事業の目的は、市民の利便性向上及び自然災害時の避難路確保などを図るため、市道路線の改良を行うものでございます。

事業の内容につきましては、市内の狭隘な道路の改良や安全対策工事を行いまして、市民の利便性向上及び安全の確保を図ることでございます。令和7年度につきましては、道路の詳細設計としまして、大字古賀、二日市西、紫四丁目、武蔵の4路線を計上しておるところでございます。また道路改良工事としまして、二日市北・二日市西の2路線、あと落石対策工事としまして、武蔵の1路線を計上させていただいておりますので、御確認をよろしくお願ひしたいと思っております。

続きまして、令和7年度1号補正予算資料を御覧いただけますでしょうか。先ほどの財政課からの御説明と重複する部分がございますが、改めて御説明させていただきます。

国庫支出金が減額となったことに伴いまして、事業予算額が7,905万9,000円から297万9,000円減額の7,608万円、国庫支出金3,160万9,000円が576万9,000円減の2,584万円、その他公共施設等整備基金繰入金2,372万5,000円が139万5,000円増の2,512万円、一般財源2,372万5,000円が139万5,000円増の2,512万円となっております。

事業内容につきましては、業務委託を予定しておりました武蔵地区、これが内容につきましては、天拝山登山道整備のための設計でございましたが、今回、国庫支出金が減額と

なったことに伴いまして、当面はこれまでと同様に路面の状態を随時確認しながら、補修や修繕を行いながら対応していくことでやっていきたいと考えておるところでございます。また、落石対策工事につきましては国庫支出金が減額となりましたが、天拝山登山道利用者の生命に関わることから、安全確保のためにも当初予定のとおり工事を実施させていただきたいと考えておりますので、よろしく御審査のほどお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりましたが、質疑に入りますが、ちょっと休憩しましょうかね。10時5分から再開をいたします。質疑を整理しておいていただければありがたいです。

休憩 午前9時54分

再開 午前10時05分

○委員長（上村和男君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開をいたします。

説明が終わりましたので、質疑に移ります。質疑のある方は挙手を願います。

前田委員。

○委員（前田倫宏君） 落石対策工事についてお伺いいたします。今回補正等がございまして、一部事業の見直し等に伴って一般財源その他、国の部分の補助金等が様々入れ替わっているところでもありますけれども、そういった落石に関しては、防災の観点から、国の何らかの補助事業であるとか県であるとか、ちょっとその辺は分かりませんが、そういった補助対象になるんじゃないかと思うんですけれども、その辺調査されたのか、お伺いしたいと思います。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 災害復旧としましては、実際壊れて落石があったとか、崖崩れがあったとか、そういった部分につきましては、災害復旧工事としての対応が可能だと考えております。今回、落石対策工事につきましては、資料の2枚目のほうの写真を添付しておりますけれども、今後落石が起こるんだろうという、私たちが現地を見て感覚的に見た部分なので、これを災害復旧事業にというのがなかなか難しいところですが、ちょっと危険かなというところで、今回、一般財源を使わせていただいてネット設置をしまして、安全性確保に努めていきたいと考えておるところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） 春口委員。

○委員（春口 茜君） 天拝公園周辺整備の財源についてお伺いしたいんですけども、「西の都」の日本遺産認定取消しに伴って国庫が減額されたということですけども…。ああ、それはまだ次。すみません。じゃ、次にお伺いさせていただきます。

○委員長（上村和男君） まだ説明が終わってないから。

宮崎委員が手を挙げとったね。宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） 今、先ほど前田委員とのやり取りで、落石の部分はネットを張るということですけども、狭隘な古賀のほうなんですけど、これ、写真で見るとは、狭隘って言うぐらいやから、拡幅をされるのかなとただ単純に思ったんですけど、そうなるのと、この土手のほうのセットバックじゃなくて、田んぼのほうにセットバックという形になるのでしょうか、お尋ねします。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 委員言われるとおり、田んぼのほうに約2メートルぐらい拡幅する必要があります。狭隘道路整備事業といいますのが、4メートルない道路の拡幅工事について、用地費であったり、あと測量設計費であったり、あとは工事費も含めまして国庫支出金の対象になりますので、そういったところでこの事業についても取り組んでまいります。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 白石委員。

○委員（白石卓也君） 幾つかの箇所であれで、落石等はもう早く対策をしないとイケないと思うんですが、あと、防災とかいろんな改良工事ということで箇所が選定してあるんですが、箇所の選定のプロセスみたいなものがあるのか、これ以外に箇所選定について候補地があったのかどうかというのを、ちょっと教えていただけますか。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 今回挙げている部分につきまして、まずは地域からの要望であったりとか、あとは都市再生事業につきましては、駅周辺の道路の狭小なところとか、あとは整備がされていないところとかを私たちが現地調査したところで、一応決めているところもあります。

箇所選定のプロセスですけども、まず要望があったところの現地確認とか、あとはどう

しても、先ほどの農地のほうに拡幅しますという話がありましたけども、地域の方の御理解であったり、用地を持ってある方の御協力であるとか、そういったところの御理解を得られたところから進めていくというようなところで、どうしてもその辺の御理解をいただけないところについては、根気よく話し続けて進めるといったところを私たちもやっていきたいとは考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 白石委員。

○委員（白石卓也君） ありがとうございます。二日市西というのが2か所ここに出てきているんですが、1か所はコミセン絡みの話かなと思ったりもするんですが、二日市西に限らず、市内に狭隘はすごくたくさんあると思うんですよ。ぜひインフラ、私たちが生活する中で、本当に離合さえできないというようなところがたくさんありますので、なるべく多く意見を聞いていただいて、市民の利便性を高めていただきたいなというふうに思っておりますが、何か御意見があればお願いします。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 委員さん言われるとおりの、いろんな狭小な道路とかございます。全てをここの古賀みたいに拡幅できるところ、できないところ、いろんなところがございまして、そこそこに見合った対応、例えば交通安全のための路面標示であったりとか、そういった部分で対応できるところについてはやっていくというところで、全てを拡幅というのはなかなか難しい話ですけども、そういったできる部分を検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 段下委員。

○委員（段下季一郎君） 二つあります。この二日市の北のほうの、ここってたしか私道だったんじゃないかなと思うんですけど、ここの工事、市道になったという理解でいいんでしょうかというのが1点目で、二つ目が、紫の2丁目のここ、橋だと思うんですけど、たしかこの2か所は手すり物すごい低い橋が架かっていると思うんですけど、手すりがちょっとぐらい高くなったりするんですかね。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） まず二日市北の分ですけども、言われるとおりの私道になっておりますが、今回は市道として、狭小ですので整備するというところで考えております。

紫の2か所につきましては、橋がもうそもそもが老朽化しているような状況ですので、今回設計することで、どういった形になるかはまだ分かりませんが、整備を考えておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 田中委員。

○委員（田中 允君） それでさっき説明がありましたけどね、地元の合意とか協力とかありましたけど、それは要するに拡幅工事等の、その部分の土地を無償で提供していただくということでございますかね。そこの理解ね。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 用地もでございます。あとは、例えばブロック塀であったりとか、そういったのがあるのをちょっと引いて移設するとか、そういった御協力をいただけるというところで考えております。

○委員長（上村和男君） いや、ちょっと途中だから。

○土木課長（深見勝彦君） 土地については分筆して提供いただけるというところで、御協力いただけるところについて整備を進めてまいる考えでございます。

○委員長（上村和男君） 課長、あのね、あっちに説明するんじゃないかと、質疑をしていただいたら、みんなに説明をするような姿勢でお願いします。向こうを向いてやっておられると、自分たちだけでやれという話になりかねないのでね。説明はみんなにしてくださいね。

○土木課長（深見勝彦君） 申し訳ございません。はい、分かりました。

○委員長（上村和男君） 田中委員、何か関連でありますね。はい、田中委員。

○委員（田中 允君） やはり提供というのは、無償で提供ということで理解していいですかね。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 無償で提供していただくというのが私たちとしては望ましいんですけども、狭隘道路整備事業については、有償で買う場合もその補助金対象になりますので、それはもう場所によってというところになってくると思います。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、次の項目に入りましょうか。159ページに入ります。

じゃ、深見課長、説明をお願いします。はい、深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 続きまして、天拝公園周辺整備事業につきまして説明いたします。159ページでございます。よろしく申し上げます。

事業予算額は6,802万2,000円でございます。内訳は、国庫支出金として319万8,000円、一般財源が6,482万4,000円となっております。

事業の目的につきましては、天拝公園、天拝山、武蔵寺などの観光資源を利用される方々のさらなる利便性向上を図るため、駐車場の整備を行うものでございます。本事業につきましては、令和6年度に行いました駐車場の整備や既設道路の改良工事の継続事業となっております。令和7年度におきましては、駐車場の舗装の工事を行いまして駐車台数を確保することで、市民の皆様及び公園利用者のさらなる利便性向上を図ることと併せて、当該用地を土地開発公社より取得するものでございます。

補正予算の資料の7ページをお願いいたします。続きまして、令和7年度1号補正予算資料でございます。先ほどの財政課の説明とまた重複することもございますけども、お願いいたします。

国庫支出金が減額となりましたので、国庫支出金319万8,000円がゼロになりまして、その他、創生振興基金繰入金が319万8,000円となっております。一般財源は変更ございません。

事業内容につきましては当初と変更ございませんが、改めて本事業によりまして、市民の皆様や公園利用者のさらなる利便性向上を図るため、よろしく御審査のほどお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 質疑のある方。

山本委員。

○委員（山本加奈子君） すみません、これ、用地取得に予算が大体、約6,000万円ぐらい計上されているんですけど、この駐車場をするためのあれだと思うんですが、広さをお尋ねしたいのが一つと、もう一つ、駐車場が約30台ということで、障がい者スペースはそのうち何台ぐらいを考えているのか、2点お尋ねします。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） まず広さですけども、約740平米となっております。

あとは、今ちょっと枠を図面に描いておるんですけども、最終決定じゃございませんので、台数に対しまして、障がい者用の台数は基準がありますので、それに見合ったところで整備したいとは考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

はい、八尋委員。

○委員（八尋一男君） これは土地を買収するということですかね。それとも、駐車場整備だけで6,800万円かかるということですかね。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 内訳としましては、工事請負費、舗装工事につきましては大体770万円ぐらいを考えております。土地開発公社からの土地の購入につきまして、約6,000万円を計上しておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 春口委員。

○委員（春口 茜君） すみません、先ほど申し上げていたところで質問させていただくんですけども、「西の都」の認定取消しということで、財源について伺いたいですけれども、もともと県が主導でされるということだったので、取り戻す予定なら、県のほうの財源がどこを使われるのか分からないですけど、県にその財源の要望をできないのかというのが一点ございます。

あと、都市再生整備計画事業の要件の1のところ、「立地適正化計画策定に向けた具体的な取組を開始、公表」というふうに書いてあるんですけど、本市は開始が公表されているのか、ちょっと確認でお伺いいたします。

○委員長（上村和男君） 後ろが言うたほうがよかことがあるやろね。はい、財政課長。

○財政課長（高木伸泰君） こちらの都市整備計画事業の補助金についてでございますが、こちらにつきましては国土交通省に補助金の申請を行うものでございます。特にそのほかに、県のほうの財源というのは特にないところでございます。

続きまして、立地適正化計画の現状についてでございますが、現在、立地適正化計画については策定はしていない状況でございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 春口委員。

○委員（春口 茜君） すみません、策定されていないということですが、要件に入っているのですが、どういう状況なのかももう少し詳しくお伺いしたいのと、あと、県の宿泊税の使途で観光整備とかが入っているはずなんですけれども、その点でもう少し強く要望できないのかなというのを伺いたします。

○委員長（上村和男君） 財政課長。

○財政課長（高木伸泰君） こちら、「立地適正化計画の策定に向けた取組を開始」というところが条件になっているところがございます。予算書の129ページを御覧いただきたいと思います。前のページの128ページからの続きになりますが、都市計画課一般事務事業、こちらに129ページにかけまして、立地適正化計画策定業務委託料を計上しているところがございます。令和7年度に予定をしているところがございます。

それから、県の宿泊税交付金につきましては、別途、次の天拝山展望台リニューアル事業になりますが、そちらに充当する予定としておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 特定財源に関連してなんですけれども、例えば観光庁であれば、観光客の受入れ整備であるとか、そういったところの観点から何か活用できないのかなというふうに思ったんですよね。そういった調査とかもされたりしているのか。なるべくその基金をですね、今回充てておりますけれども、なるべく国の予算、県の予算を活用すべきだと考える観点から、ちょっと説明をいただきたいです。

○委員長（上村和男君） 財政課長。

○財政課長（高木伸泰君） こちらは観光関連の補助金ということでございますが、例えばこの別添資料4ページ、こちらの都市再生整備計画事業、こちらの要件②のところ、例えば観光圏整備実施事業であったり歴史的風致維持向上計画、そういったところが記載はされているところがございます。ただ、こちらにつきましては、例えば県域で市町村をまたいで行ったりするような事業になりますので、今回につきましては、この（3）の事業を適用を考えていたということになります。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） こちらの都市再生整備計画事業というものは国交省の補助金じゃないですか。私が言っているのは観光庁の話なんですよね。なので、そういったところも

含めてやっぱり今回、まあ「西の都」も様々な背景もございますけども、まずは市として観光的な部分の資源をどう生かすかというところが、今回の評価につながっているかと思うんですよね。そういった観点から、やっぱり本市として観光に位置づけしてから、そのルートの整備というものをちゃんと示すような計画もまず必要だと思いますし、そういったところで様々な財源を確保していくというのが求められているんじゃないかなと思うんですけれども、その点をお伺いいたします。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

休憩 午前10時26分

再開 午前10時28分

○委員長（上村和男君） 会議を再開をいたします。

財政課長。

○財政課長（高木伸泰君） すみません、こちらにつきましては、今回2月の初旬に日本遺産の候補地移行という決定がなされまして、その際、この事業をどうするかという検討を行ったところでございました。その中で、総合計画に資するものであるということで事業実施の方向付けをしたところでございます。補助金につきましては、事業を進めていく中で活用できるものがあれば、検討してまいりたいと思います。

○委員長（上村和男君） 横尾委員。

○委員（横尾秋洋君） 一つの大きなテーマで、今回のこの「西の都」の件が出てきたんですけど、これは前回も、教育部のデジタル庁のあれで1億円補助金を取る予定が取れなかったということもあるし、今回もそういうふうな形があって、よその市を聞いたら、「いや、そんな予算計上していませんよ」という話を聞くし、筑紫野市だけちょっと先走りしてこういう予算を組んだのかなという気がするので、補助金でそういう形を取るときには、もっとしっかりとして、財源確保の本当に見通しが取れて予算計上するようにしていただきたいなという、ちょっとこれは苦言ですけども、提言したいなと思っています。

以上です。

○委員長（上村和男君） 財政課長。

○財政課長（高木伸泰君） 横尾委員おっしゃるとおり、予算計上する際には、しっかり確認をして計上はしたいと思いますが、その中で交付決定の時期であったり、国県

との協議の中での事情等もありますので、そこは予算計上の中でしっかり確認はしていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。申し上げておきますが、財政課長も「第七次総合計画に沿うものである」というふうなこともお話しになりまして、そうすると、あなた方、この前と後ろだけでは答える立場にいないかもしれないので、もう少し休憩しますので、平嶋副市長か何かに来てもらってお話をさせていただいたらいかがですか。

しばらく休憩します。

休憩 午前10時31分

再開 午前10時33分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑に対して言うておくことがあれば言うてください。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、次に行きます。いいですね。先ほど申し上げたように宿題としておきますが、当委員会で取扱いはもう一回皆さんにお諮りいたします。

じゃ、次の項目に移ります。160ページに入ります。

深見課長、お願いいたします。

○土木課長（深見勝彦君） 160ページでございます。市営鷺田川周辺治水対策事業について御説明いたします。

事業予算額につきましては、8,857万1,000円でございます。内訳は、県の補助金が1,475万円、地方債が5,230万円、その他公共施設等整備基金繰入金が1,076万円、一般財源が1,076万1,000円となっております。

事業の目的は、近年の集中豪雨における市営鷺田川周辺の浸水被害を軽減するため、今後の治水対策を様々な方面から検討することです。令和7年度は、対象地区内の浸水被害対策の効果を検証するための浸水解析業務を考えております。これは雨が降った状態をシミュレーションしまして、治水施設の効果を検証する業務です。これにより、効果的な整備箇所の選別や今後の整備順位を見いだしていきます。また、この結果を基に、新規の治水施設を整備するための検討業務と併せまして、委託費としまして

5,203万2,000円を計上させていただいております。

また、既存施設の治水機能強化のため、鷺田川のしゅんせつ工事、それと天拝公園の池上池のしゅんせつ工事としまして、工事費を3,653万9,000円計上しまして、治水対策に取り組んでまいります。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は。

赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） ありがとうございます。この鷺田川周辺の水害の対策が進み出して、すごくありがたいことなんですけれども、ちょっと2点伺います。

この解析からスタートして、以前一般質問させていただいたときに、6年計画で一応ここをやっていくというようなお話もちょっとあったかと思うんですけれども、この解析から始まって、この4か所ですね、ここで塗られているこの網かけのエリアの対策までを、今時点で6年ぐらいで終わらせれるというふうに見込んでいるのかどうかというのを教えていただきたいのが一つと、二つ目は、具体的に既存施設の治水機能強化のためということで二つ、この清川橋ですかね、この2か所が今回具体的に工事をされるということなんですけど、ここの二つの選定理由と、あと、この二つ以外に、すぐにでも工事にかかれて治水対策できるような箇所がこれ以外にもあるのかどうか、併せて教えていただければと思います。

○委員長（上村和男君） 課長。

○土木課長（深見勝彦君） まず6年計画というのが、これが、この治水対策事業が事業によって短期と中期と長期ということで分けて進めていきたいという話を以前させていただいたと思います。その中で短期と申しますと、今回計上させていただいているような河川やため池などのしゅんせつ工事、また中期としましては新たな治水施設の整備など、あと長期としましては河川の本川の整備というところで捉えているところでございます。

6年というのが具体的にどれかという話になるとなかなか今の段階では難しいんですけど、大体、中期の治水施設の整備あたりにそれぐらいは時間を要するのかなというところで今思っております。また長期については、もう10年とかそういったスパンの河川整備になりますと、用地の関係とか、あと下流域の整備と整合を取る必要とかもございまして、そういった期間を要するのかなと今のところ考えておるところでございます。

今回、今年度ここを選んだ理由としましては、鷺田川のまずしゅんせつですけども、こ

ちらにつきましては、本当に周辺の皆様からは毎年御心配の声をいただきまして、要望あたりもいただくところがございます。そこで今現在、写真に写っているような堆積している土砂を梅雨前に撤去することで、少しでも安全を確保していきたいと考えておるところです。

あと、ため池のしゅんせつにつきましては、ため池が今現在、農地が減少していることで農業用水として活用されていないようなため池が複数あることが分かりましたので、この池上池につきましては、この写真のとおり大分土砂が堆積しておる状況ですので、これをしゅんせつで泥を取ることによって少しでも容量を確保しまして、下流域への影響を大雨のとき抑える役割を、このため池に効果を期待しておるところで選定したところがございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手を願います。いいですか。

檜木委員が手を挙げようとしているんですかね。はい、檜木委員。

○委員（檜木孝一君） 御説明ありがとうございます。この対象範囲の中に、二日市東小学校の浸水対策地域も入ったと思います。あそこは避難所にもですね、第二次避難所になっとなって、過去一、二回、使用が途中でできなくなったということがあったと思ひまして、緊急な事業だというふうに思ひます。それに対する見込みのようなものがあつたら、御説明をお願いいたします。

○委員長（上村和男君） 深見課長。

○土木課長（深見勝彦君） 令和6年度に治水対策の基本計画という設計業務を、今現在委託しておるところでございますけども、そういったところでいろんな候補地を選定しておるところでございます。委員が言われてある東小学校につきましても、当然候補地には含まれておるんですけども、その中でどういった治水施設を造るか、例えば小学校とかはグラウンドがありますので、グラウンドの表面に貯留するやり方もあれば、グラウンドの地下に貯留施設を造って、どのくらいためるとか、そういった効果の検証を、令和7年度の浸水解析をすることで、ある程度規模とか、あと事業費であつたりとか、そういったところをしっかりと把握したところで、今後の対策に充てていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） それじゃ、これで質疑を終わります。

所管課が替わりますので、しばらく休憩します。お疲れでございました。

—————・—————・—————
休憩 午前10時42分

再開 午前10時43分
—————・—————・—————

○委員長（上村和男君） 同じ建設部ですけども、所管課が替わりましたので、野田部長から紹介をしていただいで始めたいと思います。

野田部長。

○建設部長（野田清仁君） 続きます、所管課が替わります。管理保全課が参っておりますので、自己紹介をさせていただきます。

○管理保全課長（菊武秀明君） お疲れさまです。管理保全課長の菊武でございます。よろしくお願ひします。

○公園担当係長（原田裕介君） 管理保全課の公園担当係長の原田でございます。よろしくお願ひいたします。

○建設部長（野田清仁君） どうぞよろしくお願ひします。

○委員長（上村和男君） それでは、予算審査資料163ページ、総合公園遊具等更新事業、事業内容について課長から説明願ひます。

課長。

○管理保全課長（菊武秀明君） 予算審査資料の163ページでございます。総合公園遊具等更新事業の事業内容について御説明申し上げます。

事業予算額1億6,155万円でございます。国庫補助金6,461万9,000円、一般財源9,693万1,000円を計上させていただいております。国庫補助金につきましては、防災・安全交付金の公園長寿命化対策支援事業を活用予定でございます。

事業の目的及び内容につきましては、老朽化しております総合公園内の大型遊具、通称天拝の船など遊具を新しく更新させていただくものでございます。更新を行う遊具は天拝の船及び斜面遊具、併設しておりますロープ遊具やロッキング遊具でございます。

更新予定の天拝の船の基本方針につきましては、おかげさまで天拝の船は各種情報雑誌やテレビなどのメディアで取り上げていただきまして、県内でも有名な遊具で筑紫野市を

代表する一つとなっておりますので、できるだけ現在の天拝の船のイメージを引き継ぎ、天拝湖のロケーションを一望できる総合公園のシンボルとなる船形の遊具を継承すること、また、市民の誰もがそれぞれの年齢や特性に応じて楽しみ方を見つけられる工夫を凝らした遊具としたいと考えております。

また、子どもの成長を促すようなアスレチック性の高い遊具も取り入れたいと考えております。当然であります。安全基準に適合し、落下やその他構造上の危険等がない遊具といたします。使用部材につきましては劣化しにくい部材を採用するなど、点検や修繕などのメンテナンスの容易さも取り入れる予定でございます。また、以前に総合公園に遠足等で御利用いただいた小学校に御協力をいただき、総合公園や天拝の船についてアンケートを実施させていただいた結果を参考に、子どもたちの意見も反映された夢のある遊具としたいと考えているところでございます。

次に、事業の進め方につきまして、基本方針を踏まえた上での企画提案型で、豊富な経験と高い専門知識を持ち、総合的な企画力や技術力を有する業者からの設計・施工のプロポーザル方式による業者選定を予定しております。予定のスケジュールにつきましては、本年8月から来年3月中旬までの約7か月間を設計と工事期間とし、年度内完了を予定しております。

説明は以上でございます。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手を願います。

赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） おっしゃるとおり、最近、雑誌とかサイトを見てみると、筑紫野市のシンボルとして結構出てきたりするので、それもあってか、かなり来場される方もすごく多い中で、たまにある市民の方から、人が多過ぎてとかっていうことで駐車場の問題、あと駐車場から船までがちょっと遠過ぎて、何とかならないかというようなお声もちょっと聞いたりします。確かに僕なりに考えても難しい問題だなとは思ものの、何かその辺りの駐車場とかを、これからさらに増えたときの駐車場の問題あたりとかって、何かお考えがあれば教えていただきたいなと思います。

○委員長（上村和男君） 菊武課長。

○管理保全課長（菊武秀明君） おかげさまでゴールデンウィークはかなりの人出に御来場いただいております。そのゴールデンウィークの対策といたしましては、駐車場を第5駐車場ぐらいまで拡張いたしまして対応させていただいております。あと今まで

は、3年ほどまでは、入り口から入ってまた同じ道を出ていく方式を取っておりましたので、駐車場に入るまでにかなり時間を要したところとかあったんですけども、3年ほど前からはゴールデンウィークだけ、繁忙期だけは一方通行の形で車の出し入れをさせていたでいております。そのおかげで奥のほうの駐車場まで利用していただくことによりまして、ゴールデンウィーク期間中の待ち時間も大分短くなっているということを聞いておりますので、そういった対策をさせていただいているところでございます。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） 説明ありがとうございます。先ほどるる言われていましたけど、アピールというか、なっているんでしょうけど、私の家族もですね、子や孫に伝わっていくとか、「ああ、あそこ天拝の船があるよね」ということで、帰省したときにですね、やっぱりそういったところも定着というか定住に少しは寄与していくのかなというところもありましたので、これは一応意見として伝えさせていただきます。

○委員長（上村和男君） 西村委員。

○委員（西村和子君） 確認なんですけど、この更新を行う遊具だけ書いてあるんですけど、何年前か前、人工芝のところ引っかけた大変なけがをなされたことがあったと思うんですけど、そこら辺をどんなふうにかえていらっしゃるのかということを確認させていただきたいのと、劣化しにくい部材というのは、今、非常に新しい部材が開発されていると思うんですけど、廃棄についてまでも考えていかなきゃいけない時代だと思うんですけど、どういうものが考えられているのかお尋ねいたします。

○委員長（上村和男君） 菊武課長。

○管理保全課長（菊武秀明君） 平成30年の事故ですかね、のり面のところの斜面の中に、草で見えなかったところと、あとマットの間で陥没が起きたところに足を引っかけられて骨折されたという事故が起こっておりますけども、あれ以来、委員の皆様方にも現地調査をしていただきまして、それ以後、安全管理については管理人等を含め、職員でもそういった斜面の点検あたりを随時しながら執り行っているところでございますが、今回のこの整備に合わせての、そういった斜面のどういうふうにするかというところまではちょっと、特別な手法を何か取るところは考えていないんですが、今の状態をなるべく安全な状態で管理できるように、今後も取り組んでまいりたいと考えております。

それと、劣化しにくい部材というところでございますが、劣化しにくい部材についても

こういった提案型のプロポーザルでしておりますので、業者のほうの、メーカーさんのあたりの提案を受けながら、そういった採用を決めていくというところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） いいですか。

佐々木委員。

○委員（佐々木忠孝君） 工事の期間、閉鎖と書いてありますけれども、これは公園全体を閉鎖するののかというのと、あと閉鎖期間が、具体的な期間をお教えてください。

○委員長（上村和男君） 菊武課長。

○管理保全課長（菊武秀明君） このスケジュールの中の閉鎖についてでございます。工事ヤードだけを閉鎖するという考え方でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。

○管理保全課長（菊武秀明君） 期間につきましては、その設計・施工というところで含めてどの期間でってあるんですけど、一応閑散期を予定していますので、具体的には、今で言う閑散期でいくと11月から3月の中旬までというぐらいを予定をしております。

○委員長（上村和男君） いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） それでは、質疑を打ち切ります。

審査資料の164ページに移ります。菊武課長から説明願います。

課長。

○管理保全課長（菊武秀明君） 予算審査資料、164ページでございます。筑紫公園整備事業の整備内容について御説明を申し上げます。

事業予算額5,572万2,000円で、国庫補助金912万1,000円、一般財源4,660万1,000円を計上させていただいております。国庫補助金につきましては、社会資本整備総合交付金の都市公園事業を活用予定でございます。

事業の目的及び内容につきましては、良好な自然環境と文化財を生かした筑紫公園の整備を行うものでございます。今年度は調査業務委託料、土地購入費補償金を予算計上させていただいております。

筑紫公園の現在の状況でございますが、現在、土地の28筆、2万5,366平方メートルの買収が完了しております。残りの用地買収につきまして引き続き取り組んでまいりましたが、7筆、4,478平方メートルについて交渉が難航したことから、福岡県収用委員会へ収

用裁決申請を行い、令和7年2月5日に裁決手続開始の通知がなされ、現在、福岡県土地収用委員会にて手続が進められている状況でございます。

説明は以上でございます。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

赤司泰一委員。

○委員（赤司泰一君） かなり難航されているということで、もう本当、大変なことになっておりますが、今、この筑紫公園の中に、今回、前畑遺跡が日本遺産になったということで、また今後、予算関係にもかなり影響が出てくると思うんです。その辺については今後どういうふうに考えていらっしゃるのかなと思います。

○委員長（上村和男君） 部長が何か言いますかね。はい、野田部長。

○建設部長（野田清仁君） 今委員仰せのとおり、前畑遺跡が国指定を受けられたということになっております。今後の取組になってくるんですけども、今現在、課長が説明しましたように、用地については収用委員会の裁定が今行われている状況でございますので、その結果が出ましたら用地の確保に行き着くかと思えます。

それに伴いまして、前畑遺跡の国指定もいただいておりますので、市の文化財課、あとはこれは県も絡んでまいりますので、県とも連携をしながら、前畑遺跡の土塁状遺構の保全の区域がどこまでになるのか、あと公園整備がどこまでできるのか、そういったところの調整がまた出てくるかなと思います。そういったところも踏まえまして、公園の整備計画も今後立てていく必要があるのかなと。一定のすみ分けをしながら、公園の整備も含めて検討の必要があるのかなと考えておりますので、今後、関係課、それと県と連携しながら、整備に向けて取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） 山本委員。

○委員（山本加奈子君） すみません、特定財源のところ、この交付金、国が3分の1となっているけど、国がちょっと少なめなので、どこが対象になっているのかお尋ねします。

○委員長（上村和男君） 後ろか。後ろが答えたほうがいやろか。どっちでも、前が分かっとうなら前でもいいですよ。

しばらく休憩します。

————— . ————— . —————
休憩 午前10時58分

再開 午前10時58分
————— . ————— . —————

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

菊武課長。

○管理保全課長（菊武秀明君） 対象は全ての、今さっき言いました土地購入費業務委託料補償金なんですけども、3分の1という補助金のところから、内示率がちょっと低くて2分の1ということになっておりまして、内示の見込みがちょっと低く設定をさせていただいています。その関係から、3分の1の2分の1なので、結果6分の1程度の補助金の予定で計上させていただいております。

○委員長（上村和男君） いいですか。

西村委員。

○委員（西村和子君） すみません、この図面のどこら辺りが土塁に当たるのかというのと、それとずっと言っていたんですけど、あの前を通る方がなかなかこれが遺跡だって分からなくて、「何で空き地なのかな」という方が結構いらっしゃるので、看板を立ててもらえないかというふうにずっと言っていたんですけど、その辺りはどうでしょうか。

○委員長（上村和男君） 菊武課長。

○管理保全課長（菊武秀明君） 土塁の位置につきましては、この図面の上部のほうですね、黒い線で外側を囲んでいるところの上部の部分が山の尾根になっておりまして、山の尾根の続きで土塁がこう入っております。図面の右手のほうのどこまでかというのはちょっとこれでは詳細は分からないんですけど、土塁は図面の上のほうで、山の尾根をまたいでいるような形が土塁の位置です。（「等高線に沿ってと考えていいということですか」と呼ぶ者あり）等高線に沿ってというか、尾根の部分にあるというイメージを持っていたらと思います。（「曲がりくねっている」と呼ぶ者あり）まあ、そうですね、はい。

○委員長（上村和男君） いいですね。（「看板」と呼ぶ者あり）看板立てんですかと。

「公園用地」とか「公園予定地」とか、そういう看板を作る予定がありますかだけ答えて、今のところありませんなら、ありませんねって言わんね。まだ決まっとらんって。

○管理保全課長（菊武秀明君） 今のところ、まだ用地交渉中でもございますので、ちょ

っと今のところ立てる予定はございません。

○委員長（上村和男君） よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、質疑を終わります。

しばらく休憩をしますが、休憩した後、市民生活部が入って、最初にコミュニティセンター二日市のあの問題について説明をしますので、11時15分から再開をいたします。

休憩 午前11時02分

再開 午前11時15分

○委員長（上村和男君） それじゃ集中審査に入りますが、具体的に入る前に皆さんにお諮りをしておきます。

このまま参りますと、5時までにひよっとしたら全てが終了するかもしれないという運びになっておりますので、皆さんの協力を得て、過ぎても、5時過ぎれば少しかかるかもしれないませんが、今日中に集中審査から採決まで終わりたいというふうに思っておりますので、御協力のほどをよろしく願いをいたします。今日のところは予定どおりに進んでおりますので、よろしく願いをいたします。

それでは集中審査に入りますが、前回、昨日ですかね、おとといやったですかね、市民生活部の宿題の分を持ってきていただいておりますので、市民生活部長、杉村部長がおいでですので、一言御挨拶をいただいた後、所管課を紹介していただいで始めていきたいと思っております。

杉村部長。

○市民生活部長（杉村真子君） 改めまして、こんにちは。市民生活部、杉村でございます。

コミュニティセンター建設事業につきまして再度お時間を頂戴する運びとなりまして、大変申し訳ございません。本日よろしく御審議をいただきますようお願い申し上げます。

コミュニティ推進課職員が自己紹介を申し上げます。

○コミュニティ推進課長（吉田浩隆君） 皆さん、こんにちは。コミュニティ推進課長の吉田です。よろしくお願いいたします。

○コミュニティ推進担当係長（梅本裕貴君） こんにちは。コミュニティ推進課係長をし

ております梅本です。よろしくお願いいいたします。

○委員長（上村和男君） それでは、新しく資料も提出をされておりますので、その説明も含めて課長から説明を願います。

課長。

○コミュニティ推進課長（吉田浩隆君） それでは、御説明させていただきます。

まずもって、3月14日の予算委員会の説明におきまして、大変時間を要しまして申し訳ございませんでした。本日は一度、コミュニティセンター建設事業につきまして御説明させていただきます。予算審査資料は77ページでございます。

二日市コミュニティセンター建設につきましては、これまで建設地決定に係る議論が地元においてもなされてきたところでございます。敷地面積や防災の観点、また、子どもの居場所づくりや学校との連携の観点からも、小学校に近接する旧庁舎跡地を建設地として決定し、地域の皆様にも御理解をいただき、令和6年9月議会にて、副市長同席の下、議員全員協議会の場で、コミュニティセンター整備スケジュールとともに御説明をさせていただいたところでございます。本日は改めてお配りしておりますスケジュールを御覧いただければと思います。

現在、二日市コミュニティ運営協議会において、令和8年度に新たな三つのコミュニティ運営協議会を設立する方針で取組が行われております。この動きを受けまして、市といたしましても、地域活動拠点施設であるコミュニティセンターの整備事業に着手すべく、まず老朽化している二日市コミュニティセンターから建て替えを行い、完成後に二日市北、天拝の順で整備を進めていく予定としております。

二日市コミュニティセンターにつきましては令和9年度末の完成を目指し、二日市北コミュニティセンターは令和11年度末の完成を目指します。天拝コミュニティセンターにつきましては令和13年度末の整備完了を目指すこととしておりますが、現在、建設適地が見つからないことから、今後、天拝小学校区内の土地利用状況を注視しながら、様々な手法を検討してまいります。

なお、コミュニティセンター整備に係る費用につきましては、社会資本整備総合交付金という国の補助を活用し、進めていく予定としております。そこで、令和7年度予算へ設計業務委託に係る予算を計上させていただきまして、事業の目的、現施設の課題、整備方針、建設地について、前回御説明を申し上げたところでございます。

二日市コミュニティセンター建設事業は、令和7年度に設計業務委託契約を締結し、基

本設計、実施設計を地域の皆様の御意見を伺いながら進める予定としております。令和8年10月頃に工事着手し、令和9年度末の完成を目指したいと考えております。

お手元にお配りしております図面が、コミュニティ推進課で作成しました二日市コミュニティセンターの配置図及び平面図のイメージでございます。なお、設計前のイメージ図でございますので、議員の皆様、また市民の皆様に誤解を招かぬよう、この図面は後ほど回収させていただきたいと考えておりますので、あらかじめ御了承いただければと思います。あくまでもイメージづくりとして御覧ください。

まず、1階部分を従来のコミュニティセンターとしての機能を集約させ、2階部分に複合的な事業展開の一つとして、親子で集える子どもの遊び場などをイメージした配置としております。子どもの居場所づくりにつきましては、今後設計業務の中で、どのような整備内容にしていくのか、子どもに関わる部門と連携しながら検討を進めていく予定としております。ほかのコミュニティセンターにおける子どもの居場所づくりにつきましても、今後庁内で連携しながら検討してまいります。

二日市コミュニティセンターの建築の規模といたしましては、コミュニティセンターに必要な機能を備えるとともに、効率的な施設管理の観点から、ほかのコミュニティセンター同様、2階建てを想定しているところでございます。物価や人件費高騰の折、建設費もできるだけ抑えながら、また、将来にわたる維持管理費を考慮した施設整備が重要であると考えております。

地域住民の活動拠点であるコミュニティセンター整備は、地域の皆様が早期完成を待ち望んでいらっしゃると思います。市といたしましても、地域の皆様が利用しやすい施設を早期に整備したいと考えておりますので、御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

説明は以上となります。

○委員長（上村和男君） 杉村部長。

○市民生活部長（杉村真子君） 引き続きまして、失礼いたします。

誰もが利用しやすい、末永く愛される地域の活動拠点となり得るコミュニティセンターを目指して、これから地元建設検討委員会と協議しながら基本設計に入っております。様々な御意見を頂戴しつつ、誠心誠意所管として努めてまいりますので、何とぞ御理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、ジャスコ跡地も含めた今後の土地利用につきましては、協議してまいりました結果、市として関係部署間で連携を図りながら検討していく課題であると捉えておりますこ

とをここに申し述べさせていただきます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 質疑のある方。

山本委員。

○委員（山本加奈子君） 御説明ありがとうございます。この2階のプレースペースが子どもの居場所になるのだろうと思うんですけども、そもそも、この子どもの居場所は、二日市のコミュニティの中の子どもたちを対象にしているのか。

例えば、つくし会派さんが代表質問でこども館の質問をされました。これは市議会として昨年出していたと思うんですけども、そのときの市長の答弁が、「全市民が利用できるこども館の設置については、コミュニティセンターなどを拠点とする子どもの居場所づくりの取組を進めてまいりたいと考えております」という答弁だったんですけど、今ある既存のコミュニティセンターで子どもが常時遊べる場所はないですね。ということは、新しく造るところは、ほかの地域の子どもたちも遊べるものであってほしいなと私は思ったんですけども、まず、どういう対象を考えているのかをお尋ねします。

○委員長（上村和男君） そうしたら、答えられる範囲で教えてください。まだイメージ図の範囲ですからね。

はい、課長。

○コミュニティ推進課長（吉田浩隆君） まず、ほかのコミュニティでの話なんですけれども、今、各コミュニティセンターで、ロビーであるとかフリースペースというところで子どもたちが勉強したり本を読んだり、お友達と一緒にゲームをしたりというようなスペースの確保には努めているところでございます。

ただし、今回の二日市コミュニティセンターでの子どもの居場所づくりという、今イメージで2階の図面を御覧いただいていると思うんですけども、こちらにつきましては親子で集えるということで、年齢層としては比較的低いといえますか、小さなお子さんをイメージしているというふうに私どもは聞いております。これが市全域の親子を対象としたところかどうかというところまでのお話はコミュニティ推進課としては聞いておりませんので、今後どれくらいのスペースが必要で、どれだけの人数を見込んでいるのかということにつきましては、関わる部署と連携しながら、基本設計の中でまた議論し、スペースの確保というところを検討していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） まず、議会はこの二日市コミュニティセンターの建設には反対ではございません。説明を丁寧になされているんですけど、そのことに関しては私たちは特に言うておりません。ただ、高さのことは庁議で諮るということで、部長が前回お持ち帰りになったので、その高さの検討が今どんな状況なのか、活用についてですね、そこはしっかりお示しをいただきたいということがまず一点ですね。

それと駐車場に関して、前回ちょっと私は言えなかったですけども、今、JR二日市駅の横にございます立体駐車場、ほぼ平日満車でございます。であれば、ここの駐車場というものは市民が無断で駐車されるという懸念もございますし、そういったマンション等も建設が多くなって、利活用はできるんじゃないかという観点で、立体駐車場等を検討されてはいかがかなと思うんですけども、その点、今これ、平の駐車場でございます。その辺どのようにお考えでしょうか。

○委員長（上村和男君） 課長。

○コミュニティ推進課長（吉田浩隆君） はい、ありがとうございます。今の二日市コミュニティセンターの課題といいますか、一つに駐車場スペースが少ないということと、やはりイベントのときに、そういった駐車スペースをイベント広場に活用するというところで、例えば例を挙げますと筑紫南コミュニティセンターは、コミュニティ祭りをする際に駐車場をイベント広場のような形で活用させていただいております。

そういった観点からも、今既存で考えているのは、今イメージでお示ししております、こういう立体駐車場でない形でさせていただいているんですけども、今御意見のありました点も踏まえまして、立体駐車場というところも今後、基本設計の中で検討する一つの要素というふうにさせていただければと考えております。

○委員長（上村和男君） 杉村部長。

○市民生活部長（杉村真子君） 先日の高層階の御意見につきましてですけども、二日市コミュニティセンターの建築の規模といたしましては、コミュニティセンターに必要な機能を備えるとともに、効率的な施設管理の観点から、ほかのコミュニティセンター同様、2階建てを想定しているところでございます。物価や人件費高騰の折、建設費もできるだけ抑えながら、また、将来にわたる維持管理費を考慮した施設整備が重要であると考えておりますので、現時点では高層階の建築物は想定しておらないところでございます。

以上、お答えさせていただきます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 今回の特定財源の中でも、社会資本整備総合交付金ということで、コンパクトな、イメージとしてはまちづくりをしていくということの観点だと思えます。今、部長の中ではそういった見解が出たということでございますけれども、これはもう少し将来にわたって考えるべき観点じゃないかなと思います。

建設を急いでいるというのは分かります。ただ、もう少しですね、道路も含めて、市のこの重要な土地の活用という観点からも、やはりこれはもう少し考え直したほうがいいんじゃないかなというのが私が今考えているところです。こういった部分を踏まえて、50年先を見据えた公共施設が今後どうなるかということも踏まえて、やはりまた民間の活用であるとか、市の課題も今は山積していると思います、いろいろですね。そういったところも踏まえて、やはりこの土地を利用するということをもう少し考え直したほうがいいんじゃないかなと思いますけど。

○委員長（上村和男君） （「はい」と呼ぶ者あり）関連ですか。

少し委員会としても皆さんにお諮りして考えたいところでもありますので、中長期にわたるようなことであれば、今の所管課がコミュニティセンターを新しく建設するというものを喫緊の課題にしている中でございますので、なかなか答えにくい、あるいは答える立場にいないかもしれないと勝手に委員長は思っておりますので、しかるべき方に来ていただいて説明を願うというふうに諮りたいと思いますが、市長か市長の代理となるような方が出てきて説明を願いたい。少し長期にわたる構想をお話しいただければなど。

先ほど質疑の中でも出ていますけども、コミュニティセンターの建設について、こども館のようなことも含めてお答えになっておりますので、どうなのかというふうなこともありますので、少し長期にわたる、執行部の責任ある立場から説明いただいたほうがいいかなと思っておりますので、これ以外にまだ質疑があれば続けますが、説明に当たってくれる方をもう一度、しかるべき方に出てきていただくというふうに思いますが、いかがですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、そういうふうに諮らせていただきますので、よく頑張って資料も作り、間に合わせていただいたと思いますので、意のあるところを上のほうに伝えていただいて、これで終わりにしたいと思います。終わります。持ち帰りです。（「資料はそのときまで預かっておくんですか」と呼ぶ者あり）これは返してください。

しばらく休憩します。

休憩 午前11時31分

再開 午前11時34分

○委員長（上村和男君） それでは、環境経済部が来ていただきましたので、平嶋部長から御挨拶をいただいた後に、所管課の紹介をして説明に入ってもらいたいと思います。

平嶋部長。

○環境経済部長（平嶋顕治君） 皆様、こんにちは。連日の予算審査お疲れさまでございます。

環境課職員が参っておりますので、自己紹介のほうをさせていただきます。

○環境課長（益永 晃君） 環境課長をしております益永と申します。よろしくお願いたします。

○環境保全・廃棄物担当係長（小椎尾公憲君） 環境課係長の小椎尾と申します。よろしくお願いたします。

○環境経済部長（平嶋顕治君） それでは、よろしくお願いたします。

○委員長（上村和男君） じゃ、審査資料165ページから167ページ、ごみ袋売却収入及びごみ袋原価、ごみ袋販売に係る経費等について説明をお願いします。

益永課長。

○環境課長（益永 晃君） それでは、御説明申し上げます。ページとしては、こちらに記載されていますもので説明させていただきたいと思います。165ページから167ページになります。

まずは165ページでございます。ごみ袋売却収入及びごみ袋原価、こちらの分のごみ袋販売に係る経費から167ページまで一括して御説明を申し上げます。

まず、ごみ袋の売却の収入でございます。こちらについては表のほう、衛生費手数料ということで書かさせていただいておりますので、簡潔に説明をさせていただきます。こちらは家庭用のごみ袋と事業用のごみ袋で、内訳を書かさせていただいております。家庭系が10種類、事業系が6種類でございます。

まず、一番上のよく出ている可燃物の指定袋（大）でございます。こちらは1枚50円で販売を行っております。令和7年の販売見込数を289万4,000枚を見込んでおります。こち

らの収入の合計が1億4,470万円でございます。

続きまして、可燃の（普通）でございます。1枚当たり30円でございます。こちらは136万1,000枚を見込んでおり、こちらの収入合計が4,083万円となっております。

可燃物の指定袋（小）でございますが、1枚当たり20円となっております。51万1,000枚を見込んでおるところで、収入合計が1,022万円を見込んでおります。

同様に、缶・瓶、そして不燃物、そしてペットボトルから事業系も同様のものとなっております。最後に粗大ごみの専用指定シールまで含めた中身で合計をいたしますと、3億374万3,000円を見込んでおるところでございます。

続きまして、次のページになります。こちらについては、ごみ袋の販売に係る経費でございます。ごみ袋の指定袋購入費でございます。

こちらについては表をお示しさせていただいておりますが、まず一番上の可燃（大）でございますが、1枚当たりの原価といたしまして17.10円となっております。先ほどの販売予定枚数の289万4,000枚となっており、合計が税込みで5,443万6,140円となっております。

そして（普通）の可燃でございますが、13.40円となっております。136万1,000枚、合計が2,006万1,140円となっております。

可燃物の指定袋（小）でございますが、1枚当たりの原価が10.45円となっており、51万1,000枚でありまして、合計が587万3,945円となっております。

以下の指定袋についても、それぞれの原価に予定見込枚数を乗じまして、合計を出させていただいております。

そして表の一番右下になりますが、税込みの合計で1億2,194万1,490円となっております。

なお、指定袋については、科目として10節の需用費の消耗品で購入をしております。1億2,223万9,000円のうち1億2,179万790円が10節需用費で買っているごみ袋になっております。

そのほかに、先ほど御説明申し上げました粗大ごみシールについては、10節の中でも印刷製本費というもので購入をしておりますので、予算枠の27万9,000円のうち15万700円がその予算額としているものでございます。

そして横の167ページになりますけれども、こちらについては、ごみ袋の販売に係る経費でございます。こちらについては、指定袋の販売業務というものを商工会のほうに委託

を行っております。

そちらの内訳が表中のものになっておりまして、可燃物用の指定袋の（大）が1枚当たり6.5円、先ほどの購入見込枚数が289万4,000枚となっており、経費の合計が1,881万1,000円となっております。

可燃物の指定袋（普通）になりますと、1枚当たり4.4円で購入見込枚数が136万1,000枚となり、経費の合計が598万8,400円となっております。

可燃の（小）でございますが、こちらが1枚当たり3.4円となっており51万1,000枚の購入見込みとなっており、経費の合計が173万7,400円となっております。

同様に、それぞれの指定袋、販売手数料に購入枚数を乗じたものの合計が、右下のほうにあります3,519万8,740円となっているところでございます。

以上で説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 説明ありがとうございます。

昨年の令和6年度の予算審査資料と比較して枚数を見てみると、家庭用の可燃ごみの（大）がかなり少なくなっていて、（普通）と（小）が増えていっている。基本的に私は袋は大きくないほうがいいなと思っていて、排出するときにはできるだけ小さい袋で出させていただくようにアピールしていただけたらと思っていたんですが、そういうふうなのが実ってきているのかなということで、（普通）と（小）が増えてきている。その中で、令和6年度と令和7年度と比較すると、398万284円、令和7年度は増えているんですけど、先日、補正予算で500万ほど減額しているんですね、一旦は。この辺、令和6年度の予算と6年度の補正予算で減額したのと、7年度のこの計上されている数字の経緯を説明していただけたらなと思っています。

それともう一つは、新しいごみ袋が、かわいらしいのができていると思うんですが、あれの購入費と販売に関わるものについては、この表からはちょっと読み取れないので、そこをちょっと説明いただけたらと思います。

もう一つ、いいなと思っているのは、事業系の袋が全部枚数が増えています。枚数が増えたからいいというのではなくて、これまで事業系の方のごみが家庭用のごみで出されていることをずっと指摘させていただいていたんですが、ここにきて事業系の袋が増えてきていることは、担当課の努力で、家庭ごみとして捨てられることなく事業系としてきちん

と捨てられるようになってきたのかなと思っていますので、その辺はよかったかなと思っています。

○委員長（上村和男君） 益永課長。

○環境課長（益永 晃君） まず、ごみ袋の算定の根拠というか計算方法でございますけれども、基本的に今の年度で言うと、令和5年度と6年度の伸び率で機械的に計算をさせていただいております。ただし、令和6年度の実績がないところでございますので、令和5年の前期と令和6年度の前期の伸び率で算出をいたします。令和6年度にもその伸び率を乗じさせていただいているので、機械的に算出している部分であります。ですから、ほかの事業系も含めてそうした計算方法で行っております。ただ、実際に蓋を開けたところというのは、今、ごみの減少しているのも認識はしておりますので、今後、人口、世帯数の鈍化が見込まれるのと、その実態を見極めていきたいなと思っております。

それと、つくしちゃんごみ袋の件でございますけれども、先ほどちょっと補正で落とした分もありました。今、つくしちゃんごみ袋自体は6事業者で販売を行っており、大きく予算取りの関係で取ったということはありません。ただし、今後は営業に我々も出かけて、販売ができるように努めてまいりたいと思います。

事業系のごみ袋でございますけれども、我々も、飲食店がメインになると思うんですけども、誤ったごみの出し方があると、やはり通報が都度あります。中身を見れば大体、お手元の中に屋号が書いてあったりもしていますので、そういったものがあれば指導をしに参りたいと思っておるところでございますが、なかなかそういったところが見受けられないところはちょっと難しいところもありますが、その都度現場に行き指導しておりますので、その成果が出ればなというふうな形では思っているところでございます。

以上です。（「すみません、補正は。補正の分も」と呼ぶ者あり）

補正は実際にそうした伸び率から単純に計算しているところがありますので、あとは事業者さんが期初に大量に購入した後、在庫を持っているので、後期の伸び率がやっぱり鈍化したとかいう分析になるんじゃないかなと思っております。

以上です。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

西村委員。

○委員（西村和子君） お尋ねなんですけど、家庭用系の粗大ごみシールの左側の収入のところはあるんですけど、真ん中のところはどこにあるんですかね。粗大ごみ専用指定シ

ールというのが一番下にあるんですけど、これは込々ですか。事業所用も家庭用も込々な
んですか。

○委員長（上村和男君） シールが別よ。

○委員（西村和子君） 別だとしたら、家庭用はどこにありますか。

○委員長（上村和男君） 上にあるやろ。真ん中の少し下。家庭系廃棄物・粗大ごみ専用
指定シール。

益永課長。

○環境課長（益永 晃君） その収入の分、165ページの分ではよろしゅうございますでし
ょうか。

○委員（西村和子君） 165ページのところには家庭用というのはあるけど、166ページの
ところにはちょっと見当たらない。

○環境課長（益永 晃君） はい、分かりました。165ページについては収入になってお
りますので、それぞれで購入見込数というものを算出して収入の予算を作成しておりま
す。続きまして166ページについては、基本的に購入枚数は事業系も家庭用も一緒にして
出しているところがございますので、166ページの指定シールの分は一緒になっていると
考えていただいてよろしいかなと思います。

○委員（西村和子君） はい、分かりました。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

原口委員。

○委員（原口政信君） ちょっと二つだけ尋ねさせていただきます。

家庭用のごみがね、今、何か薄くなっているような気がするっちゃけど、一昔より。原
価をかなりたたいて薄くしてるっちゃないですか、これ多分。大分前から変わりましたけ
ど、確かに昔のは強かったですもんね。今はびろーんと伸びていて、それもすぐちぎれる
ような、薄くなったような気がしています。正直に答えてもらっていいと思いますけど。

それとあと、家庭から出すごみが5個までって前は決まっていたんですけど、今は無制
限でしょう、ほとんど。ただし量が多かったら収集に対して支障を来すから、事前に言っ
てくださいというふうなことで今はやっていると思うんですけど、一定の量はやっぱり決
めとったほうがいいっちゃないかなと思ったりですね。でないと今、剪定ごみなんかもあ
れ全部詰めて持っていきますので、本来、30袋とか40袋ぐらいになると、もうパッカー車
をチャーターで呼んで8,000円払ってプラス処理費を払ったほうが、二、三十分で終わる

けんですね。そういった方法をしていったほうがいいんじゃないかなと思って。歩道にずっと並べているところがたまに、うちも10袋ぐらい出すときがありますけど、剪定ごみを出したら、それはオーケーということなもんやけんですね。だからその辺、もうちょっと考えたがはいっちゃないかなという。この間、50個ぐらい出してあるところをちょっと見たもんやけんですね。

○委員長（上村和男君） どこかで変わったんですか。益永課長。

○環境課長（益永 晃君） まず、ごみ袋の厚さの件でございますが、数年前、一度、所管の担当から話を聞いたところ、確かに薄くはなっております。ただ、他市と比べてその強度自体はあまり変わらないぐらいとは聞いております。

○委員長（上村和男君） 薄くて強い、はい。

○環境課長（益永 晃君） ありがとうございます。

あと、問合せで幾つぐらい出せるのかというようなことで、電話があるときには、「なるべく四、五袋で分けて出してくださいね」というアナウンスは、お願いでございますけれども、今もやっております。その手の問合せは結構多くあっておりますので、あったときには、我々としては、「四、五袋までで何とか出すのをちょっと控えていただければありがたいです」というようなことで、お伝えはしているところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） 宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） 今の原口委員の関連なんですけど、トラックが、要はパッカー車が入らないから、うちの場合は路地裏に入った方が表のほうに出せると、出すということがあってですね。個数制限というか、もう何所帯分も集まったような状況で、生ごみの収集が行われている状況なんですよ。なので、制限がかかるとちょっと不具合が生じるのかなという感じもします、一つはですね。

もう一つは、まあ、これはあれでしょうけど、よその地域の、市外のごみ袋というのがよくごみ収集のところにに入れて、カラスとかが引っ張り出して道路に散乱するという事案が結構起きているんですよね。だから、そういうのは市として、何か対策じゃないけど、区としても区長さんが掃除をしたりはやっているんですけど、そういったところはどういう考えがあるか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（上村和男君） 益永課長。

○環境課長（益永 晃君） まず、ごみの収集についてでございますが、基本的に今、道

路4メートルの幅があったところはパッカー車が入って収集を行うということをしております。ですので、車のボディーサイズが2メートル半ぐらいあったと記憶はしていますけれども、4メートルないところでも入れるじゃないかというような御意見も確かにいただきます。ただ、夜間収集でございますので、パッカー車が入ったとしても、その幅が3センチ・3センチとかで走るわけにはいきませんので、やはり4メートル道路であるところはお願いをしたいと思っておりますし、それ未満のところは、やはりちょっと建物、地域勢の事情がございますので御理解をいただきながら、もちろん現場も見て、事業者さんにも話をして、これはちょっと危ないですねと、事故にもなったときには収集業者さんの責任にもなりますので、その辺りを総合的に見ながら判断をして、今、現状のルートになっているところでございます。

あと、他の市外のごみ袋が実際にまき散らしているという問題ですけれども、その市外のごみ袋というわけではありませんが、10時以降にごみ袋を出して、結局カラスあたりにやられてしまったよということで、電話はもう日常茶飯事あります。我々も、道路の通行に支障があった場合については、職員が現場に行って掃除することもありますし、先ほど宮崎委員が言ったように、地域のお力も借りながら行っているところでございます。市外のごみ袋の対策等はまた聞いてみないとちょっと分からないですけれども、その都度善処できるようには対応していきたいと思っております。

以上です。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） なければ、私から一言あります。ごみ袋と言いますが、この環境のことで、ごみの減量化ですとかリサイクルだとか、そういうことを課題にしているのではないかというふうに思っておりますし、その点から、この資料の中から先ほど議論がっておりますので、何か一言ぐらい言うことはありますか。

益永課長。

○環境課長（益永 晃君） おかげさまをもちまして、ごみ袋自体、実績としては、ごみの量、ごみ袋の販売数も減ってきている実情がございます。こうした実績というのは、我々も含め啓発という、本当に地味ではありますが、やはり市民の方への浸透が必要だと思っておりますので、これからも御協力いただければと思っております。よろしくお願いたします。

○委員長（上村和男君）　じゃ、次の項目に行きます。169ページ、愛護動物対策事業、不妊・去勢手術委託料等助成の内容について、説明を願います。

益永課長。

○環境課長（益永　晃君）　ページは169ページでございます。4款1項6目16事業、こちらの愛護動物対策事業といたしまして、不妊・去勢手術委託料と助成の内容となっております。

事業予算費が186万6,000円。内訳といたしまして、県が31万5,000円、その他が155万1,000円となっております。主な財源でございますが、福岡県地域猫活動支援事業費、こちらが支出の2分の1となっており、県が2分の1となっております。その他が環境基金の繰入金でございます。

事業の目的と内容でございます。

まずは目的です。飼い主のいない猫の過剰繁殖やふん尿による生活環境への被害等を防止する、または削減するため、地域ボランティア等の団体が行う地域猫活動への支援を行っております。

内容でございます。飼い主のいない猫の不妊・去勢手術等による費用の補助でございます。

まず、福岡県の補助を利用する場合でございます。福岡県の地域猫不妊・去勢手術業務委託料で63万でございます。内訳は、雄が15頭、雌が15頭でございます。福岡県が実施する地域猫活動支援事業、こちらが先ほど申しました補助率2分の1を活用した、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術の動物病院への業務委託でございます。委託料といたしまして、雄が1万6,000円、雌が2万6,000円となっております。

市の単独の事業でございます地域猫不妊・去勢手術費用の補助金でございます。105万円でございます。こちらの内訳は雄が25頭、雌が25頭となっております。飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費用の補助でございますが、こちら補助金となっておりまして、上限が、雄1万6,000円が上限、雌2万6,000円が上限となっております。

また、地域猫ワクチン接種及びウイルス検査費用補助金、こちらが12万円となっており、内訳として20頭となっております。譲渡を行う際の飼い主のいない猫のワクチン接種及びウイルス検査費用の補助となっており、補助金の上限が6,000円となっております。

また、その流れでございますが、こちらについては、本市の地域猫不妊・去勢手術業務費用の補助金の流れとなっております。当初、最初のみ団体登録を申請をいたしまして、

団体の認定をいたします。そして毎年度になります、猫を捕獲し、手術を行います。手術を行った後、団体から手術費の申請を行いまして、決定を通知いたしまして、手術費の補助を行います。この活動について報告を求めているところでございます。

ちょっとページの関係上、記載はしておりませんでしたけれども、福岡県の場合については、今で言うと令和6年度中に、令和7年の計画を団体さんのほうに立てていただきます。そして、今回は15頭と15頭となりましたけれども、手術のチケットを渡します。渡した後、病院に行ってください、病院の費用の支払いは市から行うというような形になっているところでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は。

西村委員。

○委員（西村和子君） 御説明ありがとうございます。活動をしている団体の意見を反映していただいて、区長を通す形にしているというので、非常に地域への効果が大きい事業となっているというふうに思っております。その点、工夫していただいてありがたいと思います。

この予算は令和6年度、現在ですけど、12月でもう予算を使い切ってしまうんですね。それで、今が恋の季節なんです、猫の。それで、よそから来た野良猫が3月初めにいて、その猫を1か月お宅の庭で餌やっててねって、予算がないから、4月1日になったら市役所に行くから、それまで餌やっててって、月末になってわなを仕掛けるから、それまでよろしくという状況なんです。なので、なくなると非常に困る。今手を打たないと、妊娠してしまったらまた増えてしまうわけなので、今が一番大事な季節なわけなんです。

そこで今年度、ふるさと納税のところで、動物愛護ということで目的に寄附をいただくということで、去年1,000万円あって、そうすると300万円がその費用として頂けるとして、犬と猫が半分ずつに分けるとしたら、皮算用して150万円ぐらいかなと。そうすると本当に助かるんだろうなと思いますけれど、そのふるさと納税のところを併せて考えられるのか、その予算のところをどんな組み方をされるのか、お尋ねいたします。

○委員長（上村和男君） 益永課長。

○環境課長（益永 晃君） 先ほどの3月に繁殖期になるということは存じております。結構早いうちに予算もなくなってしまうところですけども、今案内として行っているのは、動物基金というまた別の組織があって、さくらねこ無料不妊手術というのがございま

す。それは、今私たちがやっているのは行政枠というメニューがあって、同様のチケットを配付して、「できますよ」という案内をしているので、「予算がなくなりました、もうこれでどうしようもないですよ」ということはないところでございます。

先ほどのふるさと納税の分については、今回我々が行っているこの愛護動物対策事業の中に組み入れられて予算化されるというところではなく、もう直接、団体さんのほうへ寄附するルートになっていますので、その運用の仕方というのはまた企画のほうと話し合っで運用が決まってくると思いますので、今回は不妊・去勢手術の予算の枠での説明とさせていただきますと思います。

以上です。

○委員長（上村和男君） 山本委員。

○委員（山本加奈子君） 2点あります。

一番、この図のところで言うと最初の団体登録申請がありますよね。そこがもう、つまりくところがたくさんあってですね。実際、地域で地域猫のボランティアをされている方に、事業が始まって約1年たつんですけど、すごく喜ばれている反面、実際、団体登録ができないんです。行政区の区長さんがもししてくださるとなっても、地域の了解が得られなくて団体が組めない、そしたらその地域の猫というのはいつまでも捕獲できず、でもそれじゃ困るから、相談された地域猫ボランティアの人たちは、ためている募金で実際手術をしてくださったりしている現状があってですね、だからちょっとお声を聞くと、「どうしても団体登録ができないところに、どうにか使ってもらえないものなのか」というお声をいただいております。

それをすることで、この目的である生活環境の被害、地域の方の苦情とか、削減に本当になるのかなと思うので、その辺がちょっと検討いただけないかというのが一点と、もう一つは、地域への周知、「こういうことが市で補助もしています、猫で困っている人がいます」というのを、例えば春日市だったら、動物愛護週間のときに市政だよりで2年ぐらい使って周知してくださっているそうなんです。だから、筑紫野市もいろいろしてくださっているとは思いますが、市民の方が「ああ、地域猫活動って必要なんだな」というところを周知していただけることが何かできないのかなという二つ。うちの地域も実際できなかったんですよ、団体登録が。だから全部、町内会費で地域猫の避妊手術をしたので、ちょっとその辺り含めてお尋ねをいたします。

○委員長（上村和男君） 益永課長。

○環境課長（益永 晃君） 先ほど山本委員からの御質問でございますけれども、確かに団体登録、地域猫活動自体も地域の理解がないとできないと思うんですね。やはりそこは地域の諸先輩方、または市役所のほうも窓口に来てしっかりと相談をして、「こういう成功事例がありますよ」というようなことで、その都度、やっぱり結構来ます、切実な問題としてですね。

方策としては、先ほど言ったさくらねこ無料不妊手術の個人枠というのもありますので、基本的に負担が軽減された形でできるんですけども、これが地域猫活動となってくるとちょっとハードルが高くなるので、去勢や避妊はできると思うんですけども、「勝手に猫好きが何かやってるぞ」というふうな地域の現状はありますので、また、そこは本当に区長さんも絡めてとか、しっかり話ができるような諸先輩の団体さんの活動事例を参考にしながら、こちらもしっかりと相談はさせていただいておりますが、現状はやっぱり厳しいところもあるので、その認識はございます。

それと、地域猫活動自体が、市としての制度も今年度初めて行った事業でございます。譲渡会のあたりとかも、猫の関係もSNSとかでもその都度載せて、しっかりとその辺りも本当に啓発が大事だと思っていますので、各自治体の事例も参考にしながら、本当にしっかりと草の根の啓発をやってまいりたいと、努めてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（上村和男君） じゃ、いいですね。

田中委員。

○委員（田中 允君） 結局、手術した後の猫たいな、猫は、普通の野良猫とか手術した野良猫と、見分けをどのようにしてつけるのかな。そこら辺りちょっと詳しくないので。

○委員長（上村和男君） 益永課長。

○環境課長（益永 晃君） 田中委員の質問にお答えしたいと思います。基本的に手術した猫ちゃんというのは耳を少しカットして、何というんですかね、桜の葉みたいな、花のような形で、さくらねこによく言われているんですけども、そこで見分けがつくようにはしております。

○委員長（上村和男君） いいですね。（「両耳」と呼ぶ者あり）関連で質疑があると。はい、田中委員。

○委員（田中 允君） 耳というのは両方の耳。

それと、例えば避妊するときたい、家庭の猫はどのように補助があるんですか。

○委員長（上村和男君） 益永課長。

○環境課長（益永 晃君） お答えいたします。

片耳で目立つようにしておりますので、遠くからでも分かると思います。

家庭用の猫、あくまでも今回は、飼い主のいない屋外の猫を軽減させる事業でございますので、家庭用の猫は、去勢手術・避妊手術というのは、基本的には飼い主さんのほうで行っていただくということになります。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、もうごみ減量対策事業まで行きます。

事業内容、増額理由、先ほどは先走って質問してしましまして、課長、またここでもよろしく。はい、説明願います。170ページやね。

○環境課長（益永 晃君） それでは、ページ番号170ページになります。4款2項2目2事業、節が17節になっております。ごみ減量対策事業、事業内容について、また増額の理由について御説明申し上げます。

事業予算枠が938万円でございます。その他が938万、その他の環境基金の繰入金となっております。

事業の目的、内容でございます。

目的、市民のごみ減量とリサイクル意識の向上。

内容についてでございます。ごみの多量排出事業所への指導、段ボールコンポスト講座の実施、白色トレイ、紙パック、紙製容器包装のリサイクル、こちらはリサイクルボックスによる拠点回収となっております。

今回の増額理由でございます。平成20年（2008年）4月から、白色トレイ等の拠点回収のために、市内35か所に97台のリサイクルボックスを設置をしております。その多くは屋外のため、さび等で劣化が進んでおり、収集作業車や市民がけがをするおそれもあることから、交換の必要があると判断をいたしました。85台、921万3,000円について入替えを行うものでございます。今、現状の設置しているリサイクルボックスについては、その当時特注品であったために、交換や修理ができないというようなことで聞いております。よろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） 質疑はありませんね。ああ、ありますか。

西村委員。

○委員（西村和子君） 今のは特注品だということで、今回はそうではなくて交換ができるようなものなのかということと、白色トレイだけを収集する地域では、柄がついたものもオーケーなんですけど、そこのできないという理由についてお尋ねします。

○委員長（上村和男君） 益永課長。

○環境課長（益永 晃君） まずは当時、20年代がぼんやりとしか分かっていないんですけども、こうした拠点回収というのがやっぺいこうというようなところで、製品自体もそれほど多くなかったと思いますので、製品を製造したというような経緯になりますけれども、最近になると、民間のスーパーあたりでも回収ボックスというものがありますので、事業者さんも既製品がありますので、我々も特注で出す必要もございませんので、今は既製品のものを選定をして購入をするように考えております。

あと、白色トレイのみとなっている点でございますが、今は拠点回収をした後に、それを別の再生工場のリサイクル業者さんに持っていくのが白色トレイだけになっていますので、申し訳ないんですけども、色がついたものについては、やはりそのスーパーあたりとか行ってもらって捨てていただくといいかなとは思っています。うちのルートの仕組みだけの事情でございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） それでは、質疑を終わります。

これで午前中の審査を終わります。環境課、お疲れでございました。

再開を13時からといたします。しばらく休憩します。

休憩 午後0時18分

再開 午後0時58分

○委員長（上村和男君） それでは、少し時間が早いようですが、皆さんがお集まりでございますので、予算審査常任委員会、集中審査を続けたいと思います。

これからは、環境経済部の課が入れ替わりましたので、平嶋部長から説明をしていただいで始めましょうかね。

平嶋部長。

○環境経済部長（平嶋顕治君） 皆さん、お疲れさまでございます。説明員が入れ替わりしましたので、紹介させていただきます。

○農政課長（松永崇臣君） こんにちは。農政課の松永です。本日はよろしく願いいたします。

○農政担当係長（淵崎雄貴君） 農政課、農政担当係長の淵崎です。よろしく願いいたします。

○農林土木担当係長（東 泰弥君） 農政課、農林土木担当の東です。よろしく願いいたします。

○環境経済部長（平嶋顕治君） それでは、よろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） それでは、審査資料172ページ、森林環境譲与税の使途について説明をお願いします。

課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは、森林環境譲与税の使途につきまして説明をさせていただきます。予算審査資料の172ページを御覧ください。

森林環境譲与税につきましては、市町村による森林整備の財源としまして、市町村と都道府県に対して、私有林人工林面積、林業就業者数及び人口による客観的な基準で案分して譲与されております。間伐等の森林の整備に関する施策と人材育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林の整備の促進に関する施策に充てることとされております。

令和7年度一般会計予算におけます森林環境譲与税の充当予定につきましては、まず歳出についてでございますが、下の表にありますとおり、歳出につきましては森林環境譲与税活用事業に全て充当しております。

まず内訳としまして、まず森林調査業務1,043万8,000円、こちらは森林所有者意向調査の委託料となっております。

次に、森林巡視業務55万円、こちらは民有林の森林管理巡視の委託料となっております。

次に、森林整備業務498万6,000円、こちらは放置竹林整備の委託料となっております。

次に、森林普及啓発業務としまして577万7,000円、内訳としましては、森林ボランティアと木育教室、こちらの運営委託料となっております。

次に、単独工事費300万円、こちらは林道の維持・修繕のための工事費となります。

庁用器具購入費200万円、こちらは木製備品の購入費として計上しております。

最後に、森林整備助成金としまして100万円、こちらは木材搬出促進事業の助成金となっております。

合計2,775万1,000円を計上しております。

財源の内訳ですが、まず特定財源のその他389万7,000円、こちらのその他につきましては、森林環境譲与税基金からの繰入金になります。要は、過去に積み立てた森林環境譲与税を取り崩して活用しております。あと一般財源等としまして2,385万4,000円、こちらは令和7年度に入ってくる森林環境譲与税を見込んでおります。歳入としまして、森林環境譲与税2,385万4,000円を予定しております。

以上です。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方、挙手を願います。

前田委員。

○委員（前田倫宏君） 財政課にもなるかと思えますけれども、税についてちょっとお伺いしたいと思います。これまで東北の復興税として今まで徴収されていたものが、森林環境譲与税として、目的として変わったという経緯があるかと思えます。そうした中で、要は市民がどれだけ納めていて、その譲与されるということなんですけれども、結局どれだけ市に入ってくるというのが見える化すれば、もっと市民の御理解も得られるんじゃないかなと思うんですけれども、その点ちょっとお伺いしたいなと思えます。

○委員長（上村和男君） ちょっと休憩します。

————— . ————— . —————
休憩 午後1時04分

再開 午後1時04分
————— . ————— . —————

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） 令和6年度から森林環境譲与税のほうで徴収されておりますけれども、一応個人に対しまして、1人当たり年額1,000円を徴収しております。これは住民税の均等割の枠組みを活用して、一緒に各市民の方が納税されているという流れになっています。

幾ら税金としてというのはちょっと我々はつかんでいないんですけども、一旦国のほうに納めて、国のほうが各自治体の譲与税の試算のほうをいたします。先ほど説明しました森林の面積と、あと林業就業者の人数、あと人口でパーセンテージで計算されて、各都道府県に幾らというのがまた来ます。また、都道府県の中で各市町村の譲与税額というのが出てきまして、大体年に2回に分けて、9月と3月に分かれて、譲与税が2回、各市町村に譲与税として譲与されるという流れになっております。

○委員長（上村和男君） 何か後ろで補足することがありますか。もう少し数値で言えますか。ありませんね、はい。

ということで、ほかに質疑はありますか。

春口委員。

○委員（春口 茜君） 使途についてお伺いしたいんですけども、「木材利用の促進や普及啓発等」と書いてあるんですけども、例えばプレーパーク、冒険遊び場などの活用事業に利用できるかの可能性をお伺いしたいと思います。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） まず、令和7年度の森林普及啓発業務の中身としましては、毎年実施しています森林ボランティアですね、林活議員の皆さんにも参加いただいていますけども、その2回分の運営費となっています。あと、観月会の木育教室であったり、あとコミュニティセンターのほうで木育教室を行っておりますので、そちらの、要は組立てキットの費用であったりとか、あと人件費というのが運営費として上げています。それが内訳となります。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

西村委員を先にして、辻本委員で終わります。西村委員。

○委員（西村和子君） ありがとうございます。

活用事業のところを金額を見ますと、巡視業務が55万円というのは、この金額でどの程度、どの範囲遵守されているのかなというのと、次の森林整備業務というのと、その次の啓発のところ、今啓発は森林ボランティアも入っていますよということだったんですけど、整備業務というのがかなり大きそうな気がするんですけど、森林ボランティアに行っていると、ここまで準備を整えていただくのに相当な労力がかかっているだろうなど、私たちが関わるのは1%ぐらいかなというふうに思うんですけど、そういうところ言うと、森林整備業務というのはすごくウェートが大きいんじゃないかと思うんですけど、

この配分がどうなっているのかということについてお尋ねします。

○委員長（上村和男君） 松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） まず森林巡視業務ですけれども、こちらが民有林の3,839ヘクタールであるんですけれども、各林道を回ってですね、林道の点検も含めて、林道沿いの民有林の状況というのをパトロールしています。年間大体22回かな、回っています。一応、市内の東と西に森林が大体集中しておりますので、定期的に全体を点検しているという業務になります。

次の森林整備業務につきましては、放置竹林整備ということで、今年は、令和7年度は平等寺地区での竹林の整備を考えております。面積的には0.37ヘクタールというのを令和7年度は考えております。

以上です。

○委員長（上村和男君） ほかはありますか。

じゃ、辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） これは所管でいつもお話を聞いている部分なので、先ほどの森林普及啓発業務のところのボランティアの2回分ということで、この筑紫野市は確かにこの森林環境譲与税を頂いて、こういう生かせる現場があるということで、すごくいいなと思っています。

先日ちょっと世田谷区の話を見て映画で見たんですけど、あそこは6,000万円あるんですよ。その区域内に森林は一切なくて6,000万円来るので、どうして使おうかというので市民に投げかけて、使い方を公募して、自分たちが森林をどういうふうに育てたらいいのかという、反対に市民に考えてもらって使い方を考えるというイベントがあったというふう聞いて、「ああ、それもありやね」と思ったんですね。

さっき前田委員が言われたみたいに、私たち、年に1,000円ずつを税として納めて、それが果たして自分たちにどんなふうに戻ってきているのかというのがなかなか見えない。この事業については、年に1回きちんと活動報告をホームページで公開するようになってるので、意識的な人は見ているかもしれないけれども、知らない人はほとんどどう使われているか分からない。まあ、ほかの税と同じかも分からないんですけど。

そういう意味では、森林ボランティアをもう少し広めていくような、事業として拡大していくようなことと、木育もなかなか、どういうふうに使われているのかがちょっと見えない。部分的に参加した人にしか分からない。庁用器具の購入費に木製製品を入れると言

われたんだけど、ちょっとどこのまちに行ったのかは覚えていないんですけども、そこに行ったときに、「これは森林環境譲与税でそろえました」ということをちゃんとタグをつけてあったんですね。「ああ、そういうのっていいな」と思ったので、ぜひ庁用器具、あるいは市民の目に触れるような場所に「これは森林環境譲与税が使われています」ということをもう少しアピールしていただけたらいいのかなというふうに思ったんですね。

ぜひそういうふうにしていただけたら、この私たちのまちで2,385万円頂いているというところが、これまでずっと過去に積み立てるしかしてこなかったもので、なかなか使い道が見えなかったもので、ようやく使い方が少しずつみんなの目に触れるようになってきたら、それがより市民に分かっていただけるように、さらに筑紫野市にはこれだけのたくさん森林があるということを市民の皆さんに知っていただけるような機会をもう少しつくっていただけたらいいのかなと思っているんですね。

確かに近隣のまちでも、これだけの52%の森林があるところは珍しいし、それも、過去の歴史的に見てもきちんと整備されてきた経過があるので、これを大事にしようというのは筑紫野市民の大きな財産として言っていけるんじゃないかなと思うので、そういうふうな使い方、そういうふうなことをお知らせしていけるような事業が組み立てられるといいかなと思っているんですね。まあ、ほとんど意見になりますけれども。

質問としては、庁用器具は200万ですけれども、どういうところに使われるのかということと、これは継続的に市内の木材を使っていけるような事業になり得るのかということをお尋ねします。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） ありがとうございます。

森林環境譲与税の使い方、使途については、今ホームページでも、どこの自治体でも「どういう使い方をしました」という公表を決算後に行っています。やはり見せ方の工夫はしないといけないかなと思っています。ちょっと味気ないホームページよりは、今辻本委員が言われましたとおり、例えば活動の状況とか、「こういうことをしていますよ」というのを、多分写真つきとかで、そういったホームページを工夫してというのは考えていけないかなと思っています。

木製備品の関係なんですけども、一応こちらについては、令和6年度の初めに全庁に、来年度以降というか7年度以降、木質化とか木製備品の導入をしたいということで、要望調査のほうを行っております。要望調査を行いまして、一応備品として欲しいということ

で返ってきましたのが、カミーリヤと生涯学習センターのほうが共有スペースがあると思うんですけども、そこは夏はクーリングシェルターになって、避難所になっているというところもあって、両施設とも長年、もう何十年とたっていてですね、今ある憩いの場のスペースというか、テーブルとか椅子というのはやはりちょっと古くなっているというところで、今回譲与税を活用して、そういうテーブルとか椅子というのを更新したいというところで受けております。令和7年度については、まず要望があったところのカミーリヤと生涯学習センターのほうを優先的に予算の範囲内で行っていこうかなと思っております。

200万の根拠としましては、予算要望時がまだ要望の取りまとめ中ということもございまして、まだ物が確定していない中で予算要求をさせていただいております。担当課としましては、委託費のほうを多少縮小して、譲与税の1割程度は確保したいなというところで、今、予算要求のほうをさせていただいております。

今後の動きなんですけども、要望については毎年継続して行っていこうかと思っています。あと、市長のほうもやっぱり市産材の活用ということでずっと言われていまして、今現在の言える範囲での動きとしましては、やはり筑紫野市から出る木を利用して備品とかそういう小物を作りたいというところがございます、今ちょっと相談しているのが、福岡で言うと大川家具、皆さん御存じだと思うんですけども、大川市のほうが、ほかの自治体さんが今言われたとおり、春日市とか森林を持っていない市町村が使い方をちょっと悩んであって、やはりそういう木材利用にしか使えないというところがありまして、そういった自治体からの依頼を受けて、大川市さんが要はオーダーメイドで家具とか遊具とか小物関係を受注してされているというところがあります。

そういったところでたまたま昨年、大川市さんのほうから、「今度、山を持っている市町村をターゲットに、一緒にしませんか」とお話が上がってございまして、今現在、大川市さんのほうと話を進めています。筑紫野市から出た木を大川市さんが持って行って、それを基に木を使って家具とか小物を作っていくというところで、今どんどん進めているところです。大川市さんとしては、「基本的には何でもできます」というところで返事いただいておりますので、こういった机とかの家具とか、小さい、本当に子どもが使うようなおもちゃとか、基本的には何でもできると聞いております。

そういったところで所管課でいろいろ要望も聞いた上で、予算の範囲にはなってきますけども、少しずつでもいいので、やっぱり市民の方が見えるところをまず優先的にそういったのを設置して行ってですね、あと、まあ小物にはちょっとなかなかあれなんですけ

ど、例えば「これは譲与税を使って作ったものですよ」というしおりを入れるとか、あと備品であれば、「これは譲与税を活用して作ったものです」というプレートですね、そういったものも、基本的には国のほうからもそういうのをつけてくれと言われていて、そういったところも含めて今検討しているところですので、徐々にそういったのを広げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（上村和男君） 宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） るる説明ありがとうございます。

今年の今月の3月1日に、筑紫野市内の建築物等における木材の利用の促進に関する方針というのを打ち出されたと思うんですけど、今言われる説明がありました小物はもとより、建築物、国では公共施設というふうにうたっていますけど、そういう検討がなされていくのか、ちょっとお伺いします。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） 今、宮崎委員のほうからありましたとおり、木材利用の促進というところで、もともと公共建築物に対しての利用促進という方針だったんですけど、国のほうが脱炭素社会に向けたというところで、公共だけじゃなくて民間に対してもというところで法改正をされています。一応それに伴いまして、国と県のほうが方針のほうを改正されましたので、本市のほうもそれに向けて今回3月に、要は建築物に対しての木材利用というところで方針を出しております。

一応、部長会のほうでもその説明はさせていただきまして、「今後、箱物というか建築物を建てるときは木材の利用をするというところは必ず検討してください」ということで今お願いをしております。ですから、建物自体の例えば木質化であったり、備品関係もできるだけ木材のものを利用していただきたいというところで、あとは予算の範囲内というところもございますので、そういったところで「必ず検討はしてください」ということでお願いはしております。

○委員長（上村和男君） 西村委員。

○委員（西村和子君） すみません、啓発のところと今の木製品のところと絡むのかなと思うんですけど、筑紫野市の森林から取れた製品ということで、健康推進課がやっている「運動をいっぱいしましょう」というポイント制度、あそこのところの景品に持っていくとかいう連携をされると、二つのことができるのかなと思うので、そういうことを連携が図れるのかというのと、市内のボランティアグループでも木工のパズルとか作っている

団体があるんですね。その人たちは建築現場に行って、「すみません、廃材を下さい」と言ってもらっているというので、そういうところに提供して、そこからも啓発していくということも考えられると思うので、そういうことが今後計画されるかどうか、いかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） 松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） 健康推進課の分は、まだ私も今初めて聞きましたので、そこはまた担当課のほうと詳しく詰めていきたいと思っています。

あと廃材関係は、実際一部廃材を渡したりはしているんですけども、生涯学習とか、あと学校の特別支援学級とかあるんですけども、「木材を何かくれませんか」というのがあってですね、もう去年ぐらいから森林組合のほうにもお願いして、やっぱりいろいろ加工すると端材が出てきますので、そういったところを、「要らないものをちょっと下さい」というところで一部取組はしていますので、そういったところはまたお声をいただければ、お手伝いできる場所はあるかなとは思っております。

○委員長（上村和男君） いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、次の項目に移ります。173ページ、農業振興について、5年間の米・麦・大豆の収穫量の推移、今後の展望について説明をお願いします。

農政課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは農業振興について、5年間の米・麦・大豆の収穫量の推移、今後の展望について説明をさせていただきます。

まず、米・麦・大豆の収穫量の推移についてですが、表に記載しておるとおりになりまして、直近の令和5年で言いますと、米が2,020トンで麦が1,191トン、大豆が99トンとなっております。

今後の展望につきましては、農業を取り巻く情勢につきましては、やはり生産者の高齢化、担い手不足、農地面積の減少、気候変動の影響による農産物の品質低下、収穫量減少や資材の高騰など様々な課題に直面しており、農業経営はますます厳しい状況下にあります。このような情勢の変化に対応するため、農業政策の方向性を示します食料・農業・農村基本法、農業基本法と言いますが、こちらが四半世紀ぶりに改正されまして、食料安全保障など基本理念の柱として位置づけられ、抜本的に強化をされております。

今後、国では法改正に伴いまして具体的な施策の見直しが見込まれておりますので、本

市におきましても常に国や県の動向に注視しながら、状況に応じた対応を行ってまいりたいと思います。

以上です。

○委員長（上村和男君） 檜木委員。

○委員（檜木孝一君） 説明ありがとうございます。表を見ますと、米がほぼ横ばいで、小麦、大豆の2品目が増ということが確認をされるところでございます。厳しい状況と言いながら、一定、生産活動は活発に行われているんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

それで、今後の展望の中で述べられてございます、農業基本法が25年ぶりに改正されたこと。今後国でも、法改正に伴い具体的な施策の見直しが見込まれておると。最後に、「本市でも状況に応じた対応を行ってまいります」というふうに書いてございます。

国でございますが、さきの衆議院の予算委員会等を見ておりましたけども、首相、農林水産大臣ともに、「食料安全保障の観点から農地、水田を、そして農業者をしっかり確保しつつ、穀物を増産する、そして日本の食料を守っていく」と述べてあります。また、「農業者の生活を支えるためにも、何か新たな手だてを考える」とも発言があつてございました。

今後の国の穀物の増産、国の交付金の拡大等のお考えをお尋ねをいたしたい。これは答えられる範囲で結構でございますので、お願いいたします。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） 今、大体動向をつかんでいるところでちょっと御説明したいと思います。

まず、農林水産省は水田政策の見直しの方向性を表明しておりまして、現在政策の柱であります水田を活用して、麦、大豆、また飼料用米、あと高収益作物、これは野菜や花卉類になりますけども、こちらを生産する農業者を支援いたします、水田活用直接支払交付金というのがございます。こちらの交付金を見直しまして、今後は作物ごとの生産性を向上する支援に政策が転換されるようです。

水田活用につきましては、令和4年度から5年間で一度も水張りされていない水田については、令和9年度以降は交付対象としないという5年水張りルール——言葉を聞いたことはあると思うんですけども——というのがありまして、要は5年間のうちで一度も水張りしていなかったらもう対象から外すというところで、結構、農業者の方から批判があつ

ていたんですけども、先日、正式に廃止のほうが決まりました。

あと、水田活用につきましては、要は水田を活用した事業になりますので、水田が対象でしたけども、今後は畑地のほうですね、こちらも対象に恐らくなるだろうというところで、まだ決定はされていませんけども、そういった動きがっております。

国としまして、2025年度中、令和7年度中に制度内容のほうをまとめまして、2027年度、令和9年度から実施できるように、今、制度内容の見直しに向けて動いているところでございます。本市農業者への影響につきましては、まだ制度内容のほうがなかなか明確になっていないということもありまして……。〔「国まで」と呼ぶ者あり〕あぁ、国まで。じゃ、以上になります。〔「関連で」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 関連で。はい、檜木委員。

○委員（檜木孝一君） 国の動きを丁寧に説明していただいております。非常に拡大の方針だというふうに受け止めさせていただきます。

さて、本市の支援策でございます。本市ではこれまで国の交付金とは別に、市独自の作付交付金、今年も新年度予算でも水田調整対策補助事業といたしまして1,800万円上がっておりますけれども、これはずっと継続をしていただいております。そういったものによりまして農業者は支援を受けてきたところでございまして、大変助かっておるところでございます。

国の方針等で穀物の生産が増えれば、その分、価格が下がります。そうしますとその分、農業者の手取りが減少することになってまいります。そうしたときに、これまで同様に市独自の補助金、交付金の充実を図っていただきたいというふうに考えております。見解をお伺いいたします。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） 水田活用直接交付金のほうが多分制度見直しになるということで、本市の独自事業としまして、今檜木委員のほうからありましたとおり、水田調整対策補助事業のほうを実施しております。こちらの交付対象者というのは、転作された農業者に対して交付しておりますので、国が実施しています水田活用交付金と同じ対象者となっております。

今後、国のほうがですね、先ほども説明しましたとおり畑地を対象にするとすると、対象がかなり増えてくるというのは予想されております。本市としましても結局、対象が増えますと、予算が変わらなければその分交付額が減っちゃうということになりますので、

そういったところがないよう、本市としましては国の情勢に合わせて見直しというのが出てくるのかなと考えておるところです。

以上です。

○委員長（上村和男君） 佐々木委員。

○委員（佐々木忠孝君） すみません、こちらに記載されている米・麦・大豆、市内自給率というのが分かれば教えていただけますか。

○委員長（上村和男君） 分かります、課長。

○農政課長（松永崇臣君） すみません、ちょっと自給率は把握できておりません。分かりません。

○委員長（上村和男君） 自給できておりません。

高原委員。

○委員（高原良視君） 今説明がありました、一番当初に課長のほうから、非常に農業を取り巻く情勢が厳しいお話がありました。今話を聞きますと、2,000万弱の分を出しておると。これはもうずっと昔からの値段の部分ですかね、何十年もね。やはりそういう状況だからこそ今、そういう金額を、2,000万をね、やっぱりまだずっと増やしていくという基本的な考えがないと、一番当初に話があった農業を取り巻く情勢、もう本当に農業が見放されていく、農業者から見放されていく状況が出てくると思いますので、やはり市として、この分について、農業についてももう少し真剣にね、担当部署は一生懸命頑張っているけど、後ろのほうからお金がないというような言い方、ほかのところでお金を使われますけどね、あといろいろずっと次のページやら見よったら、次のページに行ったらいけませんけど、金額がね、安いんですよ、農業に対する部分がね。小さい部分でいろいろ、部会とか行ったら100万でしょう。これだけしてある分が部会が100万ね。先ほどの猫の分は180万円。そういうものも考えながら、やっぱり農業にももう少し力を入れていかんといけないんじゃないかなと思っております。

○委員長（上村和男君） 今のね、ちょっと言うことあるでしょうから。はい。

○農政課長（松永崇臣君） すみません、ありがとうございます。担当課としても農業者の厳しい状況というのは肌で感じておりますので、きちんと検討した上で、担当課としては、御提示をいろいろさせていただき、提案させていただければなと思っております。

○委員長（上村和男君） 宮崎委員、何かある。ああ、八尋委員か、はい。

○委員（八尋一男君） 全議員の人にも知ってほしいと思って言いますが、ここに分析

されているとおり、生産者の高齢化、担い手不足、農地面積の減少、気候変動、よく勉強じゃないけど、よく分析されています。そのとおりです。これをいかにして手を打つかと。ちょっと話が大きくなりますけど、県知事が「今からの農業は物すごく大事です」と盛んに言っています。「農地の集約化、大規模化、そしてスマート農業、AIを使った、ドローンを使うスマート農業をやります、そして若い人たちに農業をいそしんでもらいます」と。格好いいんですよ、皆さん聞いたら、「うーん、そうか」と。

しかし、農地の4割は中山間地ですよ。これを無視して農業は守っていきませんよ。ここをね、日本の農業は全部そういうことやから、「筑紫野市はこうやるんですよ」ということをしっかり取り組んでもらわないと、きれいごとで国の予算をどうのこうのとかいうことじゃなくて、「筑紫野市はこうやっていくんですよ」ということをぜひとも取り組んでいただきたいというふうに思いますので、何か見解がありましたら、部長からでもいいですが、よろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） 平嶋部長。

○環境経済部長（平嶋顕治君） 八尋委員がおっしゃるとおり、本当に厳しい状況になっております。「農家の方たち、1時間働いても時給は10円ぐらいしかないんだよ」という話もよく聞くところがございます。その中で、私たち農政課、環境経済部としましては、農家を守る、農家を支えるというのが私たちの仕事でございますので、農家の方たちが少しでも生活がよくなったというような政策を考えていかなきゃいけないと。

その中には、八尋委員言われたとおりICT化とかいろいろなものがありますし、高収益の野菜を作ったりとかそういうものもありますので、できるだけ農家に寄り添う形で、今後もいろんな座談会等々がありますので、その中でお話をしながら、筑紫野市に合った農業というのを進めていくためにはどうしたらいいのかというのを研究しながら、農家の方たちと一緒に、少しでも皆さんが満足できるような形にしていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○委員（八尋一男君） はい、よろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 私から一言だけ言っておきます。

農地を集約化して、規模拡大をやって、機械化をしてという、八尋委員が「きれいごとを言うな」と。最初それをやると、何年かたつと機械が古くなって使えなくなる。そのと

きに機械を買い換えようとする金が出てこない。そういう状況の中にみんな陥っているんですね。働いている人が高齢化しているだけじゃないんですよ。支援の仕方自身がもう老朽化しているか、現実にそぐわなくなっているんですよ。

だから高原委員が言うように、もうちょっとちゃんと考えんねというね、そういう段階にありますので、市政だけではどうしようもならない面もあると思いますけども、やっぱり県や国を挙げてきちっとやるべきだという意見を表明するぐらいのことがないと、本当に農業が減んだときに、食料の安全保障とかいうのはどこかへもう吹っ飛んでしまいますよ。佐々木委員が嫌らしい質問をしていましたよね。筑紫野市の市民が食べる米を筑紫野市で生産できていますかという質問ですからね。一度考えたことがありますけど、生産できていませんのでね。

だからそういう意味でも、地産地消だとかいうのを絵空事ではなくてみんなで考えないと、本当に世界中が食料難の時代がもうここまで来ているわけですから、私は本当に、市民の命を守るという立場に市議会があつたり、行政があるとすれば、本当に真剣に考えないとね、「どうしますか」というような何か起こったときね。ウクライナであれがあつただけでもう高物価でしょう。みんな暮らしていけない人たちがいて、米をくれと、米がなれと言っている人たちがあちこちにいるんですよ。私はそういう実情を踏まえながら、きちっとやる必要があると。

だから、高原委員が言われたことを肝に銘じていただきたいのは、あれは議員でもありますが農業者でもありますのでね、本当に農業者の声を聞いていただきたいという思いでおりますので、聞いてはいると思いますが、何ともしがたいところに立たされているのはあの人たちだと思いますので、もう少し一緒に頑張っていきたいと思っております。

申し上げた上で、この項目は終わりでもいいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　じゃ、次に入ります。野菜振興対策補助事業、事業内容。

松永課長。

○農政課長（松永崇臣君）　野菜振興対策補助事業、事業内容について説明をさせていただきます。予算審査資料の174ページになります。

事業予算額108万円で、一般財源108万円となっております。

事業の目的につきましては、地産地消を推進し、消費者に安全で安心できる農産物を安定して供給することで、生産者の所得向上と生産意欲の向上による農業振興を図ります。

事業の内容としましては、筑紫農業協同組合が組織しております野菜生産部会に対しまして、組織育成のための研修会費や、安定供給体制の確立のための資材費等への補助金を交付しております。主な交付対象部会としましては、JA筑紫のブロッコリー部会、JA筑紫のアスパラガス部会、ふれあい市出荷グループ、JA筑紫キクイモ研究会、JA筑紫ショウガ出荷組合、JA筑紫ブドウ出荷組合、JA筑紫タケノコ出荷組合、JA筑紫イチゴ研究会となっております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 質疑のある方は手を挙げて。

赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） 今、部会で言うとブロッコリーとアスパラガスだけという状況だと思うんですけど、ショウガ農家さんに聞いたら、ショウガも昔は部会があって、またその部会を復活させたいみたいなこともおっしゃっていてですね、というのもあって、出荷組合じゃなくて部会という形で。なので、その部会とか出荷組合の、すみません、ちょっと不勉強で、違いだったりとか、もしくはその部会の状況、ショウガがなくなったということをお聞きすると、ブロッコリーとかアスパラの部会はちゃんと運営できているのかとか、何かその辺、もし分かれば教えていただきたいなと思います。

○委員長（上村和男君） 農政課長。

○農政課長（松永崇臣君） 分かる範囲でですけども、各部会については、活動が活発なところとそうでないところって確かにあるようです。やっぱりブロッコリー部会とかアスパラガス部会というのは結構毎回集まったりして、今年の気候がどうかとかいろんな話合いもしてまして、いろんな研修会とかにも参加したりして、「ここの地方じゃこういうことをしているよ」というところも、いろんな勉強もされています。先日もほかの都道府県の、「テレビとかで見ていいところがあったんだけど、視察に行きたいので、どうにかアポを取れないか」というところも相談があってですね、活発なところはそういったところで視察までされて、いろんな技術向上に向けての取組活動もされています。

先ほど言われましたショウガ出荷部会と組合ですね、違いというのはすみません、実際JAのほうでこれは組織しておりますので、我々のほうではそこがまだ分からないところではございます。野菜部会については、実際JAのほうに対しまして、活動の内容をどこまでされているのかというような把握も、我々としてもきちんとしなないといけないなと思っていたところです。

実際、部会それぞれがですね、今、補助金は108万ありますけども、割り振りとかについては、もうJAさんのほうに基本的にはお任せしている状態になっています。我々としてもそういった有効に活用できるような、部会とかに割当てとかですね、実際、本当に足りているのか足りていないのかということも正直、面と向かって話合いもしていませんので、私としてはそれをJAのほうには、年末そういう打診はしておりました。ですので、そういった取組のほうはしていきたいと思っておりますので、部会の内容をもうちょっと把握した上で判断していきたいと思っております。

○委員長（上村和男君） ほか、質疑ありませんか。

高原委員。

○委員（高原良視君） 先ほども言いましたけど、まずね、ふるさと納税とかいうてするでしょう。その中の品目にね、こういうのを全部入って充実させてしていけるような分、今の100万じゃなくして、市のほうから出す、JAから出す、普及所からの指導を受けながら、どんどん新しいものに開拓する、ブドウならブドウも、シャインマスカットを始めるとか、そういうものの農業の部分に力を入れないかん。

だから私はもう今年はね、7年度は100万なら100万でもいい。担当者からすれば、「来年度は倍額に要求して勝ち取ります」ぐらいの気持ちをここで出してもらうぐらいの、課長の意気込みが欲しいと思います。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） もう今お言葉いただきまして、私としてはもうちょっと頑張っていていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○委員長（上村和男君） よし。じゃ、頑張る。

農政課はこれで終わったですかね。じゃ、まだ続きますので。拍手したので終わったのかと思って。それじゃ、176ページ、有害鳥獣対策事業、事業内容に入ります。拍手が起こったやら初めてやな。

松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは、有害鳥獣対策事業、事業内容について説明をさせていただきます。

まず、事業予算額204万6,000円、県費60万円、一般財源144万6,000円となっております。主な特定財源としましては、農林水産部関係権限移譲事務交付金となっております。

事業の目的につきましては、市内農業者の被害防止対策への取組に対して補助を行うと

ともに、筑紫野市鳥獣被害防止計画に基づき筑紫野市鳥獣被害防止対策協議会が行います有害鳥獣捕獲活動により、農林産物被害の軽減を図るものです。

事業の内容としましては、鳥獣被害対策実施隊員報酬及び旅費としまして予算額7万8,000円。こちらは筑紫野市鳥獣被害対策実施隊の活動に対して報酬、費用弁償を支給するものです。

次に、鳥獣被害防止対策協議会負担金としまして予算額141万円。筑紫野市鳥獣被害防止対策協議会の運営経費の一部を負担するものです。

最後に、有害鳥獣対策費補助金としまして予算額55万8,000円。農業者の電気柵設置及びわな狩猟免許取得費用の一部を補助するものでございます。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） 説明ありがとうございました。

令和6年度と令和7年度、来年度の予算が、全く一緒の予算金額になっています。それと確認なんですけど、県費が6年度に比べると若干少なくなっているんですけど、その理由をお伺いします。

○委員長（上村和男君） 松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） 県の60万円については、要望のほうはしておるんですけども、これは内示額となっております。

○委員長（上村和男君） 坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） これはほかの議員さんとかも、一般質問とかでこの対策に対していろんな要望とか提案とかがされてあったんですけど、そのときの回答に関して、どういうふうに今回そういったことを考えられてこれを出されたのかをお尋ねいたします。

○委員長（上村和男君） 松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） 7年度の予算につきましては、令和6年度に一度、41万円の増額を行っております。鳥獣被害防止対策協議会につきましては、市の負担金以外に国・県からの交付金のほうも受けていまして、年間約700万前後の予算で活動を行っているところです。

確かに令和7年度も同額で今計上しているところなんですけども、駆除班の活動を維持するためにやっぱり継続的な支援は必要だと考えておりますので、今年41万上げて、その

分できるだけ、やはり駆除班が担っているところが大きいというところがございまして、そういった手当等とかで、出勤回数とかに応じてそういうふうに交付できないかというところで、駆除班とは相談しているところでございました。まだ実績等が今は上がってきておりませんが、引き続き駆除班のほうとは協議を行いながら、今後どうしていくかというのはまた検討していきたいと思っております。

あと、また電気柵等の補助金についてなんですけども、こちらにつきましても、今イノシシ用の電気柵の補助金のほうを助成対策しているんですけども、今、やはり鹿等もちょっと増えているということもございまして、鹿対策用の防護柵というのも製品としてございますので、農林業者の需要を把握しまして、補助制度の在り方というか、そういう充実というのも今後図っていかないといけないかなと思っております。

あとは国のほうにですね、地域に行ったら鉄柵のイノシシとかの防護柵はあると思うんですけども、あちらのほうも結構、もう10年以上たって老朽化しております。今ちょっと国のほうに相談していますが、次の更新をしたいというところで国のほうに相談のほうをしておりまして、更新する際に、今は高さが低い、1メートルぐらいなのでイノシシ用の柵なんですけども、これを鹿対策用の柵がありまして、それが大体2.5メートルとかあるんですけど、そちらに更新ができないかというところで今要望のほうをしておりますので、今後はそういった取組のほうをしていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 今、柵の検討をされているということでございますけど、我々会派で、この有害鳥獣対策に取り組まれている熊本の事業者に勉強会で参加をしております。それで、その分析がやっぱり必要みたいなんですよね、まずは土地柄とかも含めて。その電気柵も、金網もですね、根入れの部分に外向きにやれば、イノシシが掘ったときに出てくるので嫌がると。そういったのも併せて、ぜひ検討していただけないかなと思うんですけど。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） 電気柵についても、いろんな今新しいものも対策、ほかの自治体でもいろんな対策等が出ていますので、今前田委員が言われましたとおり、そういったところも、新たな取組等も取り入れてできたらいいなどは考えております。

○委員長（上村和男君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 今、イノシシの駆除費というですかね、対策費は、筑紫野市、分かればこの近隣ですね、お願いしたいと思います。また鹿の対策費も同じでございます。

○委員長（上村和男君） 分かりました。（「ああ、はい、分かりました」と呼ぶ者あり）はい、松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） やっぱりイノシシもですけど、今、東側のほうがですね、御笠川のほうがもともとイノシシと鹿が多かったんですけど、今は平等寺側のほうも若干鹿が出てきていると聞いています。ですので、そういったところで全般的に、やっぱりイノシシ、鹿というのは重点的に対策していかないといけないなどは感じております。

以上です。

○委員長（上村和男君） 田中委員。

○委員（田中 允君） それで、例えば1頭当たりとかそういう費用、何ですかね、駆除費というですかね、どのような表現を使ったらいいか分かりませんが、そこらあたりは近隣市と比較してどのようですかね。

○委員長（上村和男君） 松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） 今、田中委員が言われましたとおり、1頭当たり7,000円支給していると、県のほうに要望してしているところなんですけども、小型動物だったらたしか1,000円とかなんですが、やはり、「ちょっと1,000円じゃ」という声も聞いています。ほかの自治体等も含めてですね、実際されているところもでございます。できるだけ我々としては駆除班のほうに手厚くしたいなという考えもございますので、そういったところで全体的に検討できればと思っております。

以上です。

○委員長（上村和男君） ほかにありませんか。

八尋委員。

○委員（八尋一男君） 最後のまとめになります。高原委員が後ろにおられるから言われるかもしれませんが、松永課長になって何も分からんから、昨年と同じようにコピー・ペーストされたら。次回、来年の計画はですね、その対策が悪いとは言いませんが、せめてこの200万の増額をまずは検討すべきやというのが一つと、それからこの事業内容の中で、イノシシも鹿もですが、一晩で山を越していきます。だから筑紫野市だけが頑張ったってどうにもならんような状態ですから、この協議会をされる時だったら、福岡県は全国で2番目の被害の県ですからね、それからいくと、やっぱり近くの筑前町とか太宰府と

か大野城とか那珂川とか、そういう人たちと集まって、「どうやっていきましょうか」という形で総合対策をしないと、「我が市だけでやります」と言うたって非常に難しい面があると思います。

結論は、事業内容は、来年はころっと変わった内容がここに記載されることを期待して、一言それについて見解があればお願いします。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） いろいろ意見をいただいているところでございますので、我々としても、やはり広域連携というところもですね、今八尋委員言われましたとおりのなっていますので、そういったところでお隣同士で協力し合っただけでいいなと思っております。予算につきましては、はい、頑張ります。

以上です。

○委員長（上村和男君） 副委員長から質疑があります。

○副委員長（城 健二君） すみません。さっきの八尋委員にちょっと付随しているんですけどね、私この間、御笠の柚須原という地区があるんですけど、あっちのほうの住民の方とお話ししていたら、峠を越えると飯塚ですよ。あの峠を境に、飯塚のほうは柵が違うんですよ。筑紫野のほうは鉄製でできて、飯塚のほうに行くと、あれは何ですかね、ある意味じゃ何か知らないけど、違うあれでできているんですよ。

それで結局、柚須原の方が言われていたのは、要はあっちのほうは高くてさびないと。長もちすると。結局、鹿なんか入れないから、入れない鹿が全部こっちに来るんだよねって。結局はこっちのほうを見ると、確かにもう柵がさびちゃっているんですよ、みんなこの筑紫野のほうに来たら。その辺においても、さっきの八尋委員が言うように、やっぱり隣との関連というのも考えて、その辺で対策してもらいたいなということです。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） 御意見ありがとうございます。もうそこも重々検討した上で今後やっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） じゃ、本当に拍手をもらっているので頑張ってくださいね。

○農政課長（松永崇臣君） はい。

○委員長（上村和男君） 次に行きます。178ページ、地産地消推進事業、事業内容に入ります。

課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは、地産地消推進事業、事業内容について御説明いたします。

事業予算額31万円、一般財源31万円となっております。

事業の目的としましては、市内でのイベントにおきまして、地元産の米、野菜、加工品などについての情報の提供を行い、市民の地元農産物への関心を高め、消費者に安全で安心できる農産物を安定して供給することで、生産者の所得向上と生産意欲の向上による農業振興を図るものでございます。

事業の内容につきまして、過去3年間につきましては、令和4年度につきましては、コロナによるイベント自粛により中止をしております。

令和5年度から地産地消マルシェのほうを開催しております、12月、1月、2月の3回開催をしております。また、藤まつり、観月会で産直マップとお米のほうの配布を行っております。

令和6年度につきましては、引き続き地産地消マルシェを開催いたしまして、8月、12月、1月、2月の4回開催をいたしております。あと、筑紫野市女性グループによる野菜配布イベントのほうを開催いたしまして、農業者と消費者との懇談会を実施しております。

令和7年度の事業予定につきましては、引き続き地産地消マルシェの開催、筑紫野市女性グループによる野菜配布イベント、藤まつり、観月会で産直マップ等の配布による啓発活動のほうを行っていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

吉村委員。

○委員（吉村陽一君） 先ほどから農業関係についてはいろんな意見が出されていると思うんですけども、この筑紫野市が行う地産地消推進事業ということで31万円という金額もついていると思うんですけども、その地産地消ということから言ったら、例えば市内農産物の公共調達であるとか、例えば学校給食で市内の農産物を使っていきますよとか、安定した金額で行政が農産物を買取るとか、そういった方向性というものが、例えば環境経済部だけではなくて、教育部とかそういったところと横断的な話がこれから、今なされているのかということと、これからそういった方向性で考えていく御予定があるのかという見解をちょっとお伺いしたいんですが。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） 地産地消につきましては、学校給食等でもできるだけJAさんのほうには、地元産の野菜は地元というところで、今、出荷等もしていただいているところではございます。そうですね、教育関係ともそういった野菜の地産地消の推進については、そういったところで連携を取りながらやっていくしかないかなと考えてはおります。

以上です。

○委員長（上村和男君） ほかありますか。

西村委員。

○委員（西村和子君） まずマルシェの件なんですけれど、去年、令和6年度は年に4回、ああ、3回か。どちらも3回みたいなんですけれど、これってもっと、極端に言えば週に1回ぐらいやらないと、何というかな、定着しない。たまにイベント的にあっても、食べるものですから常時必要なわけですよ。なので、せめて月に1回ぐらいでみんなが印象に残るようにしておかないと、忘れた頃だと、本当に何というのかな、「ああ」という感じで何か印象に残らないので。

それと参加のところをもう少し、たくさんの農家の方に来ていただいて、いろんな、筑紫野市にはこんな農産物があるんだよということをやっぱりアピールしていただく必要があるんじゃないかなって。ほかの農作業との関係で難しいのかと思うんですけれど、本当に地産地消を進めていくんだったら、もうちょっと努力をしていただけないものかというふうに思います。

それと、6年度のところの最後の女性グループによるところで、農業者と消費者との懇談会とありますけど、これは昔やっていた、お料理をやるあれですかね。これも何というかな、例えば圃場の見学を抱き合わせるとかですね、何かやっぱり農業に対する理解というのを進めていかないと、どうしてもやっぱり消費者は、目の前に並んでいる商品として見てしまうんですよ。なので、「ああ、こういう努力をして私たちの口に入っているんだ」という理解をしないと、やっぱり地産地消は進まないと思うので、もう少し工夫をしていっていただきたいというふうに思います。いかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） マルシェにつきましては、やはり季節野菜、その時期で出るものを来店しています。回数につきましては、やっぱり農作業とかいろいろされています

ので、毎月毎月というのはなかなか難しいところはあるようです。あとは野菜の収穫量の関係もございますので、一応できる範囲というところで今、当初3回だったのを4回、できるだけ5回までできればなというところで、現在女性グループのほうともお話ししているところです。

あと出店数のことに関しても、実際アンケートを取っているんですけども、その中でも「もうちょっと増やしてほしい」という意見も中には確かにございます。一応、協議会、事務局としてですね、これはJAさんも一緒に入っていていただいてまして、JAさんのほうに何か出店してもらえないかというところで、今協議を行っています。例えば女性グループであっても、要は筑紫野市に限らずでもないんですけど、ほかのところも、那珂川でもいろいろあるんですけども、そういったところの特産物を売るというのも、それもいいのかなどというひとつ考えもあってですね、逆に筑紫野市が違うところに行って販売するとか、まあ、それはお互いさまというところで、JA筑紫のほうに、そういったところはないかというところで今打診をしているところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 期待が大きいので、予算は少なく、やれという仕事は山ほどあるみたいですね。

はい、じゃ、この項目はこれで終わります。

時間が時間なので、20分まで休みます。テンポを上げていきますが、もうしばらくお付き合いください。はい、20分まで休みます。

—————・—————・—————
休憩 午後2時06分

再開 午後2時20分
—————・—————・—————

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を再開をいたします。

次は179ページ、環境保全型農業直接支払費交付金事業、事業内容についてであります。松永課長より説明願います。

課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは、環境保全型農業直接支援費交付金事業、事業内容

について説明をいたします。予算審査資料の179ページを御覧ください。

事業予算額158万1,000円、県費118万5,000円、一般財源39万6,000円となっております。主な特定財源につきましては、環境保全型農業直接支払交付金、県費の4分の3となっております。

事業の目的、内容についてですが、環境保全型農業に取り組みます農業者に対しまして、面積に応じて一定額を補助するものでございます。地球温暖化防止、生物多様性保全等に効果の高い環境保全型農業に取り組む農業団体等が実施いたします事業に対して、補助金を交付することで環境保全型の推進と地域環境の保全を図るものでございます。令和7年度は継続して2団体が有機農業と堆肥の使用に取り組む予定でございます。

取組予定面積につきましては、まず有機農業が620アール、単価が10アール当たり1万4,000円ですので、合計86万8,000円となります。堆肥の使用につきましては1,980アール、単価10アール当たり3,600円ですので、合計が71万2,800円となります。よって面積の合計は2,600アール、予算としましては158万800円となります。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 質疑のある方は。

檜木委員。

○委員（檜木孝一君） 説明ありがとうございます。

この環境保全型の新規を見てもと、過去3年間、大体1,500万円程度で変わっていないところでございます。そしてメニューを見ても、農薬の代わりに堆肥を使った有機農法に対する補助金、そして2団体、これは実質上1グループだというふうに思います。これが継続しておるということでございます。国が持っているメニューの中には、このほかの有機農業の取組として、中干し期間の延長とかいろいろ、まだあったと思います。これはメニュー数ももっともっと増やしていくべきだと思いますし、取り組むグループも団体も、もっともっと増やしていくべきだというふうに考えております。

この有機農業の推進は、第3次の市の環境基本計画の中身の中にも取り入れられておったことだというふうに思います。この有機農業等に取り組むと、物すごく窒素成分の農薬に比べまして手間がかかるし、取れる量が減る、少ないというものがございますですね。ですので、やっぱり補助単価をもうちょっと上乘せせんと拡大は図れないんじゃないかなというふうに考えているところでございます。見解をお願いいたします。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） ありがとうございます。

今の檜木委員の御質問は、その上乘せをしたほうが良いというところの御質問になるのでしょうか。

○委員長（上村和男君） 檜木委員。

○委員（檜木孝一君） 上乘せをして、拡大をして、取り組むグループ、そしてメニューも増やして行ってほしい、有機農業をもっと広めて行ってほしいということでございます。

○委員長（上村和男君） 松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） 環境保全型農業直接支払の事業につきましては、国のメニューで行っているところでございます。確かにメニューにつきましては、有機農業とか堆肥の使用以外にも、カバークロップとって緑肥とか、そういったほかの、炭の投入とか、そういった環境保全型の取組というのは幾つもございます。一応、今取り組んである農業者の方に対しては、メニューの説明のほうはさせていただいております。その中で、こういう取組をすればプラス補助金のほうが、単価のほうが上乘せされるというところもございますので、農業者の方の要望を聞いた上で、予算のほうは要求させていただいているところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） いいですか。ちょっと私のほうから言っておきますので。

檜木委員が言われたのは、これをこの農業でやると手間暇かかります。反収も少なくなっているのが実情ですから、もう少し補助金を増やして、こういう国の施策であれば推進するようにしてやるための事業を、もう少し予算を増やしたほうが良いんじゃないですかと言っているのです、その質問に答えるようにしてください。今はできるとかできないというふうなことじゃなくて、できていないのが実際ですから。

これを全部進めるとどれぐらいになるかちゅうね、計算するとね、とてもじゃないがなかなか難しいんですよ。中山間地はもっと難しいんですよ、有機農業ちゅうのはね。そうすると、そういうことも踏まえた上で、分かった上で檜木委員は質問しているので、増やすべきでしょうと。だったら、もう少し予算も潤沢にしてと言っちゃいけません、足りるようにしたらどうですかと言っているんで、実際携わっていて思うことがあったら、ちゃんと言ったほうが良いですよ。「金さえありや何でもできますが」って、開き直って言ってみたらどうですか。

はい、松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） すみません、大変申し訳ございませんでした。メニューの増大とか、その単価につきましては、今後要望も聞いた上で検討していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（上村和男君） もういいやね。じゃ、ありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、次へ行きます。ページ数180ページ、農業次世代人材投資事業、事業内容に移ります。松永課長から説明願います。

課長。

○農政課長（松永崇臣君） 農業次世代人材投資事業、事業内容について説明をいたします。予算資料の180ページになります。

事業予算額600万円、県費600万円となっております。主な特定財源は農業次世代人材投資資金補助金、県の10分の10となっております。

事業の目的ですけれども、農業従事者の高齢化や後継者不足解消のため、経営の不安定な就農初期段階の次世代を担う青年農業者に対しまして、農業次世代人材投資事業として経営開始資金を交付するものでございます。

事業の内容としましては、県の福岡県新規就農者育成総合対策事業に基づきまして、経営開始資金としまして、次世代を担う農業者になることを目指し、新たに経営を開始する者に資金を交付いたします。令和7年度は、令和5年度の認定新規就農者の2名及び新たな交付対象者2名の計4名の交付対象者を見込んでおります。交付対象者として独立自営就農時に49歳以下の者、交付額としましては1人当たり月12万5,000円、年額にしますと150万円を最長3年間交付することとなります。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） ないですね。そうしたら、次の項目に移ります。181ページ、畜産飼料等価格高騰対策事業算出根拠について、課長から説明願います。

松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは、畜産飼料等価格高騰対策事業算出根拠について説明をいたします。

事業予算額1,004万4,000円で、国費としまして1,004万4,000円となっております。主な特定財源としましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金、国の定額となっております。うち交付金が1,004万4,000円となります。

事業の目的、内容につきましては、ウクライナ情勢や円安等に伴います飼料価格等の高騰により経営に影響を受けています市内の畜産農家に対しまして、支援金を支給するものでございます。

支援金の内容につきましては、乳用牛1頭当たり1万2,000円、肥育牛・繁殖牛1頭当たり1万円、採卵鶏100羽当たり4,000円を支給いたします。算出根拠としましては、交付単価につきましては、家畜を育てて出荷するまでにかかる飼料費であったり燃料費などの経費が、令和6年度も高止まりの状態横ばいに推移していることから、前年度12月補正したときと同じ単価としております。

支援金の内訳ですけれども、まず乳用牛が1頭当たり1万2,000円、見込頭羽数が290頭となっておりますので、348万円となります。肥育牛・繁殖牛につきましては1頭当たり1万円、見込頭数が510頭となっておりますので510万円となります。採卵鶏につきましては100羽当たり4,000円の単価で、見込みが3万6,600羽となっておりますので146万4,000円となります。合計で1,004万4,000円となります。

見込頭羽数につきましては、令和6年10月時点での牛生産農家7農家と養鶏農家3農家における数値でございます。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 質疑のある方は挙手を願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） たしか私、「これやってね」と言っている本人ですから、物価高騰の中で支援が始まって、それはとても助かったというふうに農業者の人に聞いたことがありまして、そういう効果をきちっと把握しながら、去年と同じですかね、これね。もう少し増やすとか何とかちゅうのは考えもしなかったんでしょうか。いや、考えていないなら考えていないでいいので。

はい、課長。

○農政課長（松永崇臣君） すみません、去年の補正したときと同じ時期に考えておりましたので、そこは考えが及びませんでした。確かに上村委員が言われるとおり、この取組については、令和4年から過去、6年度を含めて3回実施しておりまして、確かに畜産農

家さんから喜ばれております。大変助かったというところで言われておりますので、また今後につきましても、財源のこともございますけども、単価についても今後の課題とさせていただきます。と思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） それでは、次に移ります。182ページ、農村環境整備事業、工事内容、分担金の基準について説明願います。

松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは、農村環境整備事業、工事内容、分担金の基準について説明をいたします。

事業予算額6,088万9,000円、県費が1,200万円、その他が372万7,000円、一般財源が4,516万2,000円となっております。主な特定財源としましては、農業農村整備事業補助金、県費10分の4となっております。その他としまして、農業用施設改修事業分担金などとなっております。

事業の目的、内容につきましては、農村地域の活性化と農村の基幹的産業であります農業の振興を図るため、農業用設備の整備・改修を行うものでございます。地元要望に基づきまして、農業用施設であります農道、水路、井堰、ため池等の改修を実施いたしております。

令和7年度につきましては揚水設備改修工事、これは常松になります。次に排水設備補修工事、こちらは馬市と山家のほうで実施いたします。取水設備補修工事、こちらは天山になります。水路補修工事、こちらは吉木と牛島のほうで実施をいたします。頭首工補修工事ということで、これも山口のほうで実施をいたします。その他はそれぞれ要望に基づきまして、小規模改修工事のほうを実施していきます。

次に、分担金の基準についてですが、筑紫野市農林業事業費分担金徴収条例に基づきまして、市が行う土地改良事業、かんがい排水、農道整備、ため池改修等につきまして、市が負担する費用に充てるため分担金の徴収をするものでございます。分担金の額につきましては、国または県から補助金の交付があった場合は、総事業費から当該補助金を差し引いた額の10分の1となっております。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手を願います。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 次の事項に入ります。審査資料183ページ、農業振興地域整備計画策定事業、事業内容、委託内容について説明願います。

松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは、農業振興地域整備計画策定事業、事業内容、委託内容について説明をいたします。予算資料の183ページとなります。

事業予算額506万円、一般財源506万円となっております。うち、全て委託料の506万円となります。

事業の目的、内容につきましては、農業振興地域整備計画とは、農業振興地域の整備に関する法律に基づきまして、地域の農業の健全な発展を図るため、農用地区域を定めて優良な農地を保全するとともに、農業生産基盤の整備に関する事項について定めるものでございます。農業振興地域整備計画では、農用地等の面積、土地利用、農業就業人口の規模などの現況及び将来の見通しについて、必要に応じて計画の見直しを行うものであるため、地域計画をはじめとした各種計画や関係法令との整合を図るとともに、農地の利用状況調査や農業者への意向調査等の基礎調査を実施し、見直し案を基に関係機関等へ意見聴取を行い、計画の策定を行います。

委託の内容としましては、2か年でこの事業委託のほうは実施いたします。まず令和7年度におきましては、農地の利用実態調査、農家の方へのアンケート等の基礎調査、農用地区域管理状況及び地番の確認、関係図面等の作成でございます。令和8年度におきましては、7年度の調査に基づきまして、整備構想の検討、関係機関との協議、整備計画の作成、最終的に農地利用計画図の作成となっております。

以上で説明を終わります。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。ないと困るので私が聞きます。

春口委員、どうぞ。いいですよ。

○委員（春口 茜君） 「農家の方へのアンケート等」と書いてあるんですが、内容がどんなものなのかというのをお聞かせください。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） 各農家の方へのアンケート等の内容についてですが、アンケート調査につきましては、営農されている農家の方へ、農業振興に対する意向を把握するため実施するものでございます。

調査項目としましては、まず営業経営の現状、今、農家さんの経営の状況であったり耕地面積、こういった作付農産物をされているのかという基礎的なことをお聞きします。あと今後の農業経営としまして、意向としまして、今後規模を拡大したいのか、縮小したいのか等、そういった今後の経営についての意向のほうの確認をいたします。

次に、農業振興地域についての理解度ということで、農業振興地域ということ自体を知っているか否かというところもございしますが、今現在の区域の設定とか、適切かどうかというところの意向のほうをお聞きします。

最後に、周辺を含めた将来の土地利用の考えとしまして、周辺の農地は守るべきなのか、また別の土地利用をしたいのかというところの意向調査のほうをいたします。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 佐々木委員。

○委員（佐々木忠孝君） 春口委員に関連してなんですけれども、このアンケートは全営農者さんが対象でしょうか。

○委員長（上村和男君） 課長。

○農政課長（松永崇臣君） アンケートにつきましては、現在営農されている農家全戸を予定しております。

○委員長（上村和男君） ほかにありませんか。

高原委員。

○委員（高原良視君） この調査の分について、まず一つは、法律に基づいている分で補助金が出ないのかという部分が一つと、もう一つは、農業委員会がアンケートも含めて今度の計画の中でしましたよね。それとの関連の分というか、一緒にできるものとか、そういうものもあるんでしょうか。

○委員長（上村和男君） 松永課長。

○農政課長（松永崇臣君） 補助金の関係については調べたんですけども、基本的には補助金が、すみません、ございませんでしたので、もう市の単独での対応となります。

あと、今高原委員が言われましたとおり、地域計画の関係で今、農業委員会のほうが各地元にずっと入ってきております。今回、地域計画の中でも農用地区に入れてほしいとい

うところと、また外してほしいという、確かに意見はございます。基本的にアンケートも取りますので、そういったところのアンケートの結果と、あと地域計画に入っていた農家さんの声等を含めて判断したいと思っております。あと法律上、実際に本当にそこを外してできるのかというところもありますので、農用地区を外すと今度、農地転用とかが可能になってくると、また別の開発ができたりとかありますので、そういったところも気をつけてそこは判断していきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。計画の目的のようなことをもう一度言っていたけます。農家の人にとって役に立つものかどうなのかね。何をやろうとしているのかが不鮮明なので、もう一度説明してください。書いてあることは書いてあるのでそうですが、それは農家の人たちにどういう利益をもたらすつもりなのか、もたらさないのか、何をやるつもりなのかお答えください。

課長。

○農政課長（松永崇臣君） それでは分かりやすく説明いたしますと、この農業振興地域整備計画といいますのが、要は農業振興地域というのがございます。農業振興地域の中に農用地区という、青地って多分聞いたことあると思うんですけども、そういう地区がございまして。農用地区というのは基本的には農地として守る場所でありまして、基本的に転用できないところになります。農家さんにとっては農地としてずっと後世まで残していくところになりますので、農用地区であることによって基本的には補助金の対象になったりしますので、今、多面的交付金とか中山間とかあるんですけども、農用地区に入っていることで、そういう農業者の方には交付金が下りてくるというメリットがございます。

農用地区を外すと今度は、農地転用、要は農地以外のものに転用できる形になりますので、そこら辺が外したことによって、農家さんが別の開発ですね、売ったりとか、そういったところも出てくるということになります。基本的には農業振興地域と農用地区の区域を、端的に言えば見直す計画ということになります。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） はい、いいですか。ずっと考えると、ぞくつとするような計画をつくるんだなというふうに私は思っているので、よろしく願います。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、これで終わったのかね。じゃ、農政課はこれでお帰りで

すから、お疲れでございました。期待が大きいので頑張ってください。

では、しばらく休憩します。

休憩 午後 2 時45分

再開 午後 2 時46分

○委員長（上村和男君） じゃ、休憩前に引き続き会議を再開をいたします。

環境経済部の商工観光課に替わりましたので、平嶋部長から紹介していただいて始めてまいります。

平嶋部長。

○環境経済部長（平嶋顕治君） 皆さん、お疲れさまでございます。

商工観光課の職員が入れ替わりましたので、それぞれ自己紹介のほうをさせていただきます。

○商工観光課長（川口 隆君） 商工観光課長の川口でございます。よろしくお願いいたします。

○商工観光担当係長（武藤智史君） 同じく商工観光課、係長の武藤です。よろしくお願いいたします。

○商工観光担当主任（脇田政司君） 商工観光課、脇田です。よろしくお願いいたします。

○委員長（上村和男君） よろしくお願ひします。

○環境経済部長（平嶋顕治君） それでは、よろしくお願ひいたします。

○委員長（上村和男君） では、経済対策事業住宅改修工事補助事業について、説明を願ひします。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） それでは、御説明申し上げます。

予算審査資料 8 ページを御覧ください。

令和 5 年度決算報告における、令和 7 年度予算に反映すべき事項 6 項目の状況についてでございます。

次に、9 ページを御覧ください。

6 項目中に「経済対策事業、住宅改修工事補助事業の促進・周知」とございます。本事

業は、令和6年度から建築課から商工観光課に所管変更となっております。本事業は、地域経済の活性化及び市民生活の安定を図るため、自己の居住の用に供する住宅の所有者が市内の施工業者によって住宅改修を行う場合に、住宅改修に要する費用の10%相当額で、10万円を上限として補助を交付するものです。

この事業につきまして、決算委員会におきまして、市内建設業者支援の観点から事業の促進を継続し、周知にも取り組み、さらなる経済効果を図る必要があるとの意見をいただいております。この御意見に対しまして、市内建設業者支援の観点から、予算額を令和6年度の1,200万円から令和7年度は1,500万円へと増額し、さらなる周知に取り組んでいくことで、本事業の活用を促し、地域経済の活性化を図るとさせていただいております。本事業は補助上限額を10万としておりますので、令和7年度は30件分の補助件数の上乗せを予定しております。

さらに周知方法は、広報やホームページでの周知や、LINE、XなどのSNSでの周知を行いますが、また、イラストや図などを用いて分かりやすいチラシを作成し、各コミュニティセンターへの配布や、商工会より業者への周知を行う予定としております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方はありませんか。

辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） これは本当に毎年少しずつ増やしていただいて、市民の方からの要望も非常に多くて、6年度で言えば9月過ぎぐらいにもうなくなっていたというところで、後で話を聞いた人が「えっ、もう終わっちゃったの」というところで、確かにそれが市民の方に要望が多いということと、それと対象の工事がかなり増えているということがまだまだあまり周知されていない。特に健康促進改修であるとか省エネの部分ですね、この辺の生活向上改修、この辺がほとんど知られていないような気がします。

この辺のアピールを、今イラストを使ってと言われましたが、各戸に配布できるぐらいのチラシを作られるのかどうか、それが一つと、そうなるとまた途中で足りなくなるかもしれないんですけども、年度途中で補正なりがかけられるような状況にあるのかどうかということと、それと一番問題は、この工事が市内の業者さんを利用することになるんですが、残念なことに見積りを取ってもらったら、市内の業者さんと市外の業者さんで随分差が出てくることがある。相見積りを取ってみた結果、市内の業者さんのほうが高くなってしまいうということ、補助金を幾らもらっても、1割もらっても、なかなかそうはなら

ないんだと。おまけに、市への申請書を作ってあげるからということで、それだけにまた手数料をつけられる方もいらっしゃると思ったので、それはもともとの趣旨とちょっと違うんじゃないかなというのがあるので、その辺の指導がどうなっているのかという、この3点ですね、お尋ねしたいと思います。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まずチラシなどでございますが、基本的に公共施設であるとか、もちろん市役所であるとか、そちらのほうに配布ということを考えておりますので、申し訳ありませんが、今のところは全戸配布という予定はしていないところでございます。ただし、先ほど御説明しましたけれども、ホームページであるとかLINEやXなどでの周知の徹底を行いたいというふうに考えているところでございます。

あと、今回30件の補助の増額という形でさせていただいておりますが、これは9月の27日の日に予算が終了したということで、その後に相談があった件数、予算編成までに相談があった件数が20件ほどございました。その20件に10件上乘せしたところでの予算編成という形でさせていただいております。ただし先ほどおっしゃられたように、それ以上の申込みがもしあった場合は、時間とかの関係もありますけれども、場合によっては9月補正でお願いするとか、そういう形で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

あと、この制度上、経済対策という形を取っておりますので、その関係で市内事業者の方を対象とさせていただいているところです。こちらについては先ほどもちょっとお話ししましたが、商工会さんのほうにも業者の方がいらっしゃいますので、制度の徹底であるとか、そういう形を行っていきたいなというふうに思っているところです。

以上です。

○委員長（上村和男君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 最後の一つ、手続の仲介料を取るようなことがあっているの、その辺はどうなのか。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） すみません、手数料の関係でございますが、こちらについてもチラシ等にそのような旨の、表現は今から検討させていただきたいと思いますが、何らかの指導ができるようなことを考えてみたいなというふうに思います。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） ほかありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　じゃ、この事業は、経済波及効果の大きいこととしてみんな認識しておりますので、頑張っていたかないと、本当に足りなかつたら補正をすることもあり得るというお話ですから、期待しておきますので。

はい、次に行きます。188ページ、紫プロジェクト補助事業、予定事業内容、積算根拠についてお願いします。

川口課長。

○商工観光課長（川口　隆君）　予算審査資料の188ページを御覧ください。紫プロジェクト補助事業の予定事業内容、積算根拠について御説明いたします。

事業予算額は補助金として170万円で、財源は全額一般財源です。

まず事業の目的、内容ですが、筑紫野市商工会が実施される「紫」をキーワードとした以下の取組について、その活動費の一部を補助することで、地域振興や地域活性化の後押しをすることを目的としております。

予定されている事業と積算ですが、むらさき啓発事業として100万円ですが、具体的には、天拝いこいの館内アンテナショップ・つくしちゃんカフェや観月会等イベントやマルシェへの出店による紫の特産品及び紫プロジェクトのPRの実施です。さらには報道、教育機関等を通して広く「むらさきのまち」として普及を図ることなどを予定されております。

次に、紫にちなんだ特産品開発マーケティング事業で40万円。具体的には、天拝いこいの館内アンテナショップ・つくしちゃんカフェへ出品する紫の特産品及び紫のカフェメニューの開発や、紫に関する既存の商品のブラッシュアップ、また、それら商品をカフェで一定期間販売し、マーケティングを実施することを予定されております。

最後に、観光資源研究事業として30万円。既にある観光資源をブラッシュアップするため、各種講習会への参加や先進地等視察研修の実施を予定されております。

参考といたしまして、今までに開発された商品の一例を記載させていただいておりますが、下線部のはふるさと納税の謝礼品でございます。ネクタイ、ペンケース、ハンカチ、筑紫野初月・紫芋の甘納糖、ブルーベリー酢、ブルーベリージャムなど、紫色の衣料や食品等でございます。

御説明は以上です。よろしく御審議をお願いいたします。

○委員長（上村和男君）　説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

段下委員。

○委員（段下季一郎君） この紫にちなんだ特産品開発マーケティング事業、大変すばらしくてよい事業じゃないかなと思っているんですけども、これにマーケティングの費用とか開発の材料費とか、何かいろいろ入っているということで、この金額でできるのかなとちょっと思ったのと、あとコンペとかコンテスト的なものですかね、「こんな商品を開発しました」みたいな、何かそういったものって考えていたりしたら教えていただければ。

以上2点です。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 今おっしゃられている分が、紫にちなんだ特産品開発マーケティング事業で40万円というところですが、申し訳ありません、これは紫の事業をやられている紫プロジェクトさんのほうでやられているところで、40万円で足りているのかとおっしゃられると、なかなかちょっとなところがあるのでございますが、頑張っていたというところで応援したいというふうに考えております。すみません。

あと、コンペ等を実施されているのかということですが、令和4年度に商工会の青年部さんが中心にコンテストを実施されたり、また今年度ですけども、今年度も一応、そういうアイデア募集みたいなものはされてございます。結果的に言うと、特に6年度でそれで商品化につながったというのはなかったようなんですけれども、それを踏まえた上での商品開発というのはされてございます。また、令和7年度以降につきましても、紫プロジェクトさんのほうにも御相談しながら、いろんなアイデアの上げ方というのを一緒に研究していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 2点ございます。

まずは、特産品の開発・マーケティング事業でございますけれども、先ほどの説明ではいろいろとアイデアを募ったけど至らなかったという説明がございましたけど、予算をつけるのであれば、幾つ開発するのとかかですね、まあ、これはまた別のプロジェクトなどであるかもしれないんですけど、やっぱり予算をつける以上、根拠が必要かと思います。結局、予算をつけて開発できなかったということにもなるということなのかというのも説明をいただきたいのと、あとこの商品、それをブラッシュアップする商品もあるということですけど、カフェで一定期間販売をしますと。で、マーケティングを実施すると。この

マーケティングというのは何を指してのマーケティングなのかも説明をしていただきたいというのと、あと観光資源の研究事業として、各講習会への参加、先進市等視察研修というのは、予算がこれだけある、ついているということは、どういうところに行かれるとかって決まってあるんだったら、内容を教えていただきたいなと思います。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まず、マーケティングによる開発の目標数でございますが、申し訳ございません、目標数についてこちらからお示しはしておりませんでしたので、今後、紫プロジェクトさんと一緒に目標数を設定していきたいと思っております。

マーケティングの関係でございますが、まず、令和6年度に和菓子屋さんがギモーヴという、マシュマロなんですけども、卵白を使わないマシュマロということで、こちらのほうを開発されました。これがコーヒーを頼まれるとおまけでついてきて、それを食べていただいて、その感想とかを聞きながら商品化に至ったというふう聞いてございます。また、同じようによかんも開発されてございます。こちらもつくしちゃんカフェのほうで販売されて、皆さんの声を聞きながら販売をされたというふう聞いております。あともう一つ、令和7年度、新しい年度に向けて、商品改良に向けてのアンケートなども取られております。そういうマーケティングをやられております。

あと、先ほど最後言われました先進地や視察というのは、糸島のほうに6年度、視察のほうに行かれております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 令和7年度はこの30万円というのはどういう根拠で出したのかというのをちょっと聞きたいんですよね。令和6年度の実績を聞いているわけではございません。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 30万円もいろいろと、先ほど言いましたような講習会とか先進地に行かれるということで、その旅費と、また参加負担金という形での、そういう使い方をすることでの積算とさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　じゃ、以上でこの項目は終わります。

次に189ページ、地域活性化商品券補助事業、事業内容について説明を願います。

川口課長。

○商工観光課長（川口　隆君）　予算審査資料の189ページを御覧ください。地域活性化商品券補助事業の事業内容について御説明いたします。

事業予算額は3,000万円で、財源は全額、国の臨時交付金です。

事業の目的、内容といたしましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、筑紫野市商工会が発行する地域活性化商品券のプレミアム率を引き続き20%に拡充することにより、家計の負担軽減や地域経済の活性化を図るとしております。

すみません、ここで追加の御説明なんですけれども、「プレミアム率を引き続き20%に拡充する」と表現させていただいておりますが、これは令和2年以降に地域経済に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症対策を、国の交付金を活用して商品券の発行額を3億円、プレミアム率を20%として経済対策を行ってまいりましたが、それ以前の地域活性化商品券の事業規模は、発行額が1億5,000万円にプレミアム率が10%でございました。現在は新型コロナの影響から物価高騰の影響にシフトしてまいりましたが、まだまだ地域経済への影響が続いておりますので、国の交付金を活用してプレミアム率を10%から20%に引き続き拡充をするというふうにさせていただいております。

そのことを踏まえまして、令和7年度の販売総額は3億円、このうち紙での地域活性化消費を1億円、これは1冊1万2,000円の商品券を1万円で販売される予定です。また、キャッシュレス商品券を2億円、紙と同じく1口1万2,000円分の商品券を1万円で販売される予定でございます。プレミアム率は、紙・キャッシュレスともに20%です。

周知方法は令和6年度と同様に、申込み直近の市の広報に併せてチラシを全戸配布——こちらは折り込みでございますが——される予定です。さらにホームページ、SNSにて情報掲載をし、各公共施設でチラシ掲載や配布を行う予定です。

申込み方法は、インターネットもしくははがきによる申込みを想定されているところでございます。

販売時期は夏頃、使用期間は夏頃から秋頃として、現在商工会で調整中でございます。

御説明は以上です。よろしく御審議をお願いいたします。

○委員長（上村和男君）　説明が終わりました。

前田委員。

○委員（前田倫宏君） 補足で説明をしていただきましたけど、何ですかね、この「引き続き20%に拡充する」というのが主語がないので、これは施政方針でもですね、何かパーセントが上がるのか、また金額が増えるのかという、正式には「維持」とかが正しいのかなと私は、ちょっとすみません、思ったので指摘をさせていただきたいというのと、あと今回、地域活性化商品券が1億円と2億円と、紙とキャッシュレスと分けておりますけれども、前回、令和6年度の中で、補正の中でキャッシュレスを1億円追加しましたよね。結局そうなったときに、この今回の通常の予算のときに購入できなかった方が、補正のときに私は優先して買えたほうがいいんじゃないかなと、これはもう公平性のことを考えればですね。そういったところも今後踏まえて考えられているのかを、ちょっとお伺いしたいと思います。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まず最初の表現ですけれども、参考にさせていただいて、表現のほうを検討してまいりたいと考えております。

それから昨年、2回目のプレミアム商品券、ちくしのペイの追加販売を行いました、その際、この2回目の販売というのは、1回目の販売を踏まえた上での購入上限ということを設定させていただいておりました。どういうことかということ、例えば上限は5万円なんですけど、1回目のときに3万円しか買ってない方は、2回目は上限が5万円なので2万円までしか買えませんよ。1回目のときに5万円もう買えた方は、2回目はもう上限に達しているので買えませんよということで設定をさせていただいておりました。そういう形で、1回目にもし買えなかった方のために、そういう設定をさせていただいておりました。また7年度、もし仮にそういう事態があったときには、さらに検討していきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 関連してですね、紙の場合とキャッシュレスの場合ってありますけれども、例えばキャッシュレスを促していくというのは分かります。これはもう市としても、もし相談があった場合は、市民に寄り添って協力していただきたいという思いがあるのと、補正のときはこれはキャッシュレスだけだったんですよね。そういったところも今後加味していくのか、紙で買えなかった方を優先できるようにするのかとか、その辺はいかがですかね。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まず、いわゆるキャッシュレスの推進につきましては、福岡県のほうもキャッシュレスの推進という形で取り組んでおられますので、基本的にはキャッシュレスの取組というのは続けていくという形をしたいと思います。

令和7年度につきましては、今、商工会さんのほうと協議をさせていただきながら2億円、ちくしのペイのキャッシュレスのほうを考えておりますが、上限額をですね、6年度は両方とも、紙もペイも5万円だったんですけども、今度はキャッシュレスのほうは少し金額を下げて3万円なりにして、そうすることによって当たる方を増やしていこう、要するに普及させていこうというふうに今考えているところです。さらに紙につきましては、今のところ市民の方限定にできないだろうかということで、今商工会さんのほうに投げかけて協議をさせていただいているところでございます。そういうふうな6年度からの見直しというのも今検討させていただいているところでございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。

西村委員。

○委員（西村和子君） 私の実感として、筑紫地域というか、南のほうは個人のお店が少なく非常に使いづらかったんですね。数年前はゆめ畑も使えたと思うんですけど駄目ということで、最終日に夜暗くなってからあちこち回ってやっと使え、本当にどうしようかという感じぐらいになったので、使える事業所を増やす努力のところについては、どんなふうにお考えかお尋ねします。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 今委員おっしゃられたように、いわゆる大規模店じゃないところの使えるお店というのは、やはり皆さんも増やしてほしいという御意向をよくお聞きしますので、そこも商工会さんのほうも共通認識をされておりますので、商工会さんのほうと協力しながら、使えるお店が増やせるような取組というのを検討していきたいなというふうに思っております。

○委員長（上村和男君） 山本委員。

○委員（山本加奈子君） ちょっと確認なんですけど、先ほどの説明で、紙のほうは市内に限定しようかという話があったんですけど、これは今までも、ごめんなさい、分かってなかったらごめんなさい、市外の人を買えたんですかね。それとキャッシュレスに関しては、令和7年度も市外の人を買える、よく小郡とかがされているのは知っています、市外

の人も買える。ちょっとそこを確認していいですか。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 紙もペイも、今までは市内外買えました。

○委員長（上村和男君） 春口委員。

○委員（春口 茜君） どれぐらいの方が市外の方で申込みされているのかをお示してください。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 昨年度ですけれども、紙のほうは約12%の市外の方が買われてありました。キャッシュレスのほうは約25%の方が市外の方ということでございます。

○委員長（上村和男君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 何で市外の人にせないかんと。筑紫野市がお金出してするっちゃ。何でせないかんとかな。やめるべきじゃないかいな。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 紙のほうの今回の見直しはやはりそのような、言ってみたら、市内の人が当たらないということで、そういうふうには令和7年度から見直しをしようということでしておりますが、ペイのほうは、筑紫野市の事業者からすると、より多くの方が使っていただいたほうがいいんじゃないかというふうな、商工会さんとの協議でそのほうになってございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） まず、満たしていなかったことは私はないと思うんですよね。要はこの金額を、今から事業として地域活性化商品券を販売しますとなって、低く、その充当率というか、そういうことはなかったはずなんですよ。予算額に対して決算が満たない場合に、そういった市外の方もという、促すという観点は理解はできるんですけど、今、供給額に対して需要額って、申込みに落ちる方はいらっしゃいますよね。二つとも同じですよ。だから、そういう観点がおかしいんじゃないかという話をしているんですよ。市内にすべきじゃないですかね。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

休憩 午後3時17分

再開 午後3時21分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

武藤係長。

○商工観光担当係長（武藤智史君） すみません、去年、キャッシュレスちくしのペイに対して、2億円対しまして2億6,000万の申込みがっております。先ほど課長のほうから25%の市外の方の申込みがあったということで、6,500万円分の市外の方の申込みがあっていまして、1億9,500万円分は市民の方というふうになっております。なので500万円分足りないような状況になっていきますので、需要と供給のバランスからすると、市外の方も申込みを入れられたほうが売れ残りに寄与するのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 西村委員。

○委員（西村和子君） 事業の目的に半分は家計の負担軽減があるわけなので、ここから考えたら、その5市もどこでも使えますよというふうに言われていましたけど、筑紫野市民の家計の負担軽減を図らなきゃいけないということであると、市外の方が使われるとちょっと不都合があるんじゃないかと思うんですよね。なので、申込みができる仕組みのところ、市外の方は御遠慮願うみたいなことはできないんですか。

○委員長（上村和男君） 市内の事業所で買物ができるっちゃろうが、これ。外ではできんじやろ。だけん、「筑紫野市民だけが購入することができます」ということも言えないこともないっちゃろ。

春口委員がちゃんと手を挙げて言いたいちゅってるので、春口委員。

○委員（春口 茜君） ただの地域の活性化なら事業者がもうかるのはいいと思うんですけども、今回は物価高騰対策となっているはずなので、考えると、紙で12%でペイで25%だったら、6,000万ぐらい市外の方に流れている計算になると思うんですけど、やっぱりその6,000万あったら筑紫野市にもっと使えたのかなと思うんですけど、筑紫野市の方に。なのでその点、早くしないといけなかった点はもう重々聞いているんですけども、何か市外の方の制限とかは、今後これを使うんだったらされたほうがいいのかと思うんですけども、その点いかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） そうですね、今おっしゃられるような状況もありますの

で、来年度から紙で導入いたします。今後、ペイについては、今回の7年度の実績であるとかを加味しながら、今おっしゃられたような内容で検討してまいりたいというふうに考えております。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 先ほど係長の説明で、500万は余っていましたよと、結果的にです。2次募集したらどげんですか、市民の方に。補正は組んでいますよね。だったら充足するんじゃないですか、100%に。

○委員長（上村和男君） 赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） 余っている、2次募集したやつも全部含めてこのパーセントということじゃなかったんですかね。最後の追加募集で買ったときは、買えない人……。ああ、あれはペイだったかな。ああ、そうそう、ペイ。そうか、だからペイに関して。

○委員長（上村和男君） 35分まで休憩します。

休憩 午後3時25分

再開 午後3時37分

○委員長（上村和男君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

課長から説明をお願いします。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） キャッシュレスの要件について、いろいろと御意見を賜りました。その中で、市内の方という形で御意見をいただいておりますので、まずは第1次募集につきましては市内の方という形で、商工会のほうと協議をさせていただきたいと思っております。その中でシステム上可能であれば、例えば筑紫野市にお勤めであるとか学校に行っているとかということも、システム上可能であればそういう道もちょっと探してみたいなというふうに……。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） じゃ、春口委員から山本委員、はい。

○委員（春口 茜君） 協議する上でシステムのいろいろな整備があるとすれば、恐らく商工会の職員さんの負担になると思うんですけど、その委託料とかって払われたりしているんですかね。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） すみません、今のこの3,000万円については、プレミアム分の補助という形にさせていただいているところでございます。なので、委託料については今のところは積算はしてございません。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 山本委員。

○委員（山本加奈子君） これ、キャッシュレスのほうは1口1万円からになっていると思うんですけど、前回のときに「1万円も買えない」という御意見があったんですね。

「5,000円にしてもらえないか、じゃないと何も買えないんです」というような御意見もあったので、紙ベースをそれにするとより商工会さんの負担がかかると思うので、キャッシュレスのほうだけでも5,000円から買えるような検討はできないでしょうか。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） キャッシュレスにつきましては、先ほど市内の方という形で今後協議するというふうなお話を差し上げましたので、その協議の中身と一緒に、こちらの分も協議させていただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 先ほど言った分とね、市内に居住しよう、どうのこうのとか、そういうふうなことまでみんなに求めたと。こういうふうにして、あなた言ったのは。そういうふうにして議員の分に諮ったわけ。こういう提案を、修正した提案をされたわけ。誰も受けてないよ。認めてないよ。いやいや、してないよね。いいですか、課長が言われたのは、市内にお勤めとか、そういうふうな関係ね。それから会社が市内にあるとか、そういうふうな要件まで言われましたので、そこの議論のほうにはきちんとなっていないので、そのところは委員長に整理していただければと思います。

○委員長（上村和男君） いいですか。今意見が出ていますので、課長が答弁をしましたが、それはまだみんなとね、「じゃ、そうしましょう」となっていないので、あるいはあなた方の検討の課題としてそういうふうにするということであれば、それを踏まえた上で議論するというふうにしますので、もう一度ちゃんと行っていただけますかね。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まず、先ほどのキャッシュレスの対象者につきまして

は、まずは第1次としては市内の方ということで商工会のほうと協議をしてみたいというふうに考えております。先ほど私が申しましたのは、いわゆるその先の課題としてのことをお話し申し上げてしまいました。すみません。

○委員長（上村和男君）　じゃ、あくまでも、この計画、この事業そのものは、市内在住の方を対象として商品券を販売するというので相談をしていくということですか。それが十分でなかったときには、次の手段としてということですか。

ただ申し上げておきますが、買えなかった人も前回いたのでね、市内在住の人でも買うことができなかった人があちこちおられると聞いていますので、本当に大丈夫かなというふうな気がしているんですけど。

はい、川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君）　まずは市内の方の要件ということで、協議をしてみたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君）　今までとは違ってまいりますので、よろしいですか、皆さんね。じゃ、そういう事業として報告があり、委員会としては、そういう方向で努力をしていただくというふうに確認をしておきますので。

ほかありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　じゃ、190ページ、L P ガス料金高騰対策事業、事業内容に移ります。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君）　予算審査資料の190ページを御覧ください。L P ガス料金高騰対策事業の事業内容について御説明いたします。

事業予算額は6,456万円で、財源は全額、国の臨時交付金です。

まず事業の目的、内容ですが、L P ガス料金高騰の影響を受ける家庭及び事業者の負担軽減を図るため、福岡県L P ガス協会に補助金を交付し、ガス料金の一部を減額するもので、今回で3回目の実施予定となります。ちなみにこの事業は、福岡県が行うL P ガス料金高騰対策事業への上乗せ事業となる予定で、筑紫地区5市統一での仕組みで行いたいと考えております。給付額は1世帯当たり、また1事業所当たり、一律3,000円です。

次に、対象予定者数とL P ガスの販売事業予定者数は、令和6年度に実施した第2回L

Pガス料金高騰対策事業の実績からの想定としておりますが、対象予定者数は、市内でL Pガスを使用している世帯・事業者の1万5,000件、L Pガスの販売事業予定者数は160社と想定しております。

実施方法は、福岡県L Pガス協会を通してL Pガス小売業者に補助することで、使用世帯等の使用料金から減額する仕組みとしておりますので、使用世帯数からの申請は不要となっております。

実施期間は、令和7年6月検針分を値引きする予定です。ちなみに、福岡県は令和7年3月検針を値引きする予定でございます。

御説明は以上です。よろしく御審議お願いいたします。

○委員長（上村和男君） 質疑のある方。

春口委員。

○委員（春口 茜君） 御説明ありがとうございます。事業予算費が6,456万円ということで、事業者数で割ったところ、残りの1,956万円の分がどこに行ったのかなと思ったんですけども、経費に充てられているのかなと思うんですが、明確な使途が示されていないので、その点いかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） いいですか。単なる足し算、引き算のことですから、簡明に答えてください。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 今おっしゃられたものにつきましては、福岡県L Pガス協会を通じての補助の仕組みとなっておりますので、そのL Pガス協会に対する事務管理経費と考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） ちょっと待ってね。春口委員。

○委員（春口 茜君） どうして事務経費が2,000万円もかかるのか、その使途が分からないのでお伺いしているのですが。

○委員長（上村和男君） 受け取って配るわけやろね。

はい、川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） すみません。この事業の積算といたしましては、まず3,000円の1万5,000世帯で4,500万円。そこに160事業者がございますけれども、この160事業者の方が実際、料金を引いたりとかいう作業をされますので、その協力金であるとか

1世帯当たりの手数料ということで470万円。それから残りの金額1,486万円が、先ほど言いましたLPガス協会の事務経費になります。これはすみません、予算書の数字と若干異なるんですけれども、これは予算の積算後に、5市で統一して金額を決めるという形を取ったものですから、若干積算根拠が変わってございます。申し訳ございません。

○委員長（上村和男君） 田中委員。

○委員（田中 允君） これ、市内の業者に限っていないんでしょう。例えば筑紫野市に住んどって、太宰府とか筑前町とかから買ったら、それも3,000円はちゃんと引かれていくちゅうことで、一回は。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 市内の事業者のみならず、筑紫野市にガスを供給しているのは市内外も、県外の事業者もあられますので、そちらも対象となってございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。国からの制度がそうなっていますから、幾らかというのは聞いてもいいですけどね。いいですか。そうですね。国からそういうふうに来てきているのでそうしているんですよね。そう言っていたかないとね、あなたたちが決めたのかと言われるよ。ましてや決めたらね、「予算書とは額が少し違いますから、よろしく」なんて言われると、「何でそげんなつとうとか」ってね、予算委員長としては怒らないかんごとなるけんがね。「国が決めてきたのをそのままやっていますので、こういうずれが生じています」というふうに、ちゃんとしてくださいね。「それをやったのでこうなりました。間に合っていない」と言や、それまでだから。

何か言いたいんだな、山本委員、はい。

○委員（山本加奈子君） さっきのLPガスの事務の分の1,486万円って、例えばこれ、筑紫地区5市でするようになったということで、まあ、ほかの市のことを言ったらいかんけど、5市全部これぐらい払うということなんですかね。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） はい、そのとおりでございます。

○委員長（上村和男君） 赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） さっきちらっと、160社プロパンガスの会社があって、その手続きということだったと思うんですけど、要はその160社全てが3,000円引くのすごい手間がかかるから、そこの一社一社に何か経費として渡しているということであれば、1,400万円を160で割ったら大体10万円行かないぐらいなので、経費としてはかかるのかなとい

う気がするんですけど、そういうことですかね。

○委員長（上村和男君） それは160社に対する事務費として渡すっちゃろね。今聞いているのはそれだから。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） はい、そのとおりでございます。赤司委員が言われたとおりでございます。

○委員長（上村和男君） いいですね。そういうふうにするようになっていきますので。市民のLPガスを使っている人への直接支援ではないで、業者を通じてやるというふうにならざるを得ない面がありますので、私が言うのもおかしいですけど、御理解いただければと思います。

じゃ、LPガスのことはこれでいいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 次へ行きます。観光施設管理運営事業、事業内容に移ります。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 予算審査資料の191ページを御覧ください。観光施設管理運営事業の事業内容について御説明いたします。

事業予算額は590万9,000円で、財源は全額一般財源です。

まず事業の目的ですが、観光振興のための観光関連施設等の維持管理運営を図ることとしております。

次に事業の内容の主なものですが、まず、市民ホール管理委託料として384万2,000円。これはJR二日市駅市民ホールの施設の維持管理業務の委託ですが、具体的な業務は、トイレ消耗品補充管理、コインロッカー・自販機の管理、ポスター・チラシの管理、駅前広場周辺道路清掃、物産紹介展示ケースの管理等です。昨年度の猛暑により課題になりましたエアコンの設置は、令和8年度以降に施設改修工事ができるよう調査中でございますが、当面の間、スポットクーラー設置で対応することとさせていただいております。

次に、管理業務委託料として、施設管理棟草刈り業務委託として57万2,000円、藤棚整備委託料として50万6,000円、観月会、藤まつり等のイベント時により多くの方に来訪していただけるよう、天拝公園やその周辺の草刈り、市管理の藤棚の整備を行うものです。

最後に、杉塚資材置場排水施設設置工事として75万1,000円。これは、観月会、藤まつり等のイベント用の備品置場が杉塚二丁目313番5にあります。雨天時や強風時に隣地

へ泥水や草木等が流れ込んでいるため、排水施設設置工事を行うことで流れ込ませないようにするものです。

御説明は以上です。よろしく御審議をお願いいたします。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

八尋委員。

○委員（八尋一男君） このエアコン設置が令和8年度以降、これを昨年から言うとして何を今調査されているんですかね。そんなに調査するのは時間がかかるんですか。スポットクーラーでは、こんなもんじゃ効き目ないですよと、僕はあのときもしっかり言うつもりですよ。例えばあそこを利用する人たちは、外から暑い中入ってこられるわけですよ。そんなときにスポットクーラーのところに誰がじっと立っておきますか。そんな効き目がないようなもんじゃなくて、何でそのエアコンがつけられんですかね。見解をお願いします。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まずエアコンなんですけれども、市民ホール、以前から抜本的な見直しというのも声が上がっております。そういうものを行うためにも、ちゃんと調査をしながらやっていきたいということで、現在調査としてさせていただいております。ただし、やはり喫緊の課題でもありますので、その間はスポットクーラーというものを設置して対応させていただきたいというふうに考えておるところでございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 以前も質問したかと思えますけれども、物産紹介展示ケースはあります。ただ、販売ができていない。JR二日市駅は筑紫野市の玄関口だと思っているので、地方の方も来られて、足を運んでいただいて、気軽に立ち寄れる場所だと思っております。そういったところも見直していただけるのが、この令和8年度以降の施設改修工事なのか。

あと、もう一点確認で、ホール内のトイレ、新しくなりましたが、清掃はこの運営事業には含まれていないのかも、ちょっと確認させてください。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 市民ホールの中で物産を紹介は差し上げていますけれども、どこで買えるんだということと言われております。過去、物産振興会さんのほうとかでも販売を検討はされましたけれども、やはり人件費等のことがあって頓挫をしております。

すが、今後も検討を続けてまいりたいと思っております。

あと、トイレの関係ですが、トイレにつきましてはこの管理委託料の中で、JRのほうで清掃されてあるところの業者さんに、市民ホールのほうから委託して行っていただいているところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） 山本委員。

○委員（山本加奈子君） 予算書の121ページに原材料費が21万8,000円あるんですけど、この内容をお尋ねします。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

休憩 午後3時59分

再開 午後4時00分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） はい、すみません。先ほどおっしゃられた分は、アジサイ園のアジサイであるとか土であるとかの費用でございます。

○委員長（上村和男君） 佐々木委員。

○委員（佐々木忠孝君） すみません、先ほど前田委員もおっしゃいましたけれども、私もJR二日市駅というのは当市の顔だと思っております。で、物産紹介とか展示ケースの展示されているものの更新サイクル、あまり何か、サイクルが長いような気がしているんですけど、どれぐらいの割合で物産品と展示ケースは更新されているのでしょうか。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 展示ケースにつきましては、1年に1回更新を行っております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） そんなふうに見えないところが面白いところやね。10年間同じように見えて。はい、ほかにありませんか。

一つだけ聞いておきます。市民ホールの見直しはいつ頃から所管課として見直すというような議論が始まったかだけ聞かせていただけますか。去年からですか、それとももう少

し前からですか。私、議員になりたての頃、何回か言ったような覚えがありますので。みんな気づくんですよ、あそこは。

どうぞ、川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 市民ホールの見直しにつきましては、去年とかではなく、以前から議論の対象となっておりますが、なかなか変えることができずにいたところでございます。昨年度、令和6年度も、入ってある観光協会さんとレイアウトを見直しながら、「ここはこういうふうに変えたらどうだろうか」というふうな話はしているんですけども、例えば「自動販売機が多過ぎて観光協会が見えないな」とかいう話もありましたが、そちらについては今後、近いうちに見直しをしたいなということでお話は差し上げているところでございます。根本的な見直しも、今後続けていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○委員長（上村和男君） なぜ急いでいるか、委員がこういうふうにするか分かりますね。筑紫野市の玄関口があのだと、筑紫野市があのだと見られるからです。トイレの改修も皆さんで言ったのは、そのためです。筑紫野市が汚いところ、いいかげんなところと見られないために、玄関ぐらいいきれいにしておきましょうねという、みんなですう言ってきている。もう何年もかかっています。いいですか。だから本当に真摯に取り組んでいただかないといけないことですから、あえて申し上げておきますのでね。担当の所管の課長だから、痛いほどお分かりになっていると思いますので、これ以上は申しませんが、よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） じゃ、次に行きます。192ページ、天拝山観月会、いきいき商工農フェスタ開催補助事業、事業内容に移ります。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 予算審査資料の192ページを御覧ください。天拝山観月会withいきいき商工農フェスタ開催補助事業の事業内容について御説明いたします。

事業予算額は510万円で、財源は全額、一般財源です。うち、負担金補助及び交付金510万円です。

まず事業の目的ですが、二日市温泉と天拝山観月会といきいき商工農フェスタの同時開催に向けて、企画運営を行う実行委員会の活動費として補助金を交付することとしており

ます。同時期に開催されていた観月会といきいき商工農フェスタを令和6年度に同時開催して相乗効果を図ったところ、幅広い誘客につながり、来場者も約5,000人増加したため、同時開催することでさらなる誘客につなげることが期待でき、今後も各種団体とともに市民の輪を広げる祭りとしていきたいと考えております。

次に、事業の内容です。令和6年度の開催日は令和7年10月5日、日曜です。場所は天拝山歴史自然公園とその周辺です。主催は、先ほど言いました天拝山観月会withいきいき商工農フェスタ実行委員会、構成は商工会、観光協会、市、地元区長、二日市コミュニティ運営協議会などです。

イベントの内容は、御神火点火、ステージイベント、お茶会、市内事業者による出店、花火打ち上げなどを予定しております。ただし、令和7年度の具体的な内容につきましては、実行委員会において今後決定していくこととなります。

御説明は以上です。よろしく御審議お願いいたします。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方。

吉村委員。

○委員（吉村陽一君） この内容が、ステージイベントとかお茶会とかいろいろありますけども、大まかで結構なので、予算の内訳とといいますか、そういったところが分かる範囲で教えていただけたらと思います。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 令和6年度の決算額ベースで御報告したいと思いますが、まず総務費として5万340円、それから山頂費、これは2万9,620円、お茶会の費用として10万4,402円、宣伝費39万8,457円、交通整理費137万8,730円、渉外費1,798円、会議費3万円、会場設営費302万3,935円、演芸費101万2,250円、花火費117万7,900円。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） いいですか。吉村委員。

○委員（吉村陽一君） ここにも書いてあるように、来場者数も約5,000人増えているところと、この商工農フェスタと一緒に、とてもいい事業になってきていると。これからも関わる人がどんどん増えてくると思うんですね。昨年の開催した内容の中で、個人の方だったと思うんですけども、例えば竹灯籠であるとかライトアップであるとか、そういったところを個人として関わっていらっしゃる方もいらっしゃるというふう聞いています。

そういったところで、個人が負担する金額が結構大きくなっているというところも伺っておりますので、こういった規模が大きくなってくるとか、関わる人が多くなってくるとか、そういった方向性の中で、予算的にも、そういったことがあるんだったら増額を少し検討する方向性があるのかというところと、そういった声が聞こえてきていないかというところをちょっとお伺いしたいんですが。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 令和6年度の観月会につきましては、観月会を始めて100年という記念の年ということで、今委員がおっしゃられたような竹灯籠のイベントであるとかいうのをやってみました。

やはり事業規模が大きくなると、それだけ費用はかかりますが、市の補助プラス、それぞれの団体さんからの負担金であるとか、あと協賛金、こういうものも活用しながら考えていきたいと思いますが、やはり事業規模が大きくなった場合、市としてどの程度関わりを持つのかというのは、今後また、さらに検討させていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（上村和男君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） なければ次の項目に移ります。

193ページ、本事業は今定例会において補正予算が提案がっております。2月28日に開催されました本委員会において、この集中審査にて、令和7年度筑紫野市一般会計予算及び令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第1号）に係る事業内容説明を併せて受けることになりましたので、よろしく願いをしておきます。

なお、当初予算審査後に行われる補正予算審査においては、所管課が出席しての事業内容説明は行いませんので、補正予算に関しての質疑がある方はこの場で行っていただきますようお願いをしておきます。

それでは、このページの説明を願います。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 予算審査資料の193ページを御覧ください。天拝山展望台リニューアル事業の事業内容について御説明いたします。

この事業につきましては、193ページの予算審査資料をまず御説明した後、補正予算資

料、令和7年度（第1号）の8ページも続けて御説明させていただきます。

事業予算額は6,888万2,000円で、財源の内訳は、国の社会資本整備総合交付金2,568万円、県の宿泊税交付金1,456万円、創生振興基金繰入金2,864万2,000円です。

まず事業の目的、内容ですが、天拝山展望台のリニューアル工事を行うことで観光資源としての魅力を高めることにより、登山客、観光客の満足度を向上させ、交流人口、関係人口の拡大を図ることを目的としております。また、日々多くの登山客、観光客が利用されている展望台は、昭和47年の建設以降、小規模な改修は行っておりますが、経年劣化による壁面・床面の老朽化が進んでいることに加え、外観が無機質であることから景観が良好とは言い難い状況であり、市民や観光協会等からも改善を期待する声が上がっております。

工事の内容といたしまして、木目調タイルやルーバー、手すりを透明な素材にするなど、展望台を歴史と自然をモチーフとしたものへリニューアルするとともに、現在、樹木が生い茂り、眺望が損なわれておりますので、周辺樹木の伐採等による改善も図っていくことも目的としております。

次に予算内訳ですが、12節委託料、樹木剪定業務委託料として468万2,000円、設計業務委託料として530万円、14節工事請負費、補助工事費として5,890万円、最後に、天拝山展望台の現況とリニューアルイメージの写真を添付させていただいております。

次に、補正予算資料、令和7年度（第1号）の8ページを御覧ください。

午前中に財政課から御説明した内容と重複いたしますが、財源内訳を修正させていただいております。日本遺産「西の都」の候補地域への移行に伴い、当初予算で活用を予定しておりました国の社会資本整備総合交付金2,568万円が活用できなくなりましたので、この分の額を創生振興基金繰入金に振替させていただいております。結果、5,432万2,000円とさせていただいております。このことにより、資料中ほどの予算内訳の14節工事請負費が補助工事であったものが、単独工事に修正させていただいております。

本事業は、第七次筑紫野市総合計画で定めております「観光の推進」に欠かせない事業であります。日本遺産の再認定に求められる構成資産の魅力や回遊性の向上等に資するものであります。市民や観光協会などからも改善の声が上がっておりますので、創生振興基金繰入金を充当することで、ぜひとも事業を実施させていただきたいと考えているところでございます。

御説明は以上となります。よろしく御審議お願いいたします。

○委員長（上村和男君） 説明が終わりました。質疑のある方は挙手願います。

高原委員。

○委員（高原良視君） 今説明を受けましたが、この展望台をリニューアルすることで、どのくらいの数の人が増えたりするのでしょうか。

○委員長（上村和男君） 川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 現在、天拝山の登山客の方というのが、数年前の調査であります。1日に平均すると約1,000人程度いらっしゃる、年間で言うと30万人ぐらいいらっしゃるんじゃないかというふうに推測されます。この人数を極力増やすと、まあ倍とはあれなんです、増やしていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 展望台をリニューアルするとそれが増えるという根拠を言わないかんちゃんない。聞きよらすとはそこやけんね。この事業をやることで増えるという根拠は何ねと言ひよる。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） 展望台が47年に造られて、それ以降、大規模なリニューアルというのが行われておりません。このリニューアルを行うことで、天拝山の上の展望台が一つの観光名所、いわゆる観光資源をブラッシュアップするということに寄与いたします。新たにその魅力を増すことによって、山に登ってみようというお客様が増えられると、そういうところを狙ってのところでございます。

○委員長（上村和男君） いっぱい手が挙がったので、段下委員から行ってみよう。はい。

○委員（段下季一郎君） 大変いい事業じゃないかなというふうに思います。で、築50年以上、47年だからもう53年ですかね、コンクリートの寿命が五、六十年だから、そろそろもう更新の時期に来ているのかなというふうには思うんですけども、「西の都」に取消しされて、県のほうが再認定するのかなどということは今から協議していくということだと思っておりますけども、観光振興ということで、温泉と天拝山ということで、観光振興というのはずっとやってきたことなので、こういったことを進めるという点で、周遊性をもうちょっと高める仕組みというのが必要になってくるんじゃないかなというふうに思います。その周遊性を高めるというのが、今回の「西の都」が取り消されたときに指摘されていたことなので、この周遊性を高めるということですね、それをどういうふうに考え

であるのかということをお尋ねしたいというのが1点目。

二つ目が、以前から市民の方が言われていたのが、登山客がすごく多いんですよね。登山口のところにトイレがあるんですけども、そんなに長い時間かかる山ではないんですが、それでもやっぱり高齢者の方とかが登るので、トイレを結構その辺でしている人が多くて、トイレトーパーも結構落ちているみたいな形のものを、以前から市民の方から結構言われたことがあってですね、中腹とか頂上なのか分からないですけども、何かトイレとかそういったことも考えられないのかということをお尋ねしたいのですが、以前御指摘をいただいたことがあります。なので、ちょっとくみ取とか維持・補修とかお金がかかることではあるんですけども、そういった声というのをアンケートとかで集める必要があるのかなと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

○委員長（上村和男君） 関連で質疑があるそうですから、許します。

春口委員。

○委員（春口 茜君） 段下委員の質問に関連してなんですけれども、観光名所ということで周遊ルートの整備は必要だと思うんですけども、今駐車場を整備されていて、車以外の周遊ルートをつくる必要があると思うんですよ。例えばインバウンド観光客に向けた交通手段、天拝山までの交通手段など考えられていますでしょうか。

○委員長（上村和男君） いいですか。そういうことを考えていないと、増えるという根拠にならないんですけど。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まず周遊性の件でございますが、令和5年度に観光ルート整備事業を行い、案内板を整備させていただきまして、JR西側の口から天拝山に向けてのルートを構築いたしました。その中で、三つのお勧めルートをホームページ上でお示しするなどしてルート案内をしております。その最終目的地が天拝山であり、展望台まで上がっていただけるというような、まずはルートの整備を再度行いたいというふうに考えております。

トイレにつきましては、委員仰せのとおり、今はやりの低山ではございます。登ると大体25分から30分ぐらいで登れて、1時間程度で登って下りてという形になりますので、今、登山口のところにトイレがありますので、現時点においてはトイレの整備をこの時点では検討といいますか、中には入っておりませんが、今後、天拝山を含んだところでの活性化というのを進めていく中で、関係団体の方とかの御意見等を聴取する機会をつ

くりながら、その中でも御意見を賜りたいなというふうに考えております。

最後のインバウンドの方の関係でございますけれども、車以外の交通の検討につきましては、まだ形にはなってございませんけれども、レンタル自転車などの活用というの、関係団体と協議しながら検討してまいりたいと。その中でインバウンドの方が、JRのところ、電車で来ていただいたら活用できるようなことも検討していきたいなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 建設されて53年たったというところでございますけど、これは何か計画に基づく更新なのか。要は、文化会館とかだと長寿命化計画とかありますよね、大規模改修とか。これ、鉄筋コンクリートで耐用年数は何年なのかも含めてお答えいただきたいというのと、あと今、トイレの議論も少し出てきています。これは多分、また整備すれば53年以上は、もうトイレは設置できないんじゃないかなというふうに思うんですけれども。

あとは今回、国の「西の都」の認定の取消しの中で活用できない、で基金から出す、市民のお金ですね。というところで一旦、市として、回遊性を高めるとか言いますけれども、今、観光の資源等を一旦整理して、観光の基となる計画であるとか、一旦整理する時期なのかなと思うんですよね。結局、「西の都」の3年の見直しが今後なされます、3年間ですね。それまでに市としてもう一度考えるべきじゃないかなと思うんですよね。その点いかがですかね。

○委員長（上村和男君） しばらく休憩します。

————— ・ ————— ・ —————
休憩 午後4時25分

再開 午後4時28分
————— ・ ————— ・ —————

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

平嶋部長。

○環境経済部長（平嶋顕治君） すみません、申し訳ございません。

耐用年数につきましては、展望台につきましては鉄筋コンクリートでできているんですけど、周りに壁等が今はない状態でございます。むき出しの状態ですね。で、そんななか

8年ほど前に改修工事等を行いまして、まだ現在、今後もあと何十年も使えるという話なんですけど、この今回のリニューアルという中で、まず無機質であるということで、木質化というので、木目タイルを周りに貼りながら、見栄えのいい展望台にしていこうというのがまず構想でございます。

その中で「西の都」の話も出ていたんですけど、まず、「西の都」の落ちる前の話なんですけど、まずは「西の都」として日本遺産と認定されましたので、まず天拝山をどうにかして日本遺産らしいものにしていくというのと、回遊性を高めるというので、令和5年度ぐらいから天拝山をどうしていこうかという話の中で、まず駐車場の整備であるとか、林道というか登山道の整備。それから上がったら分かるとおりに、展望台のほうは老朽化しているよ、さびが結構来ているよとかいう話もある中で、商工会、それから観光協会等々の役員の方とも話をしながら、もっと、まずは回遊性ということで天拝山をよくしていくため、天拝山の日本遺産をよくしていくためにはどうしたらいいのだろうかというので、駐車場を造って、林道を造って、それから展望台を造って。そしてまず登りたくなるような山を整備していこうねという話の中で、まず登ってもらって、あと太宰府天満宮から来られるとかいうことで、天拝山まで行くのには少し魅力がないと駄目よねというので、武蔵寺もあったり、天拝山の展望台を見て、「ああ、行きたいな」というのになるような山づくりとか、そういうのをしていきたいですねというので、うちの上層部の中で話し合いながら、あと地元の関係者、先ほど言った関係者の方たちと、改修工事のほうをしていこうねという話になったところでございます。

今後、外国人の方とかもその中から、今駐車場整備をしているんですけど、太宰府からインバウンド客とかいうのも観光バス等で来られますので、そういう方たちが来て、低山として登りやすい山というので、見て、上がって景色を見る。今の景色が結構、山の木が生い茂っていますので、その辺の木も見やすく、阿志岐方面、それから博多湾方面というのを伐採して、展望台から見やすい、ここからも周りから見ると展望台で、「ああ、あそこに、天拝山の山頂にあるのは何だろうか」というようなものまでをしていきたいなというのが私たちの考えでありまして、そもそもそこで単費でもどうだろうかという話で、上のほうで話し合った中で、何とか行ってみようという話になったんですけど、そこで社交金というので補助金のほうが見つけることができまして。あと、観光庁の予算的にもないだろうかといういろいろ探したんですけど、どうしても、文化財的なものについては出すよという話なんですけど、展望台についてはそういうのがないよというので、社交金というの

が何とか取れるということだから、それを今回併せて上げたところ、日本遺産ではなくなったということで社交金からの分は落とされたという話でございます。

そもそも天拝山の展望台につきましては、どうにかして、皆さんの声の中ではもっと魅力あるもの、あと朝日が見えるようなところとかということによって要望が結構上がっていたので、そこら辺をどうにかしていきたいなど、魅力あるものにしていきたいというのが、そもそもの思いでございます。すみません、よろしくお願いします。

○委員長（上村和男君） 前田委員。

○委員（前田倫宏君） 樹木の伐採の件は、市民から伺っていたというのは、私も伺っておりますのでそれは理解はできます。ただし、今言われた部長の思いというのが、観光計画みたいなものがあれば、市民も「西の都」というのはこういうことだというのが理解できるんですが、そもそも市民にさえ今回の件はよく分かっていないんですよ。だから、そういうのを改めて含めて考えたらどうかという提案で。

というのがこれ、商工観光振興計画にこの総合計画は位置づけられていますけど、平成10年度に策定されていますよね。これから二十何年たっていて、そもそもが、その思いは伝わるのは伝わる、それは分かる。市内の部分も含めると結局、国もその回遊性というのは認められんというのは、それは致し方ないのかなと私は思っています。計画も含めて全て見直すべきじゃないかと。単発で展望台をきれいにしたらいいって、それだけじゃないでしょうという話ですね。だから、そういったものも含めて再度検討したらどうかということはどうですかね。だから、この展望台のリニューアルというのは計画に基づいていないんですよ。特に計画で今後更新していきますとか、そういうのが見えないから、何でということになるんですよ。

だから一度、その「西の都」に関する部分であるとか、市内の総合計画にも物産の部分の売上げとか、温泉の利用客数とか、いろいろ掲げていますけど、そういったものを含めて、もう一度その計画というのを練り直したほうがいいんじゃないですかね。

○委員長（上村和男君） 関連ね。はい、佐々木委員。

○委員（佐々木忠孝君） 今、前田委員もずっと言われていますけれども、私も同感でございます。部長の御説明でも観光資源ってありますので、やはり展望台だけではなく、滞在して、上から景色で筑紫野市を知ってもらいたいというのであれば、やはり水場があって、暑いときの熱中症対応だとか、トイレがあってというのが、あってしかるべきの一つの観光資源という、おもてなしの心というんですかね、そういったものが必要だと思いま

すので、私も計画のほうをもう一度検討されたほうがよろしいかと思えます。

○委員長（上村和男君） 宮崎委員。

○委員（宮崎吉弘君） 関連してるっちゃ関連してるんですけども、3点あるんですがね、先ほど1日の平均が1,000人ぐらい、数年前という話でした。で、年間を通して約30万人というお話がありました。先ほどから答弁を聞いていると、やっぱり観光客を増やすというところが一つの目標になっていると思うんですよ。そう考えると、私は聖岳とか登ったことがありますけど、これは1日平均の1,000人でしかも30万人って、これ以上増えるということになると、結局、天拝山は登りやすい山ではあっても、雨の日とか台風が来たときとかいうのは、ほぼほぼ登らないわけですよ。そしてまたインバウンドとかを視野に入れると、日曜、祭日とか土曜日も含めてですけど、そういったところに集中してくるんじゃないかって予想がつくじゃないですか。

そう考えるとですよ、先ほどから言われていますけども、自転車とか観光バスで来ていただきたいということであれば、駐車場も駐輪場を設けるとか、そういったことも計画的に、前田委員が言われているように、計画をきちんと総合的に考えていただかないと、造ったはいいが、人が来るのに混雑して、インバウンドでトイレも足りなくて、もう集中して、人が渋滞してですよ、山に登るって1回目は来るかもしれんけど、そもそもこの「市民や観光協会からも改善を期待する声が上がっている」って、これ、具体的にどこの誰が言っているかといったら、登山をしている人じゃないかなと思うんですよ。その数字、また戻りますけど、累計になって同じ人が何回も登っているんじゃないかなという。実際、私の知り合いもいるんですけど、「月10回登ってきた」とかね、そういうことを言っている人が結構いるんですよ。私は登ったことないんですよ。なので、この数字自体も何かよく分からんということ。

だから究極何が言いたいかといったら、しっかり総合的に計画を持って、「こういったときはこういうふう」に」という計画性を持ってやらないと、後から不満の声が爆発するんじゃないかなということを私は心配しています。それを言いたかったんです。

○委員長（上村和男君） 西村委員。

○委員（西村和子君） 私もその登山者数については、近隣の方は、朝夕、体力維持のために登るとい方がいらっしゃると聞いているので、ちょっとそこはもう一回、正確な数が必要なのかなと思うんですけど、前田委員が言われているように観光ということで、物産も含めて、総合的に筑紫野の魅力というのを考え直す時期なのかなと。

今朝、ニュースか何かで、佐賀市がコロナ明け、非常に観光客が戻ってきていると。田舎の地方都市なんだけれども、佐賀牛であるとか焼き物とかね、古い町並みとか様々なものが、韓国の方に非常に人気があるというふうにやっていたんですけど、一回、若者とか外国人の意見を聞いてみたらどうかなと思うんですね。どういう天拝山に魅力があるのか、魅力を感じるのかというのは、割と中年から高齢者とか、子ども連れの方とか、そういう方たちではないかなというふうに感じて、どんな魅力をそこに感じるのかというのを調査すべき、もっと広い意見を聞いて総合的に計画をする必要があるんじゃないかなと思います。なので、前田委員が言われたように、観光について総合的に見直した中で、天拝山をどんなふうに位置づけるのかというのを考え直すいいチャンスではないかと思いません。

○委員長（上村和男君） まだいる。じゃ、山本委員の次、赤司祥一委員も言いたいとかいうなら、二人言ったら答弁しましょうかね。

はい、山本委員。

○委員（山本加奈子君） すみません、前田委員のおっしゃっていることに関連するんですけど、会派代表質問のうちも言わせていただいたときの答弁が、「商工観光計画などの改定については、令和7年度に観光分野を含めたシティプロモーションを進める上での指針などを取りまとめる予定としております」という答弁があります。その指針を取りまとめるのはいつなかなと思ったんですね。指針を取りまとめたからでもいいのかなという気もいたしました。計画がない上で進めるのはどうなかなと思ったのと、また、私だけじゃないかと思うんですが、この今回の予算って結構、創生振興基金の繰入金が増えているなと思っていて、後ろの財政課になると思うんですが、今回どれだけ繰入金、創生基金を繰り入れるのかも、ちょっと2点お尋ねしたいです。

○委員長（上村和男君） じゃ、これはもう単発ですから、後ろに。合計するとふるさと創生基金から幾ら繰り入れますか、合計。もうちょっと待ってねという感じ。

まだ休んでいませんので。赤司祥一委員がもう一回聞きますのでね、そうして答えたほうがいいでしょう。

はい、赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） すみません、2点お尋ねします。一つ目が、山頂の部分って、太宰府天満宮が持っているお社があって、僕はこの展望台も所有は太宰府天満宮だと思っていたんですけど、ここの所有がどうなっているのか。それ次第で、例えば何かやるのであれば

れば天満宮との協議があるのかどうかとかその辺りを、どこまでというのと、協議があるのかどうかというのが一つと、二つ目が、この展望台じゃなくて樹木の剪定に関してなんですけど、何か聞いたことあるんですね、昔、展望台に登ったら景色が360度見えていたという話もちょっと聞いたことがあってですね。となったときに、この今回の剪定の468万のほうは、後ろまで全部、何度、360度はないにしても、どのぐらいまで見えるように切るのかというのと、あとはそれと関連して、この展望台、この躯体をそのまま使うということだったと思うんですけど、リニューアルする場合、もっと高さを例えば上げるのか、今の展望台と同じ高さのところで作るのかどうかというのをお尋ねします。

○委員長（上村和男君） いいですか。

川口課長。

○商工観光課長（川口 隆君） まず、赤司委員の御質問に対してお答えいたします。

まず、山頂にあります展望台につきましては、土地は太宰府天満宮の土地ですが、建物については市の建物というふうになっております。

それから、どのくらい剪定をするのかというふうなお話ですけれども、先ほど部長のほうからもお話がありましたように、朝、あそこでラジオ体操をやられてある方たちがいらしゃいまして、その方たちからも、「せっかくだったら朝日が見たい」というふうなお話があったので、東のほう、阿志岐・山家の方面、それから二日市方面、それと博多湾のほう、西側になりますかね。ただし、お社があります側、方向で言ったら基肆城のほうになりますけれども、あちらにつきましては、あの木がお社の防風林になっているというふうなお話もありますので、そこは防風林としての役を残す程度の剪定になるのかなというふうに考えているところであります。

それから、展望台の高さにつきましては、もう躯体はそのままの形で、そこにリニューアルをするという形になりますので、高さについてはもうそのままという形になります。

以上でございます。

続いて、先ほどの計画の関係でございますけれども、山本委員のほうからも言っていただきましたが、まずは令和7年度に、観光分野も含めたところのシティプロモーションを進める上での指針というのを取りまとめたいというふうに考えておりまして、いわゆる商工観光計画、もう物すごく古い計画にはなってございますが、その計画については、それらを含めたところでのほかの計画とも整合性を図りながら、検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（上村和男君） 後ろが何か答えて。

○商工観光課長（川口 隆君） すみません。その取りまとめを令和7年度中に取りまとめたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（上村和男君） じゃ、ちょっと財政課長から、財政問題を。

○財政課長（高木伸泰君） 創生振興基金の繰入金の額でございます。

まず当初予算としましては、2億2,000万円ほどの繰入金を予定していたところがございます。この内訳につきましては、大きくは小中学校のICTということで、タブレット購入について資金がかかりますので、1億8,000万ほどを繰入れを予定していたところがございます。そのほかにつきましては、この天拝山の展望台について、こちらが当初は約2,900万円、それからシティブランディング事業、こちらに1,200万ほど予定をしているところございました。今回、この「西の都」日本遺産の事業に関連する2事業に追加で充てるような形にしましたので、その額が約2,900万になります。合計しますと、約2億5,000万円を繰入れすることとなるところがございます。

こちらにつきましては、令和7年度の予算編成方針の中でも、公共施設の老朽化等で歳出増加が見込まれますので、ある程度基金を活用するというところで方針を設定していたところございました。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） じゃ、あと10分ぐらいになりましたので、本日の会議は延長するようにしますので、程よいところで終わりたいとは思いますが、このままですと延長せざるを得ませんので、延長します。お諮りいたしますので、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君） 延長するということを決定をして、5時まで休みます。

休憩 午後4時50分

再開 午後5時22分

○委員長（上村和男君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

副市長がおいでいただきまして、発言を求められておりますので、発言といたしますか、お話をさせていただきます。

副市長。

○副市長（平嶋義伸君） 皆さん、こんにちは。大変お疲れのところ御迷惑をかけておりますけども、天拝山の展望台の件で、議会として今するべきかという意見があるということです。これを提案しました理由について執行部の意見を述べさせていただきたいというふうに思います。着席してお話をさせていただきます。

天拝山の整備計画につきましては、もともと筑紫野市の観光施設という位置づけがございまして、天拝山から武蔵寺、それから公園という一連の施設の中を、筑紫野市の公園施設として位置づけて整備していったわけですけども、市制20周年——平成5年ぐらいでしたすかね——の頃、天拝山歴史自然公園という計画を立てまして、今売店があるようなところは、もともと公園の区域ではなかったんですけども、用地を買収して、ここを拡張して公園施設として、みんなの憩いの場として提供しようという、そういう計画の下に用地買収もかなり進んできておったんですけども、これが県の、県というか国の補助金になるんですけども、大規模な公園整備については補助金が凍結されている時期がございまして、例えば昭和天皇が亡くなったときに、天皇の公園を造るのに予算が要るからということで、地方に対して予算が回ってこないという事情がございました。それから、飯塚に大きな県立の公園があるんですけども、そういった公園を整備するために各市町村に配る予算の配分がないというような事情があったので、計画はあったんですけども、一旦公園整備というのは終わったというか、そういう状況になっておったんですね。

最近、道路の整備もしまして、非常に観光施設として、公園として、市民の利用者が多いということで、やはりこの辺りを整備して、市の施設、顔として提供したほうがいいんじゃないかということから、今ある、商工会に管理をお願いしておりますけども、公園の利用者に売店を提供してよりどころをつくったり、そのために公園に駐車場の整備も必要だろうということで、今回は駐車場の整備も挙げてもらっております。

それから、天拝山が258メートルという非常に低位な山ということで、誰でも気軽に登れる山だということで、道路の整備もしたほうがいいだろうということで、それも計画の中に組み入れておりました。頂上に行きますと展望台があるんですけども、書物の中には、展望台から見ると、博多湾、それから四王寺、宝満山、それから有明海まで一望できて非常に見晴らしがいい場所だということで、そういった観光の拠点として提供するのに非常に恵まれた場所だということも書かれております。

そういうことで、今まで整備が遅れとった分を今ちょっとさせていただければということなんですが、「西の都」の件がございましたので、単独でもする計画ではあったんです

けども、担当のほうに「何か補助金はないのか」ということで検討させましたところ、「西の都」の指定があったので、それに関連して補助金がもらえますということでしたので、それを当てにしていまして、今回大々的に事業を組んだという経過がございます。

ですので、やはり誰に聞いても筑紫野市の憩いの場所というのは、天拝公園、天拝山、それから総合公園ということで、非常に楽しめる場所がありますよということで、非常に市民の受けがいいものですから、これはひとつ整備したほうがいいんじゃないかということで今回提案させていただいたんですけれども、「整備計画がないじゃないか」という意見もちょっと聞きましたけども、現にある施設ですので、整備計画というのはあまり立てることはないというふうに思っております。それでリニューアルですので、そのリニューアルをどうやるかということきちっと計画すれば足りるのではないかなということで予算組みをしたという経緯がございますので、どうぞ御理解いただければというふうに思っております。

以上です。

○委員長（上村和男君）　じゃ、副市長、お疲れでございました。もうしばらく私たちの中で議論をして、議会としての意見を取りまとめるようにしていきたいと思えます。

副市長に対する質疑がありますか。いいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　執行部の最高意見として今日は聞かせていただきましたということにしておきますので。じゃ、お疲れでした。

○副市長（平嶋義伸君）　どうもありがとうございました。よろしく願います。

○委員長（上村和男君）　しばらく休憩します。

—————・—————・—————
休憩　午後 5 時 27 分

再開　午後 5 時 28 分
—————・—————・—————

○委員長（上村和男君）　副市長からそういうお話がありましたので、その上でどういうふうに進めていくかという議論をしたいと思えますので、皆さんから「これは」というのがあればぜひ意見を聞かせていただいて、なければ私のほうで「こんなふうにしてはどうか」というふうなお話をさせていただき、皆さんの御理解を得たいと思っております。

いずれにいたしましても、どうも観光事業の計画が古いもので、随分昔につくられたま

までありますので、今度の「西の都」の関連する事業としては、そこが十分でなかったのかなというふうに我々も反省すべきではないかと。一緒になって新しい筑紫野市の観光振興策をビジョンぐらいはつくり上げて、その下でもう一度、天拝山の頂上の展望台のリニューアルについて議論したらどうかというふうに思っておりますので、まだ少し、実際的にはあと2年ぐらいはゆとりがあるかもしれんなどいう中ですから、今年1年かけてそういう議論をしてみてもどうかというふうに思っておりますが、皆さんの御意見を聞いた上で、執行部の話を持ち帰っていただければと思いますので、どうですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上村和男君）　じゃ、そのように扱いたいと思いますので、平嶋部長、よろしいでしょうか。それを何か言うてください、持ち帰ってというふうに。

○環境経済部長（平嶋顕治君）　今、委員長のほうから言われましたビジョンにつきまして、執行部としては持ち帰って前向きに検討していきたいと思っておりますので、今後とも御協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

○委員長（上村和男君）　はい。

○議会事務局長（荒金　達君）　今のがちょっと分からなかったんですけども、ビジョンができて、それからこのリニューアル……。ああ、それがなければリニューアル工事ができないという意味で皆さん理解されたんですね。

○委員（高原良視君）　委員長は二、三年かかりますよということだったんですね。

○議会事務局長（荒金　達君）　執行部もそういう認識ですかね。

○委員長（上村和男君）　委員がこういうふうに言っているというのを持ち帰っていただければいいので、だから、この部分についてはどうするか、もう少し、最終的な結論は我々の中の議員間討議と、採決のときに処理をいたしますのでね、この場の展望台のリニューアルに関する結論はそういうことだということできたいと思います。いいかな。いいですか。

○委員（高原良視君）　委員長、よろしいですかね。

○委員長（上村和男君）　はい。

○委員（高原良視君）　今言われた分で、最後のときの締めでということでしたが、そういうふうな形で、昨年みたいに凍結するのか、もう二、三年ということになれば減額するのかということになれば、そのとき減額ということだったら間に合わんごとなりますよね。そこのところも含めた上で、委員長、いろいろお考えください。

○委員長（上村和男君） 分かります、何を高原委員が言われているかね。執行部も分かっているようですから、そういうふうに、最後の結論はそここのところまできちっとしたいというふうに思っています。

いずれにしても、もう少しちゃんとした計画といいますか、あるいはビジョンをつくって、それでその中でリニューアル問題を議論していきましょと。その際には、議会も協力して一緒に進めていきたいというふうに思っていますので、それは伝わるようにしておいてください。

じゃ、しばらく休憩します。

休憩 午後 5 時33分

再開 午後 5 時35分

○委員長（上村和男君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

議題は、先般積み残している二日市コミュニティセンターの建て替えに関する事で、ぜひ執行部のまとまった御意見を聞かせていただきたいということでございます。いろいろともうお聞きになっていると思いますが、意見が委員の中にもございますので、ぜひきちっとしておきたいということから、副市長においで願いました。

では、副市長からお願いいたします。副市長。

○副市長（平嶋義伸君） コミュニティ事業についての考え方をお話しさせていただきたいというふうに思っております。

もともとコミュニティというのは、国が地方分権を行うというところに端を発しているわけで、国から県へ、県から市町村へ、市町村から住民のほうにということで権限移譲することで、これからの運営が、みんなが住みやすいまちができるという、そういった想定の中での事業展開だったかというふうに思っております。ですので、拠点となるところを小学校区単位で一つのコミュニティセンターを建設して、そこで活動をやっていただきたいということで計画を立てておりました。実際、小学校は11校ありますので11必要なわけですが、諸般の事情から七つのコミュニティという位置づけで計画を立てさせていただいておりました。

しかし、それからもう10年、計画から10年たって、二日市コミュニティセンターの建物が非常に老朽化して危険だと。そして、利用者が多いのに建物が非常に狭隘で危険だとい

うことから、建て替えを提案させていただいているということです。小学校では三つの小学校が一つのコミュニティに集まっているということで、できれば三つのコミュニティの施設を造って、それぞれで活動していただきたいというのが我々の基本的な考え方でございます。

まず初めに、二日市コミュニティの建設をしたらどうかということで、場所についても市有地を主体に、考え方を地元提案しながら、どこが利用者にとっていいのかということで検討した結果、旧庁舎の跡地があそこがいいという意見がございましたので、そこを候補地ということで、建設計画を進めるということになってきたわけでございます。

その内容の検討については、何か検討したのかということですが、コミュニティについては補完性の原則という考え方がありまして、やっぱり地域のことは地域で考えると、自助・公助・共助という、その根幹になる自助の部分が、自分たちでコミュニティを運営していくんだという自覚を持ってもらわないと運営ができないんじゃないかということから、場所については市有地でどうですかという検討をさせていただいているんですけども、建物の設計とか利用形態については、地元のコミュニティの方々と協議を進めながら決めていくと、そこを優先しながら決めていくという考え方に立っております。

ですので、コミュニティの規模につきましては、これまで六つのコミュニティを建設してきておりますので、それに見合ったような施設になるのではないかというこちらの考え方で予算規模というものを考えながら、設計、予算というものを上げさせていただいているところでございます。ですので、どうなるかということはまだ何も決まっていないと。ですから補完性の原則でいけば、地域の方々はこれをどう利用するのかと、その前提において計画を進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（上村和男君） この期間の議論の中で、コミュニティに子どもの居場所をつくるですとか、あるいはこども館というような話まで出てきていたものですから、そうしたものをどういうふうにするのかという議論になって、あそこをどういう建物にするかというところまで話が、議論が発展したものですから、どうしたものかというふうになっておりまして、副市長が言われるようなものとしては、単なる二日市コミセンの移転というふうな話になるんだと思いますが、この間のいろんな動きや議論の中ではもう少し進んでいたかもというふうに思っておりますので、それは承知おきしていただきたいと思っておりますね。いいですか。何か部長が言うておくことがあれば、なければもう。

しばらく休憩します。

休憩 午後 5 時41分

再開 午後 5 時43分

○委員長（上村和男君） それでは、再開をいたしますので。

この問題で含めて、全部集中審査を終わったんですね、全部ね。どんなふうにするかを皆さんで意見交換をしますので、今から10分間休んで55分から意見交換をしますので、そして6時40分までには終わりたいと思いますので。

休憩 午後 5 時44分

再開 午後 5 時47分

○委員長（上村和男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

皆さんにお諮りをいたします。今日の委員会はこれにて散会にして、あした1時から再開をいたしますが、そのときに意見交換を行い、討論、採決まで参りたいと思います。あした、もう本当に終わらないといけないのでね。あした延会するわけにはいきませんので、あした1時から行います。お疲れでございました。

散会 午後 5 時48分